

# 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事

図 面 リ ス ト					
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A－00	表紙・図面リスト	A－25	建具配置図（2）	S－01	構造特記仕様書
A－01	特記仕様書（建築新営）その1	A－26	建具表	S－02	配筋標準図1
A－02	特記仕様書（建築新営）その2	A－27	平面詳細図	S－03	配筋標準図2
A－03	特記仕様書（建築新営）その3	A－28	展開図	S－04	配筋標準図3
A－04	特記仕様書（建築新営）その4	A－29	エレベーター詳細図（1）（参考図）	S－05	配筋標準図4
A－05	特記仕様書（建築新営）その5	A－30	エレベーター詳細図（2）（参考図）	S－06	ボーリング図
A－06	特記仕様書（建築新営）その6	A－31	エレベーター詳細図（3）（参考図）	S－07	基礎伏図
A－07	全体配置図・付近見取図	A－32	屋外附帯配置図	S－08	基礎リスト
A－08	部分配置図	A－33	守衛室詳細図（1）	S－09	2階・3階床伏図
A－09	法規チェック（1）	A－34	守衛室詳細図（2）	S－10	4階・R階床伏図
A－10	法規チェック（2）	A－35	部分詳細図（1）	S－11	軸組図1
A－11	平均地盤高算定	A－36	部分詳細図（2）	S－12	軸組図2
A－12	求積図（建築基準法）			S－13	軸組図3
A－13	仕上表			S－14	梁・床・壁リスト
A－14	1階平面図			S－15	架構配筋図
A－15	2階～4階 平面図			S－16	平面配筋図
A－16	1階～3階 天井伏図			S－17	階段・雑配筋図
A－17	4階 天井伏図・屋根伏図				
A－18	立面図（1）				
A－19	立面図（2）				
A－20	断面詳細図（1）				
A－21	断面詳細図（2）				
A－22	階段詳細図（1）				
A－23	階段詳細図（2）				
A－24	建具配置図（1）				





13

屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺

(13.2.2、3) (表 13.2.1)

施工場所	板及び材の種類	屋根の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺き形式	備考
守衛室	※JIS G 3322の屋根用3/4 (O6L0CR-20-AZ150)			・心木なし瓦葺 ○平葺・横葺 ○縦葺	

下葺材料  
※アスファルトルーフィング 940  
○改質アスファルトルーフィング下葺材  
(一層設け、横層材2枚・粘着層付2枚)  
雪止め  
・設置する (図示)

(13.2.2) (13.3.2、3) (表 13.2.1)

施工場所	型式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ※はぜ縁形 ・かん合形 ・	山高 山ピッチ	( )種	※鋼板製 ・7/8×21 ・合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料 ※JIS G 3322の屋根用コイル (O6L0CR-20-AZ150)  
・ ( )  
断熱材 ・有り (種別: 厚さ(mm): 防火性能: 時間)  
・無し  
タイトフレームにJIS G 3322以外の鋼材を直接外気の影響を受けないで屋外用する場合の表面処理 (標準仕様書表14.2.2)による  
・E種  
・F種  
工法 折半のければ納め  
※ければ包みによる方法

といの材種 (13.5.2、3) (表 13.5.5)

種 別	材 種	径	施工場所	備考
	・硬質ポリ塩化ビニル管 ・配管用鋼管			
たてどい	○7/8×21鋼管 (かへ) ○硬質ポリ塩化ビニル管 (カウー) ・竹ひし硬質ポリ塩化ビニル発砲層管	φ89 φ75		艶消
横引	○硬質ポリ塩化ビニル (かへ)	φ50、φ75		

ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量  
※規制対象外  
鋼管製といの防露巻き ・適用する (工法: ※標準仕様書表13.5.4)による  
・適用しない  
とい受金物 材種 ※ステンレス製 ・鋼製 (垂れ込み)  
形状 ※市販品 (とい径100以下) 25×4.5 (とい径100を超えるもの)  
取付間隔 ・  
足金物 材種 ※ステンレス製 ・鋼製 (垂れ込み)  
形状 ※市販品  
取付間隔 ・  
ルーフトレン (13.5.2) (表 13.5.3)

種 別	施工箇所
・ろく屋根用 (・縦型・横型)	
○バルコニー用	
○バルコニー中継用	
○金属屋根工事については、10年間の施工保証とし、保証書は元請業者と施工業者の連名とすること ○工事については、5年間の施工保証とし、保証書は元請業者と施工業者の連名とすること	

④ 保証

14

金属工事

1. あと施工アンカー

(14.1.3)

2. ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

3. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2) (表 14.2.1)

4. 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3) (表 14.2.2)

⑤ 軽量鉄骨天井下地

(14.4.2～4) (表14.4.1、2)

あと施工アンカーの種類

(14.1.3)

引抜き耐力の確認試験

※標準仕様書14.1.3 (1) (エ) による

設計用引張強度

(k N)

種類

施工箇所 (手すり、タラップ、建具以外)

※ H L 程度

・ 銀面仕上げ

・ No.2B 程度

種類

色合い等

施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)

備考

・標準色 ( )

・特注色 ( )

・ ( )

陽極酸化皮膜の着色方法

※二次電解着色

・三次電解着色

表面処理方法

種別

施工箇所 (手すり、タラップ以外)

・ A 種

・ B 種

・ C 種

・ D 種

・ E 種

・ F 種

電気亜鉛めっき

・ E 種

・ F 種

野縁等の種類

(14.4.2～4) (表14.4.1、2)

屋外 (※ 25 形 ・ 19 形) 屋内 (※ 19 形 ・ 25 形)

○屋外の軒天井、ピロティ天井等

野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ○900程度 ・ ( )

周辺部の端からの間隔 ・図示 ○150以内

野縁の間隔 ・300程度 ・ ( )

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合

補強方法 ※図示 ・

○天井のふところ高が1.5m以上3.0m以下の場合

補強方法 ※標準仕様書14.4.4 (8)による ・図示

・天井のふところ高が3.0mを超える場合

補強方法 ※図示 ・

・屋内外への耐震補強

・行う ※行わない

補強箇所 ・図示

補強方法 ・図示 ・

・耐風圧性を考慮した補強 (屋外の軒天井、ピロティ天井等)

・行う ※行わない

補強箇所 ・図示

補強方法 ・図示 ・

⑥ 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3) (表 14.5.1)

7. 金属成形板張り

(14.6.2、3) (表 14.2.1)

8. アルミニウム製笠木

(14.7.2、3) (表 14.2.1) (表 14.7.1)

⑦ 手すり及びタラップ

(14.8.2、3)

モルタル

○現場調合材料 ・既調合材料 (材料: ) (15.3.2、5)

既製目地材

・設ける 施工箇所 ( ) 形状 (※図示 ・ )  
・設けない

床目地

○設ける (目地割り ※2㎡程度 (最大目地間隔3㎡程度) ・ )  
(種類 ※押し目地 ・ )

・設けない

外装壁タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験

※適用する ・適用しない

・防水剤

(品質・性能・試験方法)

建築材料等品質性能による

ラス系下地

・通気工法単層下地  
換気口部の防水処理 ・  
・通気工法二層下地  
・直張りラスモルタル下地  
・直張りラスシートモルタル下地  
・耐力壁、耐火構造、準耐火構造等の指定 ( )

ラスの材料

素材による区分 ( )  
種類 ( )  
単位面積当たりの質量 ( )

・せっこう系 ・セメント系

(15.5.2) (表15.5.1)

⑧ 仕上塗材仕上げ

(15.6.2)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外 ・

仕上塗材の種類

種類

呼び名

防火材料

仕上の形状等

・床付け仕上塗材

・外装薄塗材 S i

・

・砂壁状

・可とう形外装薄塗材 S i

・

・ゆず肌状 (・吹付け ・ローラー塗り)

・外装薄塗材 E

・

・さざ波状

・可とう形外装薄塗材 E

・

・平たん状

・防水形外装薄塗材 E

・

・凹凸状 (・吹付け ・こて塗り)

・外装薄塗材 S

・

・着色骨材砂壁状 (・吹付け ・こて塗り)

・内装薄塗材 C

・

・砂壁状じゅらく

・内装薄塗材 L

・

・京壁状じゅらく

・内装薄塗材 S i

・

・吸放湿性 ・適用する ・適用しない

・内装薄塗材 E

・

・耐湿性 ・適用する ・適用しない

・内装薄塗材 W

・

・床付け仕上塗材

・外装厚塗材 C

・

・吹放し ・凸凹処理 ・平たん状

・外装厚塗材 S i

・

・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし

・外装厚塗材 E

・

・吸放湿性 ・適用する ・適用しない

・内装厚塗材 C

・

・上塗材 ・適用する ・適用しない

・内装厚塗材 L

・

・内装厚塗材 G

・

・内装厚塗材 S i

・

・内装厚塗材 E

・

○複層仕上塗材

・複層塗材 C E

・

○ゆず肌状 ・凸凹処理 ・凹凸模様

・可とう形複層塗材 C E

・

上塗材

・複層塗材 S i

・

・耐水性 ※耐候形3種 ○耐候形2種

・複層塗材 R E

・

溶媒 ※水系 ・溶剤系

・防水形複層塗材 C E

・

樹脂 ※アクリル系 ・

・防水形複層塗材 E

・

外観 ※つやあり○つやなし・リリク

・防水形複層塗材 R E

・

増塗材 ・適用する ・適用しない

・軽量骨材仕上塗材

・吹付け軽量塗材

・

・こて塗用軽量塗材

・

内壁目地部の形状

※V形目地付き ・

(15.6.4)

種類

・ A 種

・ B 種 (仕上材塗り: EP-6 ・B種 ・A種)

(15.7.2)

下塗り ・既調合プラスター (下塗り用) ・現場調合プラスター (下塗り用)

(15.8.3)

上塗り ・既調合プラスター (上塗り用) ・しゅくい塗り

(15.12.2、3)

8. ロックウール吹付け

(15.12.2、3)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

吹付け厚さ (mm) ・図示 ・25 ・

色彩 ・着色 ※原色

1 級建築士 内 田 要

大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号

株式会社 渋江建築設計事務所

佐賀市多布施四丁目3番50号

TEL 0952-24-7211

16

建築工事

1. 防火戸

(16.1.3)

2. 防火建物部品

(16.1.6)

⑨ アルミニウム製建具

(16.2.2～5) (表16.2.1)

性能等級

(16.2.2～5) (表16.2.1)

外部に面する建具

・ A 種 (建具符号: ※建具表による ・ )  
○ B 種 (建具符号: ※建具表による ・ )  
・ C 種 (建具符号: ※建具表による ・ )  
・ D 種 (建具符号: ※建具表による ・ )  
・ E 種 (建具符号: ※建具表による ・ )

防音ドア、防音サッシ

・適用する 遮音性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

断熱ドア、断熱サッシ

○

・適用する 断熱性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

耐震ドア

・適用する 面内変形追随性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

枠の見込み寸法

○建具表による ・

表面処理

外部に面する建具 種別 ・BB-1種 ○BB-2種 (標準仕様書表14.2.1)  
着色 ○標準色 ・特注色  
屋内の建具 種別 ・BC-1種 ○BC-2種 (標準仕様書表14.2.1)  
着色 ○標準色 ・特注色

結露水の処理方法

※図示 ・

水切り板、ざん板

※図示 ・

⑩ 網戸等

(16.2.3)

種類

材種

線径

網目

○防虫網

・合成樹脂製  
○ガラス繊維入り合成樹脂製  
・ステンレス (SUS316) 製

※0.25mm以上

※16～18メッシュ

・防鳥網

ステンレス (SUS304) 線材

1.5mm

網目寸法15mm

性能等級

(16.2.2 (1)) (16.3.2～4) (表16.3.3)

外部に面する建具

・ A 種 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・ B 種 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・ C 種 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・ D 種 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・ E 種 (建具符号: ・建具表による ・ )

防音ドア、防音サッシ

・適用する 遮音性の等級 (・T-1 ・T-2)  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

断熱ドア、断熱サッシ

○

・適用する 断熱性の等級 (・H-4 ・H-5 ・H-6 )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

枠の見込み寸法

・建具表による ・

表面色

・標準色 ・特注色

水切り板、ざん板

※図示 ・

ガラス

※複層ガラス ・

性能等級

(16.2.2) (16.4.2～4) (表16.4.2)

簡易気密型 ・適用する (建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

・S-4 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・S-5 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・S-6 (建具符号: ・建具表による ・ )

防音ドア、防音サッシ

・適用する 遮音性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

断熱ドア、断熱サッシ

○

・適用する 断熱性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

耐震ドア

・適用する 面内変形追随性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

鋼板

材料

めっき付着量

厚さ

・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)

※Z12又はF12 ・

※標準仕様書表16.4.2)による

性能等級

(16.2.2) (16.5.2～4)

簡易気密型 ・適用する (建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

防音ドア、防音サッシ

・適用する 遮音性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

断熱ドア、断熱サッシ

○

・適用する 断熱性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

耐震ドア

・適用する 面内変形追随性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

鋼板

※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被膜鋼板 ・カラー鋼板

鋼板の厚さ

・標準仕様書表16.5.1)による ・

召合せ、縦小口包み板の材質

※ステンレス鋼板 ・鋼板

性能等級

(16.2.2) (16.4.2) (16.6.2～5)

簡易気密型 ・適用する (建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

・S-4 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・S-5 (建具符号: ・建具表による ・ )  
・S-6 (建具符号: ・建具表による ・ )

防音ドア、防音サッシ

・適用する 遮音性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

断熱ドア、断熱サッシ

○

・適用する 断熱性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

耐震ドア

・適用する 面内変形追随性の等級 ( )  
(建具符号: ・建具表による ・ )  
・適用しない

16

木工

⑪ 木製建具

(16.7.2～4) (表16.7.1)

ステンレス鋼板 ※SUS304 ・ SUS430J1L ・ SUS443J1 ・  
表面仕上げ ※H L仕上げ ・銀面仕上げ ・  
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ

建具材の加工、組立時の含水率 ※日種 ・ (16.7.2～4) (表16.7.1)

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量  
※規制対象外 ・  
○フラッシュ戸  
表面材の全板の種類

全板の種類	規格等	備考
※普通適合板	○	表面の樹種 ・生地、透明塗料塗り (※7/8程度 ・ ) ・不透明塗料塗り (※1し程度 ・ ) 板面の品質 ( ) 接着の程度 (・1類 ・2類)
・天然木 化粧合板	○	樹種名 ( ) 接着の程度 (・1類 ・2類)
・特殊加工 化粧合板	○	化粧加工の方法 (・オバーレイ・プリント・塗装) 表面性能 ( ) タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類)

表面板の厚さ ※表16.7.6)による ・

・かまち戸  
かまち樹種 ( ) 鏡板樹種 ( )  
見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・  
・ふすま  
張りの種別 (・I型 ・II型)  
上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 ・押入等の裏側は雲花紙程度  
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁 (素地) ・生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)  
見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・  
・戸ぶすま  
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・  
・紙張り障子  
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・  
枠、くつずりの材料 ○建具表による  
・マスターキー ※製作する (※新規 ・既存にあわせる) (16.8.2～4) (表16.8.1)  
※シンダー箱錠 ○図示  
※レバーハンドル 材質 ※アルミニウム合金 ○ステンレス ・黄銅  
座金 ※丸座 ・長座  
・握り玉 材質 ※ステンレス  
○本締り錠 (性能)  
建築材料等品質性能による  
○空錠  
※レバーハンドル 材質 ※アルミニウム合金 ○ステンレス ・黄銅  
座金 ※丸座 ・長座  
・握り玉 材質 ※ステンレス  
○シンダーサイド ※外側シンダー、内側サムターン ・  
・耐じり性能  
レバーハンドルの材質 ※亜鉛合金 ・ステンレス  
製造所 ※図示  
・ピボットヒンジ  
カバー部の材質 ※ステンレス ・亜鉛合金  
○フロアヒンジ  
・Grade1 ※Grade2  
カバー部の材質 ※ステンレス  
・ヒンジクローザー (丁番型)  
材質 ・鋼 (焼付け塗装)  
・ヒンジクローザー (ピボット型)  
材質 ・鋼 (焼付け塗装)  
○ドアクローザー  
・Grade1 ※Grade2  
材質 ※アルミニウム合金  
○押棒、押板  
材質 ○ステンレス ・黄銅 ・合成樹脂  
・アームストッパー  
材質 ・鋼 (クロームめっき) ※ステンレス  
○戸当り  
材質 ※亜鉛合金程度 ・ステンレス ・黄銅  
おとり止め (フック) 付き ・適用する ・適用しない  
○クレセント  
材質 ※建具製造所の仕様による  
・縁燈オベレーター (※埋込 ・露出)  
・樹脂製建具に使用する丁番 ※表16.8.3)による ・

引き戸用駆動装置 (16.9.2、3)

性能値 ※標準仕様書表16.9.1

・種類、開閉方法 ( ) ・耐電圧 ( )  
・温度上昇 ( ) ・耐久性 (サイクル) ( )  
・防錆 ( ) ・電源 ( )

多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置

性能値 ※標準仕様書表16.9.2

・耐電圧 ( ) ・温度上昇 ( )  
・耐久性 (サイクル) ( ) ・防錆 ( )  
・電源 ( )

引き戸用検出装置

性能値 ※標準仕様書表16.9.3

・耐電圧 ( ) ・防錆 ( )  
・防滴 ( ) ・電源 ( )

戸の開閉方式

・建具表による ・

引き戸検出装置の種類 標準仕様書16.9.4

・建具表による ・

凍結防止装置

・適用する ・適用しない

性能値等 ※標準仕様書表 16.10.1 (16.10.3) (表16.10.1)

・手動開き力 ( ) ・手動閉じ力 ( )  
・閉じ速度の調整 ( ) ・制動区間 ( )  
・開閉繰返し ( ) ・耐衝撃性 ( )

1 級建築士 佐賀県競馬組合

大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号

株式会社 渋江建築設計事務所

佐賀市多布施四丁目3番50号

TEL 0952-24-7211

新きゆう務員宿舎C棟新築 (建築) 工事

特記仕様書 (建築新営) その3

縮尺

A1版: ー  
A3版: ー

設計

年 月 日

図面番号

A

03



19

(続き)

⑫断熱材

☑

フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放散量  
※規制対象外

○断熱材打込み工法

種類	厚さ (mm)	備考
・ビーズ法 <sup>※</sup> リフレフォーム断熱材	・	
○押出法 <sup>※</sup> リフレフォーム断熱材 (スチ層なし)	・ 図示	

○硬質ウレタンフォーム断熱材

・ 70<sup>※</sup>フォーム断熱材

・

施工箇所

・ 床版 (・ 屋根スラブ下) ・ 接地床 (7-01-2) ・ 図示)

・ 壁 ・ 外壁内側部分 (7-01-2) 但し、下記を除く  
倉庫、便所、設備室、湯沸室、車庫、書庫、 ( )

・ ( )

○断熱材現場発泡工法

断熱材の種類 ※A種1 ○A種1H

厚さ (mm) ・ 25 ・ 30 ※図示 ○40、○50)

施工箇所 ○図示

※窓周り等の断熱材補修部分、ルーフドレン廻りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所

・断熱材充填工法 ・ 図示

※乾式通気二重床用床下地材 (樹脂製支柱式)

BL認定及び建築物の通気性能基準と設計指針 (第2版) (日本建築学会) で規定する「床面騒音レベルに関する適用等級」2 級程度を有するものとし、製造所の仕様による

施工箇所	床仕上材天端高さ	通気性能 (スラブ厚150mm)
・ 堂下地	・ 150 ・ 180	軽量床面騒音 重量床面騒音
・ 70 <sup>※</sup> タイプ 類下地	・ ( )	※LL-50 ・ ( ) ※LH-55 ・ ( )

下記に示す製造所の商品程度とする ( )

種別	Tバーの材質	備 考
・ ラインタイプ	・ シングル	・ アルミニウム製
	・ ダブル	・ 鋼製
・ ロ型タイプ		

下記に示す製造所の商品程度とする ( )

材質	幅	備考
※ 硬質塩化ビニル	※ 300	断熱材を裏打ちしたもので
・ アルミニウム製 (準不燃品)	・ 100	付属品の材料は主製造所の仕様による
・ ( )	・ ( )	

・ 植物骨材配合散布型美装床仕上材

一体型無機系硬質床仕上材

コンクリート同時散布工法 (コンクリート打設同時施工)

厚さ 約1.2～1.5mm

(1) 下地 (生乾きコンクリート)

(2) 主材 (散布)

20

(続き)

2. 可動間仕切り

3. 移動間仕切り

4. トイレブース

5. 視覚障害者用床タイル

6. 階段滑り止め

7. 床目地枠

⑧ 手すり

9. 黒板及びホワイトボード

10. 鏡

11. 煙突ライニング

12. ブラインド

(20. 2. 3)

構造形式	構成基材の種類	総厚さ (mm)	表面仕上材	防火性能	備考
・ スタッド式 (内蔵)	スタッド	パネル	・ 鋼板 ※0.5 以上	・ ※防火樹脂被付又は 77 <sup>※</sup> 樹脂被付	・ 不燃
・ スタッド式 (露出)			・ 鋼板 ※0.5 以上	・ 77 <sup>※</sup> 樹脂被付	・ 壁紙張り
・ パネル式					
・ スタッドパネル式					

中心周波数500Hzの音についての透過損失 (dB)

・ 36未満 ・ 36以上

パネル内に取付ける建具 ・ あり (※図示 ・ ) ・ なし

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による

ガラス留め材 ※ガスケット ・ シーリング

パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

(20. 2. 4)

構造形式	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材	遮音性 (db/500Hz)
・ 平行方向 移動式	・ 手動式	・ プッシュ式	※60程度	・ 鋼板	※焼付塗装 ・ 壁紙張り
・ 二方向 移動式	・ 電動式	・ ハンドル式	・ 100程度	・	・ 36未満 ・ 36以上
	・ 部分電動式	・	・		

パネル表面仕上材の壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による

遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする

ハンガーレールの取付け下地の補強

※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。

・ 図示

移動間仕切りの壁面当たり枠 ※適用する (製造所の仕様による) ・

ランナー ※パネル重量の5倍の荷重をパネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。

(20. 2. 5)

表面材の種類	色柄	脚部形状	ドアエッジ、形状
※メラミン樹脂系化粧板	※無地	※幅木タイプ	※標準
・ ポリエステル樹脂系化粧板	・ 柄物	・ R	・ アルミニウム製
			・ ステンレス製
			・ 表面材と同材

吊り方式 ※中心吊、戸当たり付 ( )

パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

(11. 2. 2) (19. 2. 2)

施工箇所	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)
屋内	・ 塩化ビニル製	※300×300	・ 7.0 ・
	・ セラミックタイル	※300×300	※17程度
	・ レジンコンクリート製	※300×300	・ 30 ・
屋外	・ セラミックタイル	※300×300	※17程度
	・ レジンコンクリート製	※300×300	・ 30 ・
	・	・	・

視覚障害者用ブロック等の突起の形状及びその配列は JIS T 9251 による

・ 樹脂系点字紙 (タイルカーベト用)

寸法 ・ 300角 ※500角

色 ※黄色

樹脂系点字紙の留付は、両面からの挟込みホック式または接着式

(20. 2. 6)

材質	幅 (mm)	取付け工法	端部フラットエンド
※ステンレス製 (SUS304)	※約35	※接着工法	※あり
樹脂製ゴムタイプ入り	・	・ 埋込み工法	・ セビニル製
			・ ステンレス製
			・ なし
			・

(20. 2. 7)

床仕上の異なる箇所には目地棒を入れる

※ステンレス製口型 (幅40程度 A1.5) 4-31-1

・ ステンレス製 6×12 ・ 黄銅製 6×12 4-31-2

形式	径	材質	仕上
・ 1 段	※35φ	※タモ	※QL
※2 段	※35φ	・	・

・ 既製手すり (樹脂製)

形式	径	ブラケット	備考
・ O 型 (1 段)	※40φ	アルミ合金製 (心材共)	指づめ防止材共
・ O 型 (2 段)	※34φ	・	・

点字表示板 ( ) 箇所

JIS T 09211に基づく点字の表示原則及び点字表示方法による

※ポリカーボネード製 大きさ 120×150程度 厚み 0.1程度

・ 塩化ビニル 大きさ 100×125程度 厚み 0.1程

(20. 2. 8)

種類	寸法 (mm)	色彩	形式
・ 黒板	※換付け	※緑 ・ 黒	・ 平面 ・ 曲面
・	・	・	・ スリット付引分
・ ホワイトボード	ほうろう	白	※平面 ・ 曲面
			・ スリット付引分

(20. 2. 9)

取付箇所 ( )

寸法 (mm) ・ 図示 ・

厚さ (mm) ※5 ・

(20. 2. 11)

・ 煙突用成形ライニング材

適用安全使用温度 ・ 400℃ ・ 650℃ ・

・ キャスタブル耐火材

煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

(20. 2. 12)

形式	操作方法	種類	スリットの材質	スリットの幅 (mm)	スリットの深さ (mm)	寸法	取付箇所
・ 横型	・ 手動	※ギヤ式	※アルミニウム	※25	※鋼製	・	・ 図示
	・ コード式	・	合金製	・	・	・	・
	・ 操作棒式	・	・	・	・	・	・
	・ 電動	・	・	・	・	・	更衣室
・ 縦型	・ 手動	※2本操作コード式	・ アルミスラット	・ 80	アルミニウム合金製	・ 図示	・
	・ 1本操作コード式	・	・ クロススラット	・ 100	・	・	・
	・ 電動	・	・	・	・	・	・

アルミスラット 焼付け塗装仕上げ

クロススラット 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 ☑

(20. 2. 13)

材質	操作方法	遮光性	寸法 (mm)	取付箇所	備考
※ポリエステル	・ 電動式	・ 1 級	・ 図示	・ 図示	
・	・ スプリング式	・ 2 級	・	・	
・	※チェーン式	・ 3 級	・	・	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。

(20. 2. 14) (表20. 2. 1)

形式	開閉操作	ひだの種類	商品名 (程度)	取付箇所	備考
・ シングル	・ 方引き	・ フランスひだ		・	
・ ダブル	・ 引分け	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	・ 図示	
	・ 電動	・ ブレーンひだ、片ひだ		・	
・ シングル	・ 方引き	・ フランスひだ		・ 図示	
・ ダブル	・ 引分け	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	・	
	・ 電動	・ ブレーンひだ、片ひだ		・	

使用される繊維のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する製品については ☑ とする

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上 ・

(20. 2. 14)

材 種 ※ アルミニウム製 ○ ステンレス製

形式

・ シングル ○ ダブル

・ 片引き ○ 引分け

強さによる区分 ※10-90

仕上り ※アルマイト

形状 ※角形

薄型×深さ (mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示

材質 ・ 集成材 (仕上り: )

※アルミニウム製 押出し型材 (市販品)

種別 (標準仕様書表14. 2. 1)

・ B0-1 ・ B0-2

色合い

・ 標準色 ( ) ・ 特注色 ( )

・ 鋼製 (仕上り: )

(20. 2. 14)

材質 ※アルミニウム押出形材形状型 ( )

※シルバー ・ 焼付 ( )

施工箇所 ※図示

(20. 2. 14)

材質 ※アルミニウム押出形材

施工箇所 ※仕上りによる ( )

(20. 2. 14)

材質 ※アルミニウム押出形材

※フック 耐荷重30kg程度 2個/ノ

材質	寸法	形式	外枠	内枠
※アルミニウム製	※450×450	○一般型	○屋内外用	・ 縫縁タイプ
・	・ 600×600	・	・ 屋内用	○目地タイプ
・	・	・ 気密型	・	○目地タイプ

(品質・性能・試験方法)

建築材料等品質性能表による

(20. 2. 14)

材質	寸法	形式	備考
・ アルミニウム製	・ 450×450	※一般型	○屋内外用
○ステンレス製	※600×600	○密閉型	※屋内用
・ 鋼製	・	・ 結露防止型	※縫なし

(品質・性能・試験方法)

建築材料等品質性能表による

合板類、MDF、パーティクルボード、接着剤及び塗料のホルムアルデヒドの放散量

※規制対象外品 ・ 第三種品

(20. 2. 14)

材質	仕上	寸法	扉	表示
※鋼製	※焼付塗装	※W300×H900程度	※有り	※絵・文字表示
・	・	・	・	・

(20. 2. 14)

材質	受け枠	備考
・ 塩化ビニル又はゴム製	※ステンレス鋼 (SUS304)	
・ 硬質アルミニウム合金製	・ 硬質アルミニウム合金	
※ステンレス鋼 (SUS304) 製	・	
(ノンスリップ型)		

(20. 2. 14)

※優良住宅部品 (セクショナルキッチン) ・ ( )

上板及びシンク底部はステンレス製、単槽シンク、トラップ付

寸法	開戸	引き出し	備考
・ W1200×D550～600×H800	※3枚 ・ ( )	※1段 ・ ( )	
・ W1500×D550～600×H800	※4枚 ・ ( )	※1段 ・ ( )	サイドパネル付
・ W1800×D550～600×H800	※4枚 ・ ( )	※1段 ・ ( )	

(20. 2. 14)

※優良住宅部品 (セクショナルキッチン) ・ ( )

テーブルトップはステンレス製、バックガード (※有り・無し)

寸法	開戸
・ W700×D550～600×H620	※2枚 ・ ( )
・ W600×D550～600×H620	※1枚または2枚 ・ ( )

(20. 2. 14)

※優良住宅部品 (セクショナルキッチン) ・ ( )

寸法	開戸	棚板
・ W900×D350～450×H500	※2枚 ・ ( )	※1段 ・ ( )
・ W600×D350～450×H500	※2枚 ・ ( )	※1段 ・ ( )

(20. 2. 14)

※既製品 ステンレス製一般型 ( )

(20. 2. 14)

※市販品 (レンジフード) ( 参考商品名: )

・ 標準詳細図6-11-2 ステンレス板厚 ※0.4 ・ 1.0

材質	形式	高さ (mm)	操作方法	固定方法	備考
※アルミニウム合金製	・ テーバー式		・ ハンドル式	・ 埋込式	
・	・ 間一断面式		・ ロープ式	・ ハンド式	
・	・		・	・	

(20. 2. 13)

13. ロールスクリーン

(20. 2. 14)

14. カーテン

(20. 2. 14)

⑮カーテンレール

(20. 2. 14)

16. ブラインドボックス及びカーテンボックス

(20. 2. 14)

17. コーナービード (壁&ド 出隅保護金物)

(20. 2. 14)

⑮天井見切縁

(20. 2. 14)

19. ピクチャーレール

(20. 2. 14)

⑮天井点検口

(20. 2. 14)

⑮床点検口

(20. 2. 14)

22. 造作家具

(20. 2. 14)

23. 消火器ボックス

(20. 2. 14)

24. くつろぎマット

(20. 2. 14)

25. ステンレス流し台

(20. 2. 14)

26. コンロ台

(20. 2. 14)

27. 吊戸棚

(20. 2. 14)

28. 水切棚

(20. 2. 14)

29. フード

(20. 2. 14)

30. 旗竿

(20. 2. 13)

31. 旗竿受金物

(20. 2. 13)

32. 車止め支柱

(20. 2. 13)

33. フェンス

(20. 2. 13)

⑮屋内掲示板

(20. 2. 13)

35. 敷地境界標

(20. 2. 13)

⑮耐震スリット

(20. 2. 13)

⑮止水板

(20. 2. 13)

38. エキスパンション・ジョイント金物

(20. 2. 13)

39. プレキャストコンクリート

(20. 2. 13)

40. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20. 2. 13)

材 種 ※ ステンレス製 (SUS 304) ・

形式	材質	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)
・ 上下式鎖内蔵式	・ 標準品	・ ステンレス製	・
・	・ スプリング式	・	・
・			

下記に示す製造所の商品程度とする (樹脂塗装メッシュフェンス)

種類	取付方法	寸法	枠の材質	備考
・ ビンタ	・ メーカー仕様	・ 900×1200	・ アルミ製	
・ ビンタ	・ 併用	○600×900	○ステンレス製	

○構造図による

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・ 垂直方向	※完全 (金貫通型)	・ 耐火壁	・ 有り	
・ 水平方向	・	・ 非耐火壁	・ 無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ シーリング材 (見え掛かりのみ)	・ シーリング材 (見え掛かりのみ)
	・	・ シーリング材 (内外共)

目地寸法 (幅×深さ) ・ 20×10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9. 7. 2による

形 状 ・ 差込式 ○ 据置式 ・ 壁張り式

施工箇所 ○図示 ・

材質	クリアランス	耐火性能	備考
・ アルミニウム製	・ 50 ・ 100	・ 有り ( )	
・ ステンレス製	・ 150	・ 無し	

外部は防水型とする

コンクリートの設計基準強度 (20. 3. 3～4)

※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/ m<sup>3</sup>を満足する調査強度

・ 図示

配筋

※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。

・ 図示

取付け方法

※図示

(20. 4. 2～3)

材質	種類	質量区分	備考
・ 間知石	・ 花こう岩	―	―
	・ 凝灰岩		
・ コンクリート	―	・ A ・ B	

積み方 ※谷積み ・ 布積み

目塗り ・ 図示

目地 ・ 図示

厚さ ・ 図示

20

ユニット及びその他工事

1. フリーアクセスフロア

(20. 2. 2)

施工箇所	寸法 (mm)	高さ (mm)	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考
	※450角以上	※100	※3000	・ 帯電防止床タイル	
	600角以下	・ 120	・ 5000	※タイルベット	
	・			・	
	※450角以上	※100	※3000	・ 帯電防止床タイル	
	600角以下	・ 120	・ 5000	※タイルベット	
	・			・	
	※450角以上	※100	※3000	・ 帯電防止床タイル	
	600角以下	・ 120	・ 5000	※タイルベット	
	・			・	

適用地震時水平力 1 階及び地階 ※ 0. 6G以上

中間階 ( ～ 階) ※ 0. 6G以上 ・ 1. 0G以上

最上階 ( 階) ※ 1. 0G以上

帯電防止床タイル ・ 直数タイプ ・ パネル一体タイプ

(パネル一体タイプ以外の仕上材材は別途内装工事とする)

寸法精度

※標準仕様書20. 2. 2. 2 (オ) (a)～(c)による ・

厚さ ±0. 5mm

平坦度 パネル周辺部 1. 0mm以下

圆心と各頂点を結ぶ線上下 2. 0mm以下

表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。

床パネルの材質 ※防火合金<sup>※</sup>材製、防火<sup>※</sup>製又は複合材等

構成材の材質 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 (仕上り: ) ・

スロープ及びボーダー ※製造所の仕様による ・ 図示

配線用取り出しパネル

フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※50%以上 ・ 20～30% ・

配線取り出し開口 ・ パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口箇所以上

・ 図示

空調用吹き出し (吸込み) パネル ・ なし ・ あり (形式、施工箇所: 図示)

(性能・試験方法)

※適用しない

ローリングロード性能

所定荷重 1. 000N (5. 000Nの積載荷重は1. 000N以上 (任意)) による繰り返し試験後、残変形量 3. 0mm以下であること

(パネル面に目視による著しいわだち及び損傷がないこと。かつ、使用上有害な

がらつきがないこと)

・ 2 重床用接合アウトレット用開口

適用室 ( )

開口の数 フロア面積8m<sup>2</sup>につき1ヶ所かつ予備開口を14m<sup>2</sup>につき1ヶ所

開口の大きさ

コンセント (電源) : 2P15A接地極付×2

情報用モジュラージャック (電話) : 8線8芯×1

の入ったアウトレットが納まる大きさ

取付方法 フリーアクセスフロア製造所の仕様とする

21

排水工事

①屋外雨水排水

(21. 2. 1、2) (表21. 2. 1、2)

材料	管の種類	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管 (1 種)	・ B 形管	・ 図示	
・	・	・	・	
○硬質ポリ塩化ビニル管	③P		※図示	
	・ VU		※図示	
	・ RS-VU		※図示	

基礎の厚さ ・ 図示

・ 呼び径300以下は100mm、呼び径300を超える場合は150mm

基礎の種類 ・ 図示 ・ 砂地素

※砂利地素

硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 ・

側溝の形状及び寸法 ・ 図示

排水網の種類 ○図示 ・

砂地素に用いる材料 ・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂

砂利地素に用いる材料 ・ 再生クラッシャーラン ☑ ・ 切込砂利又は切込砕石

・ 現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ※18N/mm<sup>2</sup> ・

・ 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295A

・ 現場打ちの場合の足金物 ※標準仕様書21. 2. 2 (6) (オ)

材質 ・ ステンレス製 ・ 鋼製 ・ 合成樹脂被覆加工されたもの

(21. 2. 1)

鉄鉄製ふた

(21. 2. 1)

形状及び寸法等 ※図示

(21. 2. 1)

グレーチング

形状及び寸法等 ※図示

(21. 3. 1、2) (表21. 3. 1)

種類、形状及び寸法等 ※図示

地素の材料 ・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂

砂利地素に用いる材料 ・ 再生クラッシャーラン ☑ ・ 切込砂利又は切込砕石

砂利地素の厚さ ※100 (mm) ・ 図示

・ 現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ※18N/mm<sup>2</sup> ・

(21. 2. 1)

表3. 2. 1「埋戻し及び盛土の種類」による ※ B 種 ・

(21. 2. 1)

設計変更年月日

1 回 年 月 日

2 回 年 月 日

3 回 年 月 日

1 級建築士 内 田 要

大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号

株式会社 浜江建築設計事務所

佐賀市多布施四丁目 3 番 5 0 号

TEL 0952-24-7211

工事名

新きゆう務員宿舎C棟新築 (建築) 工事

図面名

特記仕様書 (建築新営) その 5

縮尺

A1版: ー

A3版: ー

設計

年 月 日

1 級建築士登録 第 号

佐賀県競馬組合

図面番号

A

05

22

舗装工事

1. 路床

路床土　・A種　※B種　・C種　・D種　(22.2.2、3、5) (表22.2.1)

路床の構成及び仕上り　※図示

試験  
砂の粒度試験　・行う　・行わない  
路床土の支持力比（CBR）試験　・行う　・行わない  
路床締固めの試験　・行う　・行わない

2. 路盤

路盤の厚さ　・図示　・(22.3.2、3、5) (表22.3.1)

路盤材料　・砕石  
※再生クラッシャーラン 図 RC-40  
・クラッシャーラン鉄鋼スラグ 図 CS-40  
・  
・図示

試験  
路盤締固めの試験　※行う　・行わない

3. アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・(22.4.2～6) (表 22.4.4)

材料  
アスファルト ※再生アスファルト 図　・ストレートアスファルト  
骨材　・道路用砕石  
※アスファルトコンクリート再生骨材 図

加熱アスファルト混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域	※密粒度アスファルト混合物 (I3) ・細粒度アスファルト混合物 (I3)
基層	・一般地域	粗粒度アスファルト混合物 (20)

シールコート乳剤の種類　・PK-1　・PK-2

試験  
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない  
舗装の平坦性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

4. コンクリート舗装

コンクリート舗装の厚さ(22.5.2～4、6) (表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	厚さ（mm）
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示　・150　・
	歩行者用通路	・図示　※70　・

縁部立下り方法等　・図示

材料  
コンクリート　種類　・  
設計基準強度　・  
所定のスランプ　※8  
粗骨材の最大寸法　・  
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による  
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない

注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ

目地  
種類、間隔、構造　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による　・図示

溶接金網　※使用する

試験  
コンクリート板厚さの試験　・行う　・行わない  
舗装の平坦性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

5. カラー舗装

種類　・加熱系　・常温系(22.6.2～4) (表22.6.1)

加熱系カラー舗装

構成及び厚さ　※図示　・

加熱系混合材の結合材　※図示　・

常温系カラー舗装

工法　・ニート工法　・塗布工法

着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装

材料  
添加する材料　・着色骨材（　・自然石（　・）  
配合  
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量　・  
樹脂系混合物、ニート工法及び塗布工法の配合等　・

6. 透水性アスファルト舗装

透水性アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・(22.7.2、3、6)

材料　骨材　※道路用砕石  
・アスファルトコンクリート再生骨材 図（表22.4.1）  
（種類　・60～80　・80～100）

試験  
透水性アスファルト混合物等の抽出試験　※行う　・行わない  
舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの　・

7. ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装(22.8.2、3)

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材	備考
・普通平板（N）	※300角	※60	※砂 ・砂	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
・透水平板（P）	・	・	・	・
・保水性平板（M）	・	・	・	・

クッション材　※砂　・空練りモルタル  
普通平板は 図（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水平板は 図（透水性コンクリート）とする。  
ただし、誤連困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。  
仕上り面の平坦性　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

・インターロッキングブロック舗装(22.8.2、3)

種類	厚さ（mm）	形状	曲げ強度（N/mm2）	備考
※普通ブロック（N）	車路	・図示	※5.0　・	表面加工
・透水性ブロック（P）	※80	・	・	・
・保水性ブロック（M）	・	・	・	・
※普通ブロック（N）	歩行者用通路	・図示	※3.0　・	張り方
・透水性ブロック（P）	※60	・	・	※ヘリンボンボン
・保水性ブロック（M）	・	・	・	・ストレッチャーボン

クッション材　※砂　・空練りモルタル  
歩道部に使用する普通ブロックは 図（再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。透水性ブロックは 図（透水性コンクリート）とする。ただし、誤連困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。  
仕上り面の平坦性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内

22

緑化

9. 砂利敷き

種類  
・A種（施工範囲：・図示　・通路　・）  
・B種（施工範囲：・図示　・建物周囲　・）

10. 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅（mm）	塗布厚さ（mm）
・1種 図	常温	液状	※白	・150	・1.5
・2種 図	加熱			・100	・
※3種1号	溶融	粉体状			

図 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

11. 車止め

車止め用既製コンクリート　W200×L600×H120　小型反射板付き  
全面接着アンカー併用固定（彫込み30mm埋込み65mm以上）

23

緑化

1. 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度（pH）試験　・行う　・行わない(23.1.3)  
水溶性塩類（EC）の試験　・行う　・行わない

2. 植栽基盤の整備

(23.2.2)

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良費
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ※図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ※図示 ・	・適用する ・適用しない

但し、現状地盤より高さが上がる場合はD種とする  
植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・）　・設けない

※現場発生土の良質土　・寄土(23.2.3)

3. 植込み用土

・適用する（施工範囲　※図示）

4. 土壌改良材

・バーク堆肥 図

使用料　：植栽基盤面積1m2あたり（　・50L　・）  
有機物の含有率（乾物）：70%以上  
炭素窒素比（C/N比）：35以下  
炭素窒素比（C/N比）：35以下  
陽イオン交換容量（乾物）：70meq/100g以上  
pH：5.5～7.5  
水分：55～65%  
幼植物試験の結果  
窒素全量（現物）：0.5%以上  
りん酸全量（現物）：0.2%以上  
加里全量（現物）：0.1%以上  
施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び誤連困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。  
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） 図  
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植栽試験の調査の結果、害が認められないものとする。  
使用料　：植栽基盤面積1m2あたり（　・10L　・）  
有機物の含有率（乾物）：35%以上  
炭素窒素比（C/N比）：20以下  
pH：8.5以下  
水分：50%以下  
窒素全量（現物）：0.8%以上  
りん酸全量（現物）：1.0%以上  
アルカリ分（現物）：15%以下（ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りではない）  
施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び誤連困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

5. 樹木

※さの樹　樹種、寸法、株立数等　※図示　・(23.3.2)  
・県内産苗木　樹種、寸法、株立数等　※図示　・  
・上記以外の樹種、寸法、株立数等　※図示　・

6. 支柱

支柱材　※丸太（間伐材） 図　・真竹(23.3.2、3)  
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・  
形式　・図示　・

7. 幹巻き用材料

材料  
※幹巻き用テープ　・わら及びこも(23.3.2)

8. 芝

種類　※コウライシバ　・ノシバ　・(23.4.2)  
芝張りの工法  
平地　※目地張り　・べた張り  
法面　・目地張り　※べた張り

9. 吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/m <sup>2</sup> ）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・			

10. 地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	株立数
・			
・			

11. 屋上緑化 図

(23.5.2、3)

植栽基盤及び材料  
・屋上緑化システム  
土壌層の厚さ　・図示　・  
排水層　・軽量骨材（層の厚さ　・）　・板状成型品  
植込み用土　※改良土　・人工軽量土  
樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等　※図示　・  
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示　・  
（品質・性能・試験方法）  
建築材料等品質性能表による

23

緑化

12. 樹木札

13. 新植樹木、芝及び地被類の枯損償

(23.5.5)

・屋上緑化軽置システム  
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示　・  
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示  
（品質・性能・試験方法）  
建築材料等品質性能表による  
  
支柱　・設置する（形式　・図示　・）  
かん水装置　※設置する（種類　・）  
  
図示による  
  
・引渡しの日から1年とする

別表－1　設備工事との工事区分表

○印は本工事範囲とする

工　事　内　容			本　工　事	電気設備工事	機械設備工事
機　器　の　基　礎	電　気　関　係	配電盤・制御盤の基礎	屋内		
			屋外		
			屋上		
		テレビアンテナ基礎	○		
		避雷針の基礎			
	機　械　関　係	特記した基礎			
		屋内設備			
		屋上設備（架台、アンカーボルトを除く）			
		屋外設備（　　）			
		架台・アンカーボルト	○		
開　口　部	梁、床、壁貫通スリーブ	補強を要するもの			
		補強を要しないもの			
		補強を要するもの			
		補強を要しないもの			
		経管敷管下地の切込	補強を要するもの（アウトレットボックスは除く）		
	埋込形分電盤、端子盤等の型枠	補強を要するもの			
		補強を要しないもの			
		上記開口部の差し出し	（鉄筋）		
		上記開口部の補強	○基礎梁貫通孔		
		スリーブの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）			
OAフロア配線器具用					
点　検　口	床、壁、天井	○			
外　部　取　付　ガラリ	ダクト、チャンパーの接続用フランジを含む				
防　油　堤	オールサービスタンクの防油堤、タンク基礎				
床下水槽のマンホールふた					
ガス漏れ検知器					
消火栓箱込み機器収納箱内配線整理用端子板					
湯沸室の排気フード					
換　気　扇	本体 取付枠				
流　し　台	本体（排水トラップ共） 水栓				
浴　槽					
身障者用便所手すり					
電　気　配　管　配　線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）				
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線				
	自動制御盤と動力盤との電源供給の通り配管配線				
	自動制御盤と動力盤との操作回路の通り配管配線				
	機器と付属操作スイッチ等との渡り配線				
	機器と付属操作スイッチ等との渡り配管				
	機器と付属操作スイッチ				
	機器と付属操作スイッチの埋込ボックス				
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線				
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線				
水　廻　り	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部への電源供給				
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部と操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ				
	防火扉レリーズ				
	電機棒				
	配線ビッド及びふた				
	別途機器などへの接続				
	システム天井				
	ボード・Tバー				
	照明ライン設備プレート				
	空調ライン設備プレート				
電気錠	電気錠及び通電金具				
	テンキー及び制御盤				
浄化槽	杭工事				
	土工事				
水廻りモーターメーターの記録	基礎工事				
	電気工事				
水廻りモーターメーターの記録の記録と調査					

1 級 建 築 士　内 田　 要

大臣登録　第 1 8 9 2 9 4 号

株式会社 渋江 建築設計事務所

佐賀市多布施四丁目 3 番 5 0 号

TEL 0952-24-7211

工 事 名

新きゆう 務員 宿舎 C 棟 新 築（建築） 工 事

図 面 名

特記仕様書（建築新営）その 6

縮 尺

A1 版：　－  
A3 版：　－

設 計

年　月　日

佐 賀 県 競 馬 組 合

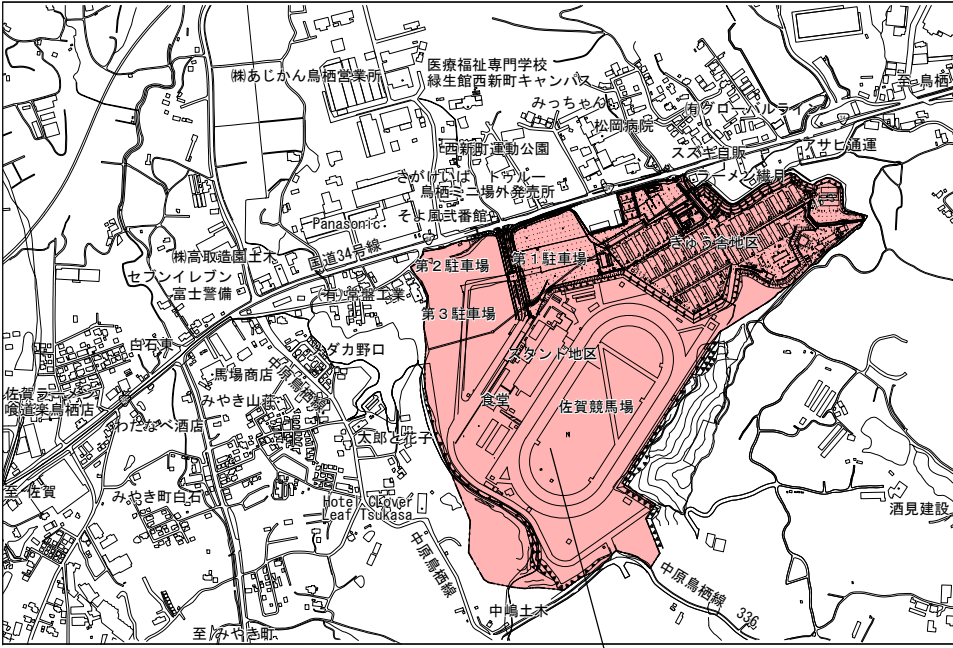
1 級 建 築 士 登 録　第　　号

図 面 番 号

A

06

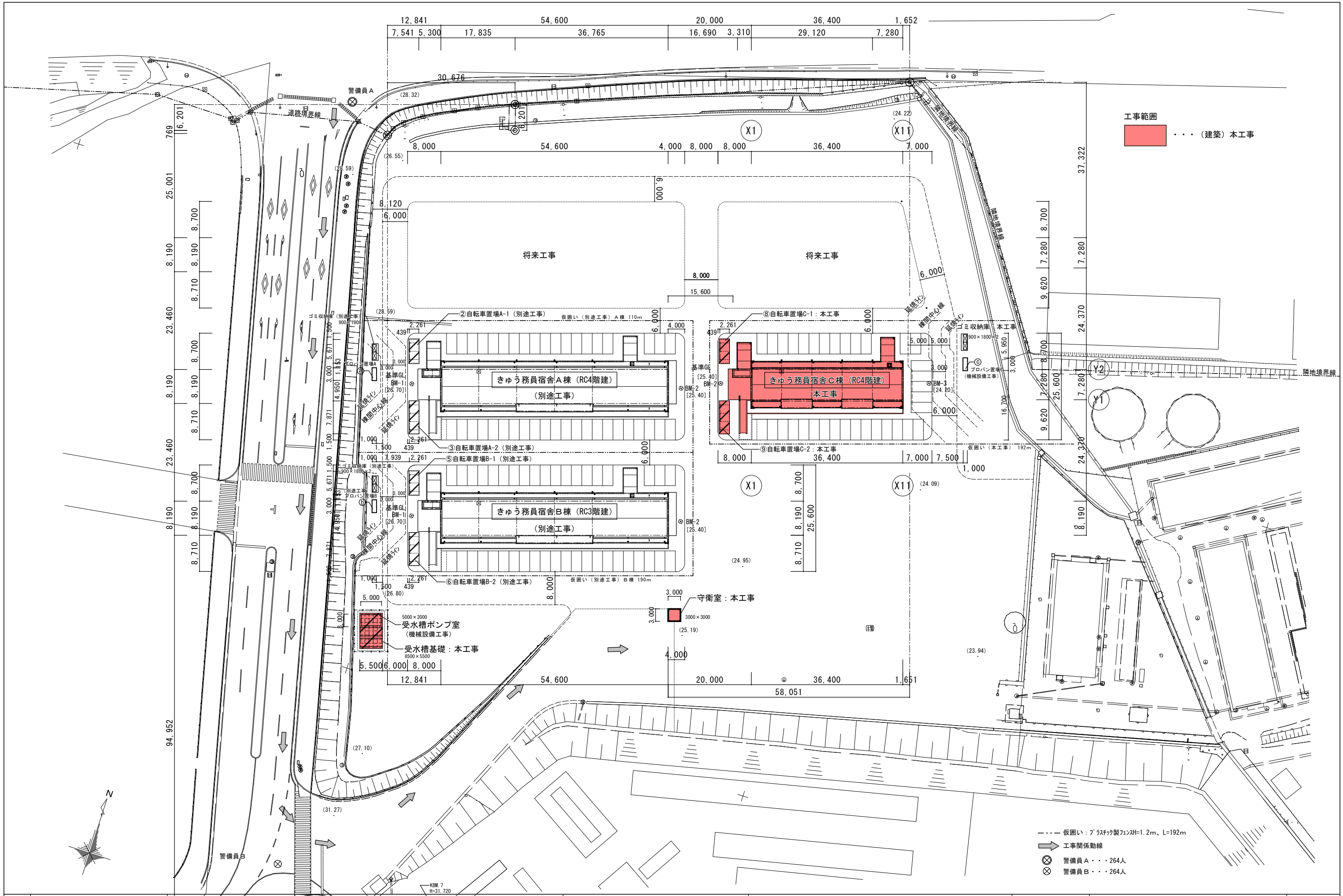




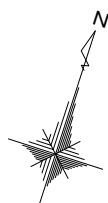
付近見取図

		設計変更年月日	1 級建築士 内田 要	工事名	新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮 A1版：1/2,000、8,000 A3版：1/4,000、16,000	佐賀県競馬組合	<div> <div>図面番号</div> <div>A / 07</div> </div>
	1 回	年 月 日	大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号	図面名	全体配置図・付近見取図	設 計  年 月 日	1 級建築士登録 第 号	
	2 回	年 月 日	株式会社 渋江建築設計事務所					
	3 回	年 月 日	佐賀市多布施四丁目 3 番 5 0 号 TEL 0952-24-7211					



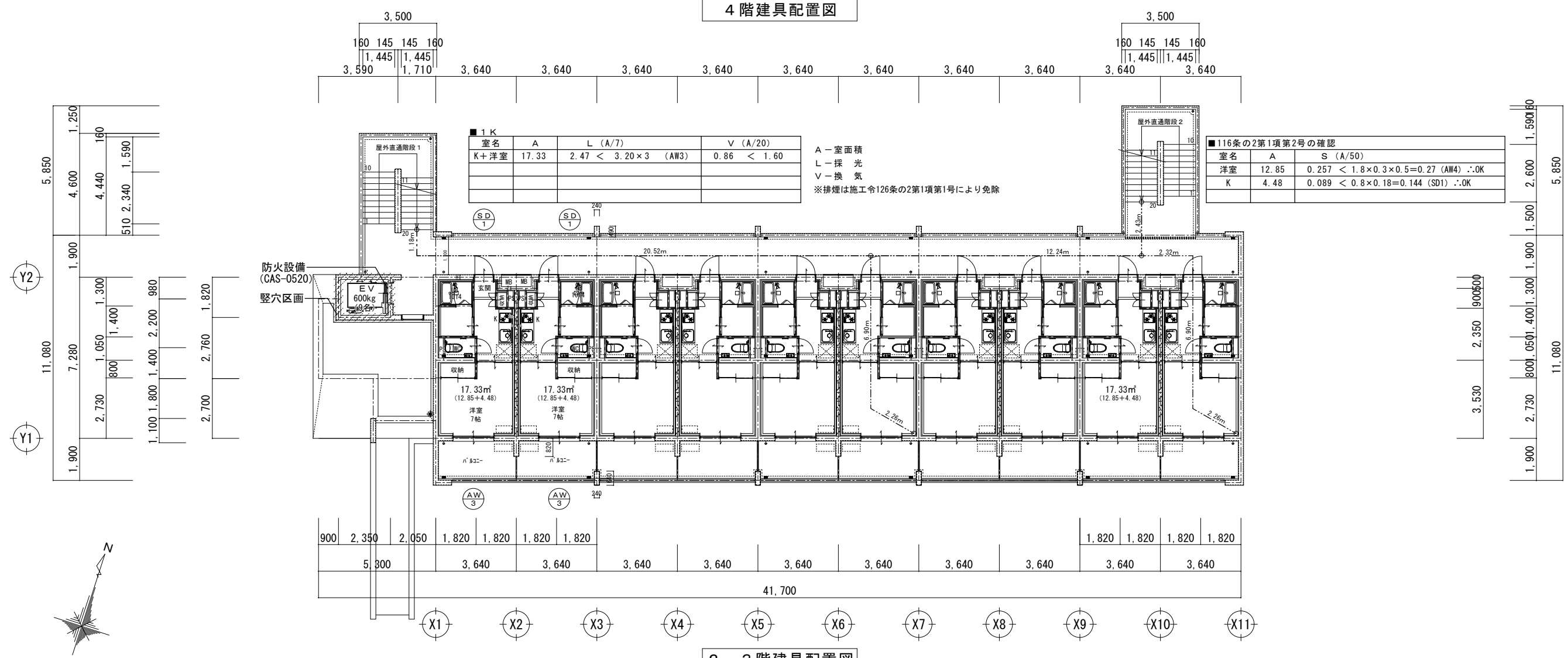


設計変更年月日			1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋谷建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事  図面名 部分配置図（きゅう務員宿舎）	縮尺 A1版：1/400 A3版：1/800  設計 年 月 日	佐賀県競馬組合  1級建築士登録 第 号	図面番号 A 08
1回	年	月 日					
2回	年	月 日					
3回	年	月 日					

$$100\text{m} > \text{MAX } 35.40\text{m} \quad \therefore \text{OK}$$


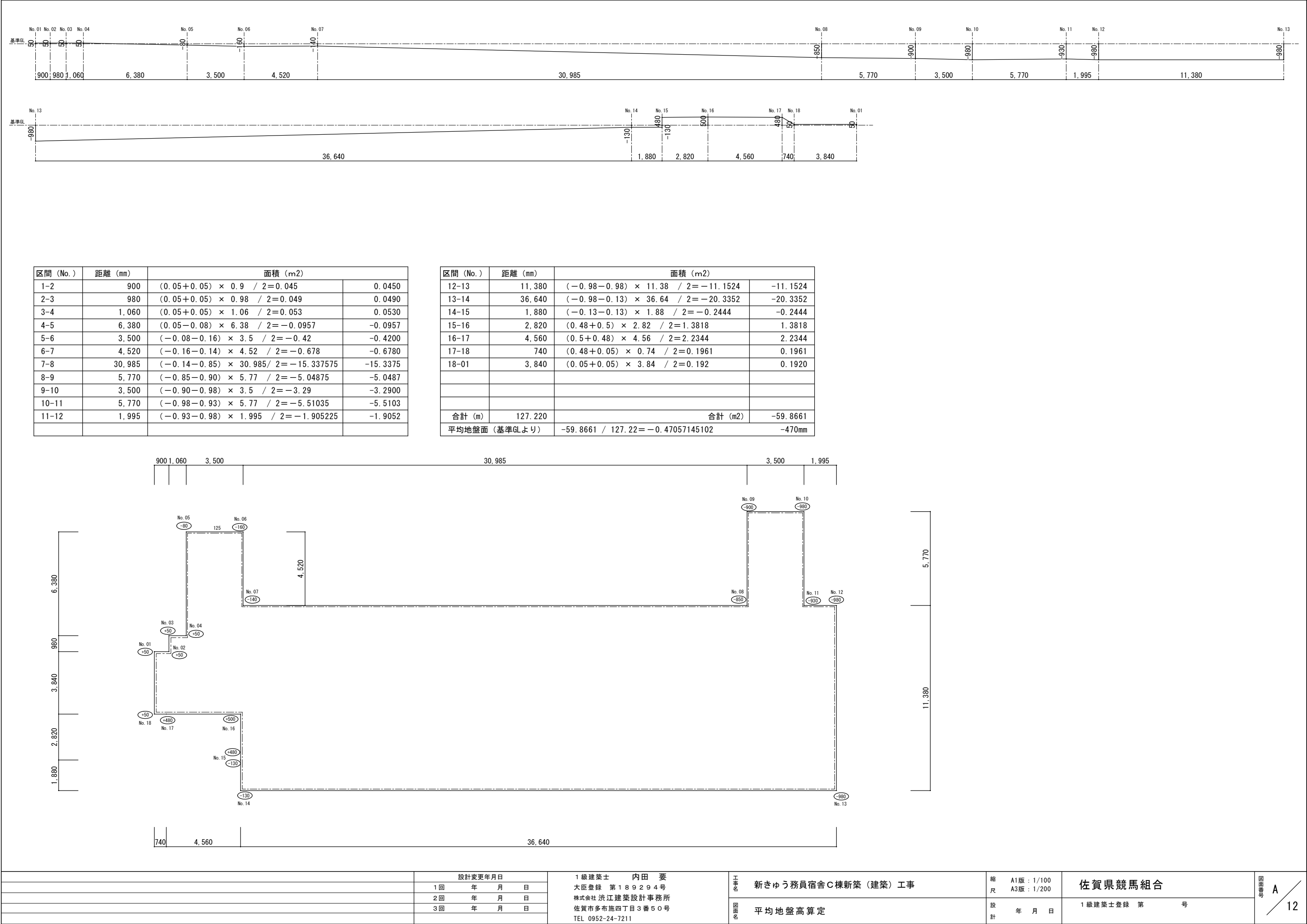
- |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 900     | 2, 350 | 2, 050 | 1, 820 | 1, 820 | 1, 820 | 1, 820 |        |        |        |        | 1, 820 | 1, 820 | 1, 820 | 1, 820 |
| 5, 300  |        |        | 3, 640 |        | 3, 640 |        | 3, 640 | 3, 640 | 3, 640 | 3, 640 | 3, 640 | 3, 640 |        | 3, 640 |
| 41, 700 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |

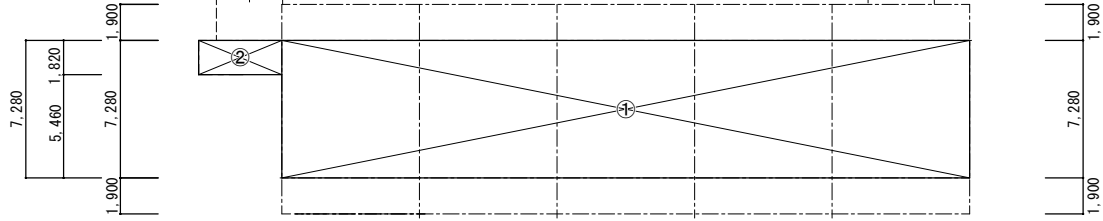
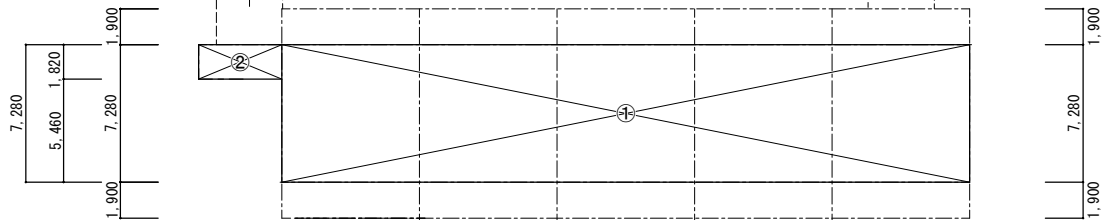
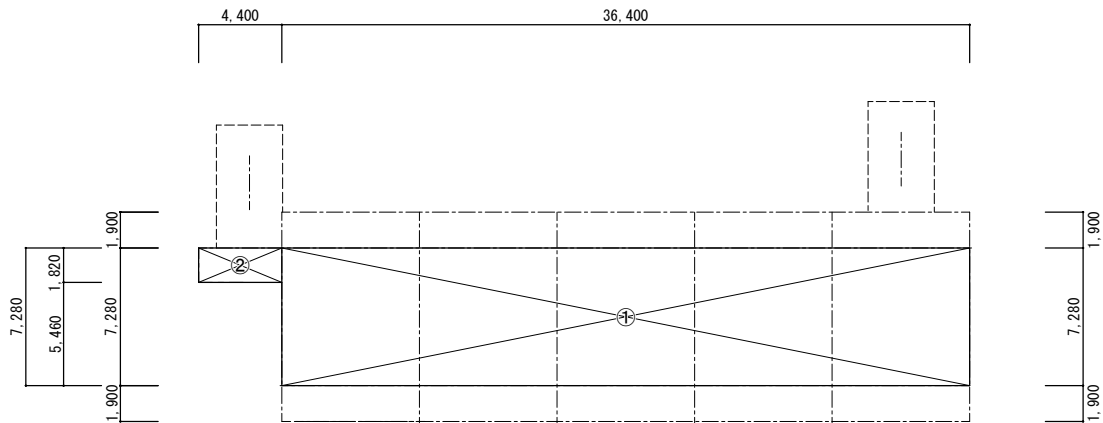
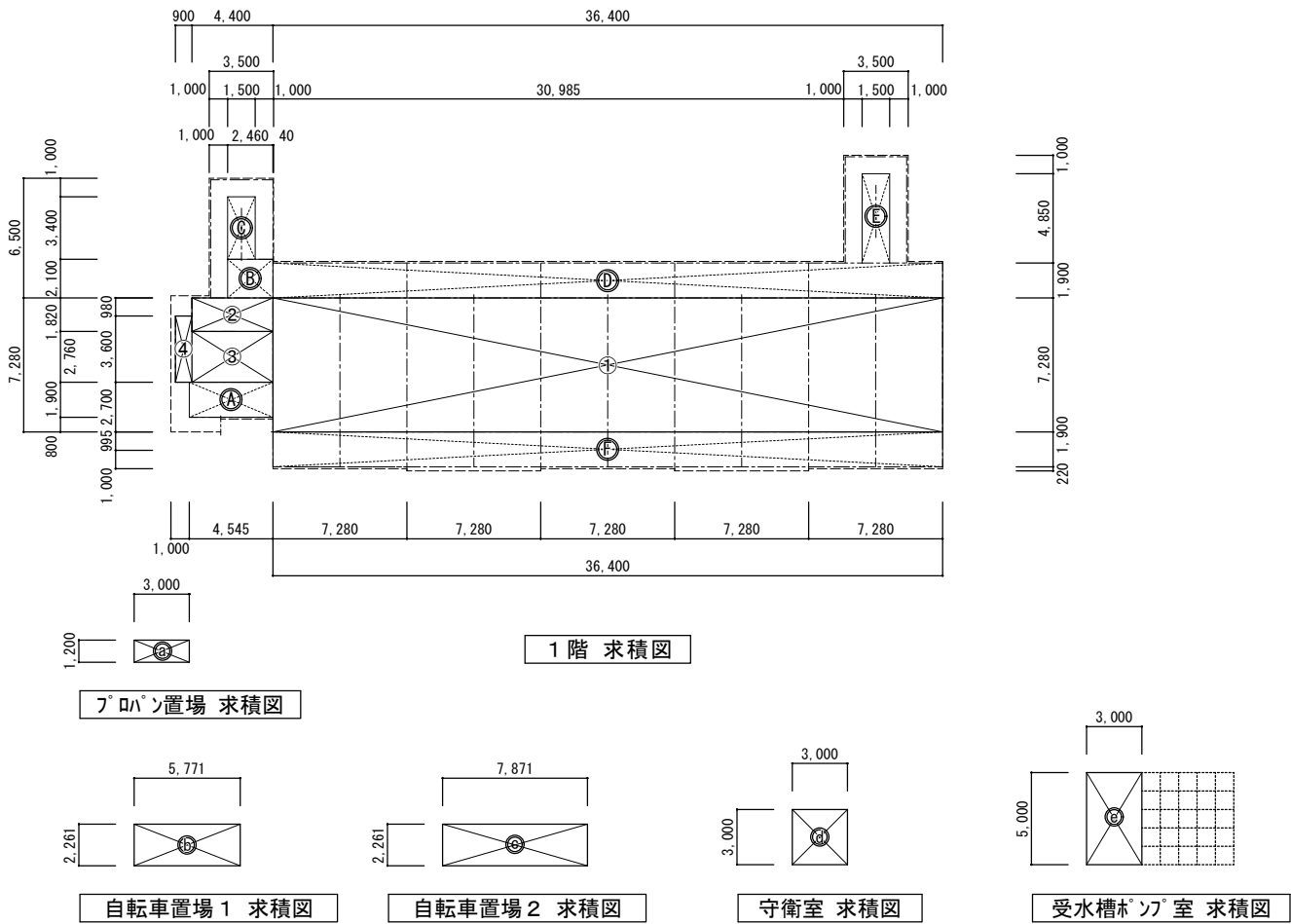
室名	A	S (A/50)
洋室	12.85	$0.257 < 1.8 \times 0.3 \times 0.5 = 0.27$ (AW3) ∴OK
K	4.48	$0.089 < 0.8 \times 0.18 = 0.144$ (SD1) ∴OK



## 2、3階建具配置図

		設計変更年月日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 <div>A / 10</div>
	1回	年 月 日		図面名 法規チェック（2）	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	
	2回	年 月 日					
	3回	年 月 日					





面積表		
①	36.4×7.28	264.992㎡
②	4.4×1.82	8.008㎡
③	4.4×2.76	12.144㎡
④	0.9×3.6	3.24㎡
Ⓐ	4.545×1.9	8.6355㎡
Ⓑ	2.46×2.10	5.166㎡
Ⓒ	1.5×3.40	5.10㎡
Ⓓ	36.4×1.90	69.16㎡
Ⓔ	1.5×4.85	7.275㎡
Ⓕ	36.4×1.90	69.16㎡
Ⓖ	3.0×1.2	3.60㎡
Ⓗ	5.771×2.261	13.048231㎡
Ⓒ	7.871×2.261	17.796331㎡
Ⓓ	3.0×3.0	9.00㎡
Ⓔ	3.0×5.0	15.00㎡
建築面積		
①+②+④+(Ⓐ~Ⓕ)	452.8805㎡	
C棟 建築面積 (40住戸)	452.88㎡	
自転車置場 建築面積 (C棟)	Ⓖ	3.60㎡
自転車置場 1 建築面積 (C棟)	Ⓗ	13.048㎡
自転車置場 2 建築面積 (C棟)	Ⓒ	17.796㎡
自転車置場、自転車置場 計	Ⓖ+Ⓗ+Ⓒ	34.444㎡
守衛室 建築面積	Ⓓ	9.00㎡
受水槽・ポンプ室 建築面積	Ⓔ	15.00㎡

床面積表		
1階床面積		
①	36.4×7.28	264.992㎡
②	4.4×1.82	8.008㎡
③	4.4×2.76	12.144㎡
④	0.9×3.6	3.24㎡
2階床面積		
①	36.4×7.28	264.992㎡
②	4.4×1.82	8.008㎡
3階床面積		
①	36.4×7.28	264.992㎡
②	4.4×1.82	8.008㎡
4階床面積		
①	36.4×7.28	264.992㎡
②	4.4×1.82	8.008㎡
延べ床面積 (法52条)		
1階+2階+3階+4階床面積	1,107.38㎡	
C棟 延べ床面積 (40住戸)	1,107.38㎡	
自転車置場 床面積 (C棟)	Ⓖ	3.60㎡
自転車置場 1 床面積 (C棟)	Ⓗ	13.048㎡
自転車置場 2 床面積 (C棟)	Ⓒ	17.796㎡
自転車置場、自転車置場 計	Ⓖ+Ⓗ+Ⓒ	34.444㎡
守衛室 床面積	Ⓓ	9.00㎡
受水槽・ポンプ室 床面積	Ⓔ	15.00㎡



## 工 事 概 要

工 事 名 称	新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	用 途	共同住宅	用 途 地 域	市街化区域（準工業地域）	床 面 積	1,107.38㎡
建 設 地	佐賀県鳥栖市江島町	構 造	鉄筋コンクリート造4階建	防 火 地 域	22条地域	前 面 道 路	国道34号線 18.0 m
建 築 主	佐賀県競馬組合	工 事 種 別	新築	敷 地 面 積	450,000㎡		
建 築 主 住 所	佐賀県鳥栖市江島町	工 期	－	建 築 面 積	452.88㎡		

外部仕上

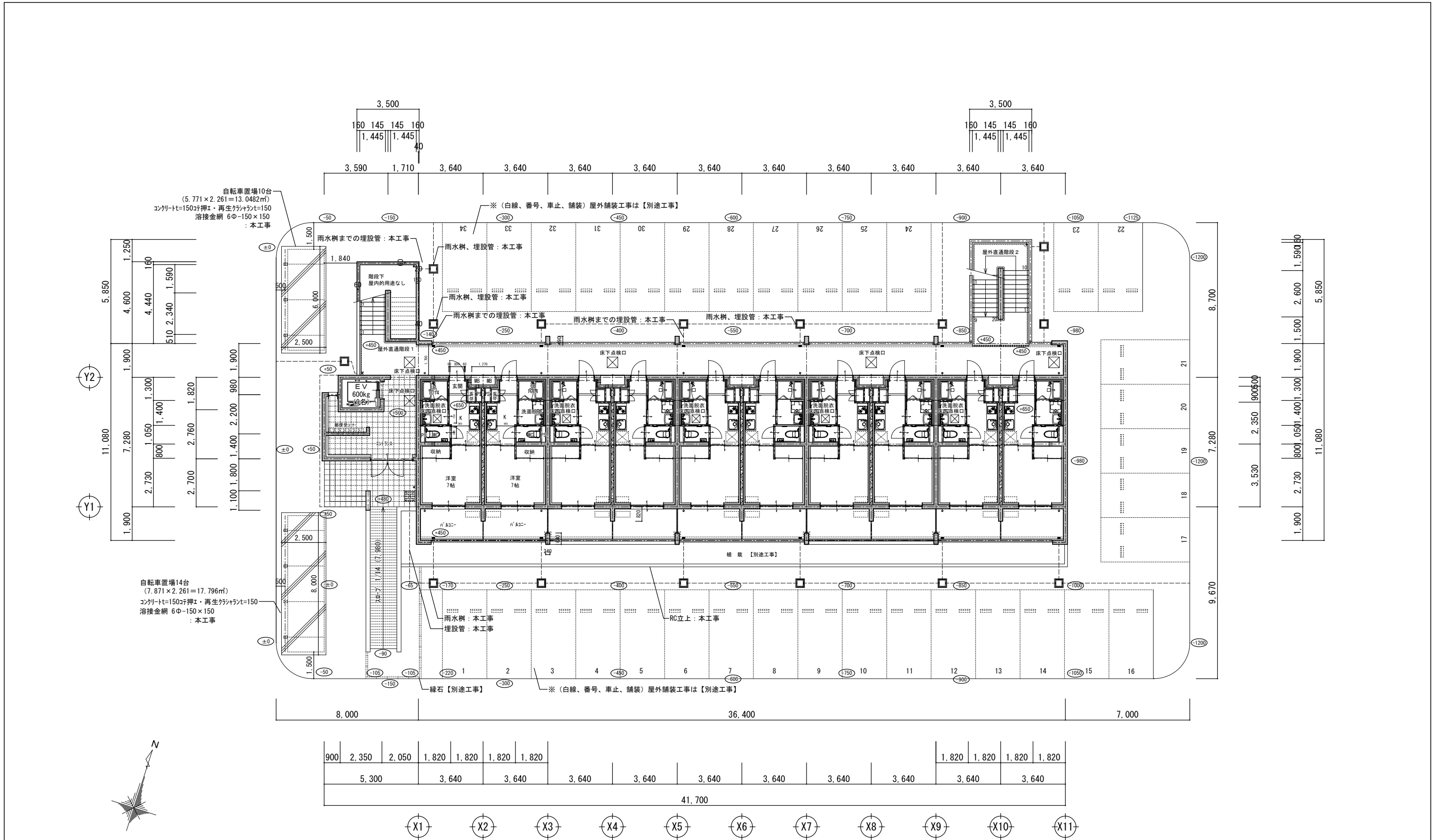
屋	根	R階屋根：コウクリンゴフ工棟の上、塩ビ系S-1防水（S1-M2工法）PF板：t=35 Uパネ一部屋根：コウクリンゴフ工棟の上、塩ビ系S-2防水（S-M2工法）		外 壁 1	化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がけ7工上） ：ラジックルWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 目地化粧目地シリング20x15(PU-2)	屋 外 廊 下	床：塗膜防水(コウクリンゴフ) 坪タテタテA-II工法 同等以上 ＋コンクリート金ゴテ目地切り@2000下地 ※排水溝は、上防水も付金ゴテ下地 手摺壁：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がけ7工上） ：ラジックルWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 打釘、誘発、化粧目地シリング20x15(PU-2) 707-7mm（床下点検口）：ステンレス製600φ 8ヶ所全鍵付	ボーチ・スロープ	EVホール、ボーチ、段差：モルタル下地 磁器質タイル 300角（外装床対応）ビブワ：LIXIL同等品 蹴込、立上：モルタル下地 磁器質タイル 300角（外装床対応）平場共 ビブワ：LIXIL同等品 スロープ床：モルタル下地 磁器質タイル 150角（スロープ用タイル）ビブワ：LIXIL同等品 スロープ立上壁：コンクリート化粧打放（外壁1仕上） 手摺：ステンレス製「トリプル型」77φ×1.1段 LIXIL同等品 堅礎：7φ×ミナミ管φ89（艶消） 雨水集水槽：内径500×500 タイル用タイル製集水槽蓋（クワンケイ）SSYW-500（お仲間同等品）
庇・バルコニー天端		コウクリンゴフ工棟の上、ウレタン塗膜防水（X-2工法）平場、立上、架台基礎、エレベータピット共		外 壁 2	化粧コンクリート打放（杉板巾135本実型 浮造加工）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がけ7工上）：ラジックルWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 目地化粧目地シリング20x15(PU-2)				
樋		堅礎：おー硬質塩ビパイプφ75 ドレン：鋼鉄製 好引用、コーナ好引用 ※階段φ75 横引：おー硬質塩ビパイプφ50、φ75 おーび、EV機、東底：7φ×ミナミ管φ89（艶消）							
そ の 他		屋上点検ハッチ：ステンレス製 600角（後付けタイプ、鍵付、手摺付）KS-RM60GSKH（株式会社サスガ）同等品 ステンレスガラフ：300×150 φ22（裏板共）3段 KS-ATR22S（株式会社サスガ）同等品 屋外換気口：ステンレス製 防虫網付φ100 止水板付 KS-8860SHG-M（株式会社サスガ）同等品 2ヵ所（1住戸2ヵ所×10） 室名札（40戸）：7φ×製KS-N22A 2ヶ所同等品以上 建物名表示（2文字）：（304）SUS 700×700×50 7ヶ所以上 雨水管：おー硬質塩ビパイプ 耐候性向上仕様（JIS K 6741）積水化学工業株式会社同等品		外 壁 3	コンクリート打放面下地調整の上 複層塗材E（ゆず肌）上塗材（7φシリコン系：艶無、低汚染型） 目地、化粧目地シリング20x15(PU-2)	バルコニー	床：塗膜防水(コウクリンゴフ) 坪タテタテA-II工法 同等以上 ＋コンクリート金ゴテ目地切り@2000下地 ※排水溝は、上防水も付金ゴテ下地 7φ手摺：床支持 H=1,200 ViewX-M3格子厚W20×809φ BL認定（ビコム工業株式会社）同等品以上 隔板：おー7φ×タテタテH2,000（杉田エス）同等品以上 物干金物：7φ×製 スライド型 KS-DAT06ASP-D6（株式会社サスガ）同等品以上 各住戸2ヵ所	建 物 廻 り	アスファルト舗装：密粒度7.5mm A-5-1-5（再生グラウト） 雨水樹（既製品）：360×360×480（2階）コンクリート 車止め：既製コンクリートロッキ150～170×200×600 駐車場区画ライン：白色タイル W=150 駐輪番号：白色文字（1文字サイズ300×150） 排水管：VPφ100
				軒	化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がけ7工上） ：ラジックルWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 目地：20×10 @2,000以内	階	蹴込、路面：防水も付金ゴテ（段鼻NS磁器質タイル 60x150 新階段タイルLIXIL同等品）排水溝防水も付金ゴテ 手摺壁：化粧コンクリート打放（A種）目地、化粧目地シリング20x15(PU-2) ＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がけ7工上） ：ラジックルWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 壁付手摺：φ34樹脂被膜（耐候性） BLS-34BL認定（ビコム工業株式会社）同等品以上		タイル等：ト1：7ヶ所（シールドAR-F型600N 57型）（LIXIL）同等品以上（基礎共） タイル等：ト2：7ヶ所（シールドAR-F型600N 特寸78型）（LIXIL）同等品以上（基礎共） ゴミ収集庫PA型D900 W1800×1730（LIXIL）同等品以上（土間共）

内部仕上

[illegible][illegible]

備考	断熱材仕様 ※住宅性能表示：5-1（断熱等性能等級 等級4）					被着体の組み合わせとシーリング材の種類				
※水回り（LDK一部 9.3㎡・洗面脱衣室・便所・）のパーティクルボードは、パラフィン処理（パラフィンボード）とする。	材 料 名	熱伝導率 W/(m・k)	厚 さ mm	規 格	熱伝導抵抗	被着体の組み合わせ				
※水回り（洗面脱衣室・便所）のラウンベニヤは、T1（耐水仕様）、その他はT2仕様とする。						シーリング材の種類				
※複合フローリングは、（ナラ）C種仕様とする。	押出法 <sup>※</sup> リジンフォーム	3種 b	0.028	35	JIS A 9511	1.250	金 属	コンクリート ※E×P・Jカバ一部（B工区）	MS-2	変性シリコン系
※長尺シートは、FS仕様とする。			40	1.428						
※特記なきシナベニヤ・ラウンベニヤはT-2とする。	吹付硬質ウレタンフォーム	2種 b	0.034	30	JIS A 9526	0.882	ポリ塩化ビニール 樹脂形材	コンクリート、化粧ケイカル板	MS-2	変性シリコン系
※内装材は全てF☆☆☆☆品又はシックハウス規制対象外製品とする（下地、仕上共）。				20						
※室内環境測定：1住戸（1箇所）×2戸×階数（4階）		A種 1	0.034	40		1.176	コ ン ク リ ー ト			
※共通事項：同等品は同等品以上とする				50						

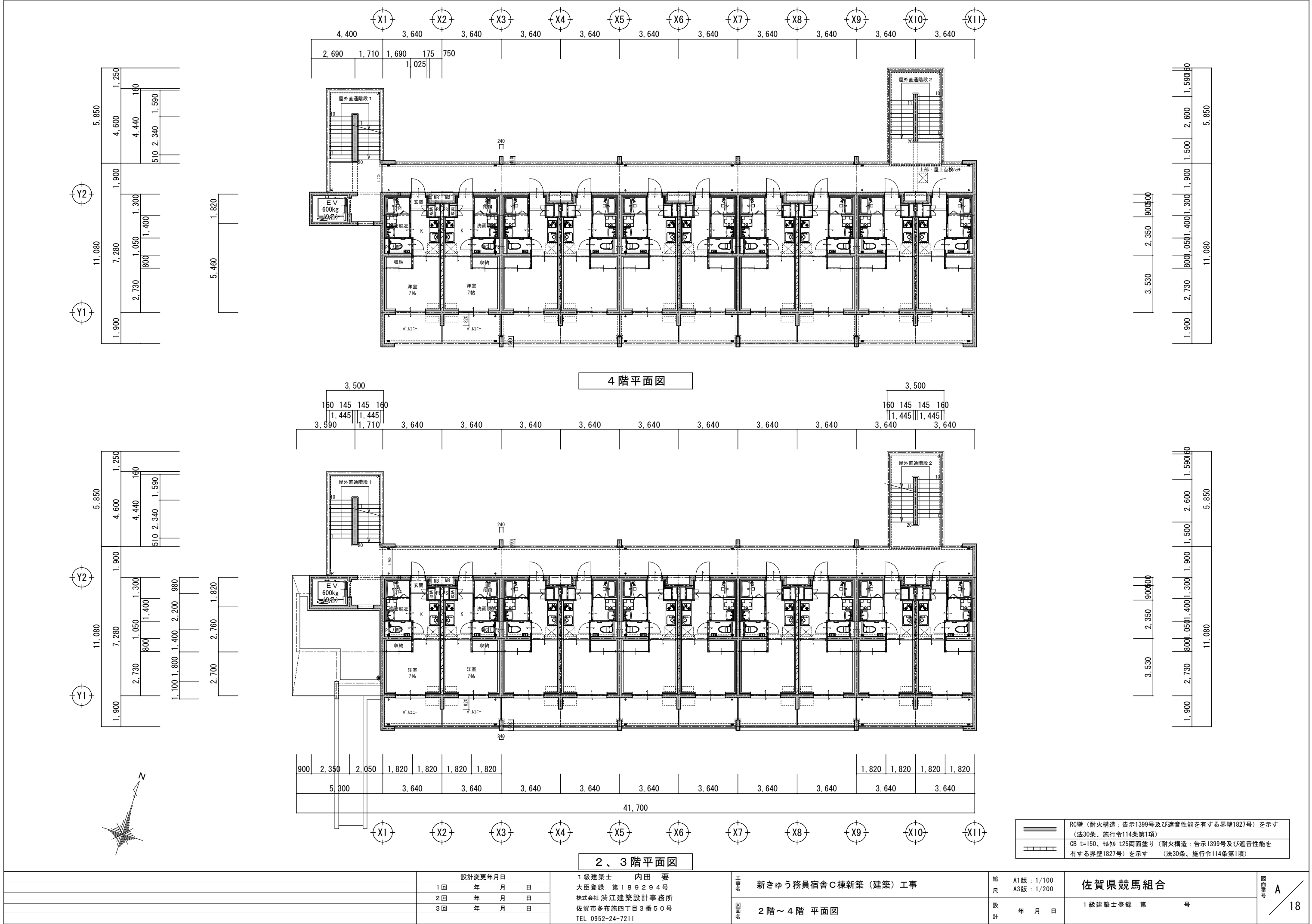
【特記事項】	設計変更年月日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 洪江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：— A3版：—	佐賀県競馬組合	<div> <div>図面番号</div> <div>A / 13</div> </div>
1)断熱材（住宅性能表示：5-1 等級4）※PF板：押出法ポリスチレンフォーム保温材2種b、押出法ポリスチレンフォーム保温材3種b	1回 年 月 日					
・土間下 t30 2種 b（熱貫流率：1.13） ・熱橋折返し部 t30 2種 b（熱貫流率：1.13） ・シート防水下部 t35 3種 b（熱貫流率：0.8）	2回 年 月 日					
2)断熱材（住宅性能表示：5-1 等級4）※吹付硬質ウレタンフォームA種 1・外周壁内面 t40（熱貫流率：0.85）、最上階スラブ下 t50（熱貫流率：0.68）	3回 年 月 日		図面名 仕上表	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	



1階平面図 1/200

	RC壁（耐火構造：告示1399号及び遮音性能を有する界壁1827号）を示す（法30条、施行令114条第1項）
	CB t=150、モルタル t25両面塗り（耐火構造：告示1399号及び遮音性能を有する界壁1827号）を示す（法30条、施行令114条第1項）

			設計変更年月日		1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 洺江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゆう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 A 17
			1回	年 月 日					
			2回	年 月 日					
			3回	年 月 日		図面名 1階 平面図	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	




設計変更年月日		
1回	年	月 日
2回	年	月 日
3回	年	月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社 渋谷建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新きゆう務員宿舎C棟新築（建築）工事
図面名	2階～4階 平面図

縮尺	A1版：1/100 A3版：1/200
設計	年 月 日

佐賀県競馬組合	
1級建築士登録 第	号

凡 例：（屋根仕上）

記 号	仕 上
①	R階屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S1-W2工法）PF板：t=35
②	E1階→2階屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S-W2工法）
③	庇・バルコニー天端：コンクリート金ゴテ押工の上、外装塗膜防水（K-2工法）平場、立上、築台基礎共
④	壁種：お-硬質塩ビパイφ75
⑤	横引：お-硬質塩ビパイφ50、φ75
⑥	お-チ、EV横、東庇：78ミシ外壁管φ89（艶消）バンドレス
⑦	お-フドレン：鉄鉄製φ50用 95引型 ※階段 φ75用
⑧	お-フドレン：鉄鉄製φ75用 コナ95引型、コナ30引型 （EV横、庇）78ミシ壁壁種φ89用
⑨	屋上点検ハッチ：スチール製 600角（後付パイ、鍵付、手摺付）
⑩	フルバラン付基礎

凡 例：（天井仕上）

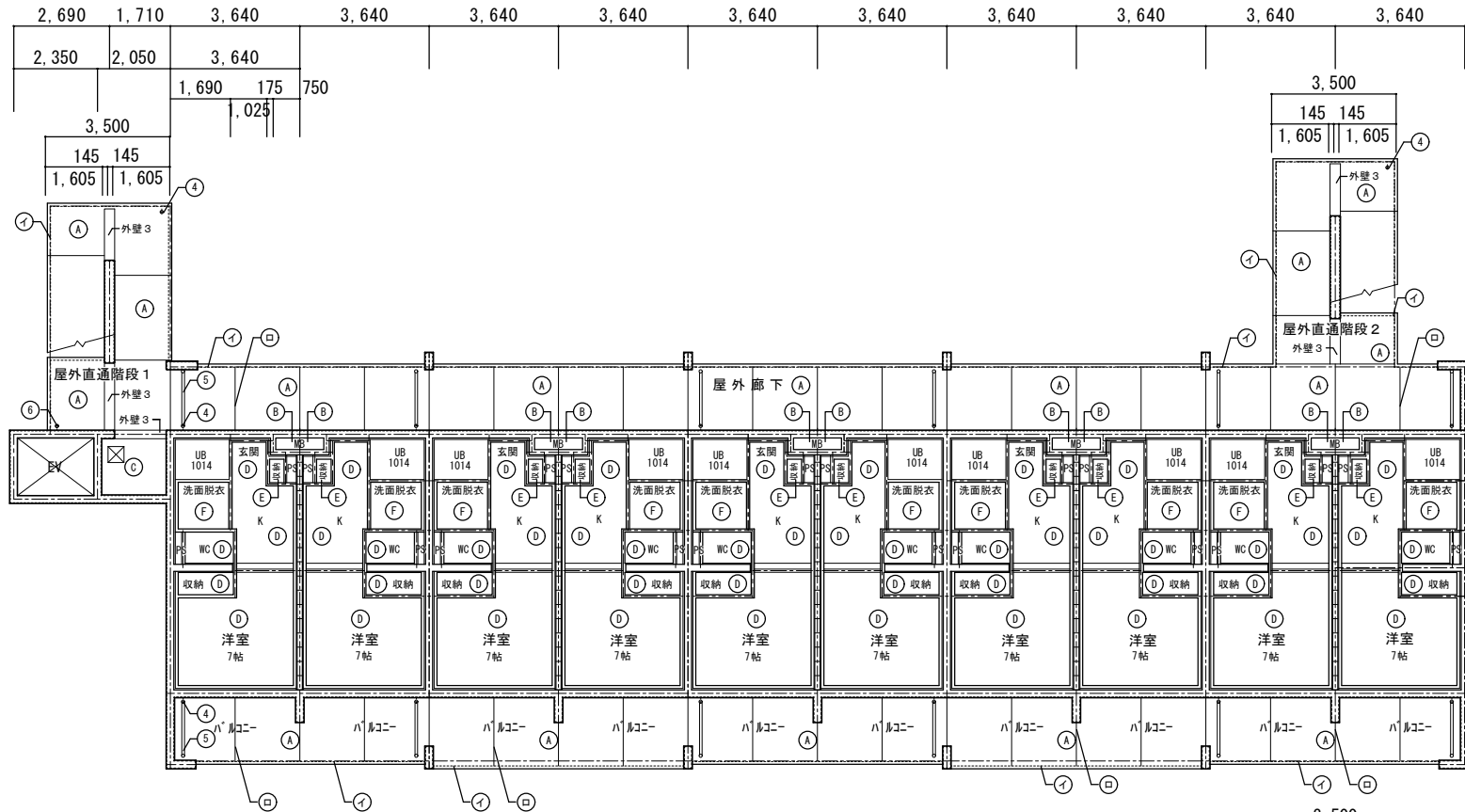
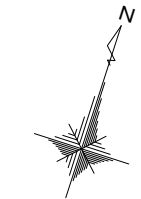
記 号	下 地	仕 上
Ⓐ	RC	化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料お-カ7-仕上） ：ラディックス＋MS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上）ⓐ 目地：20×10 #2,000以内
Ⓑ	RC	コンクリート打放補修（素地）
Ⓒ	LGS	石こうボード貼 t=9.5＋ロックウール化粧吸音板凸凹模様 t=12（外部用）
Ⓓ	LGS	石こうボード貼 t=9.5＋壁紙クロス
Ⓔ	LGS	化粧石こうボード貼 t=9.5
Ⓕ	LGS	珪酸カルシウム板貼（目透かし） t=6.0＋EP
Ⓖ	LGS	珪酸カルシウム板貼（目透かし） t=8.0＋EP
イ		水切目地 20×15
Ⓔ		化粧目地 20×10 #2,000以内
☒		点検口450×450（78ミシ目地お-カ7）

Y2

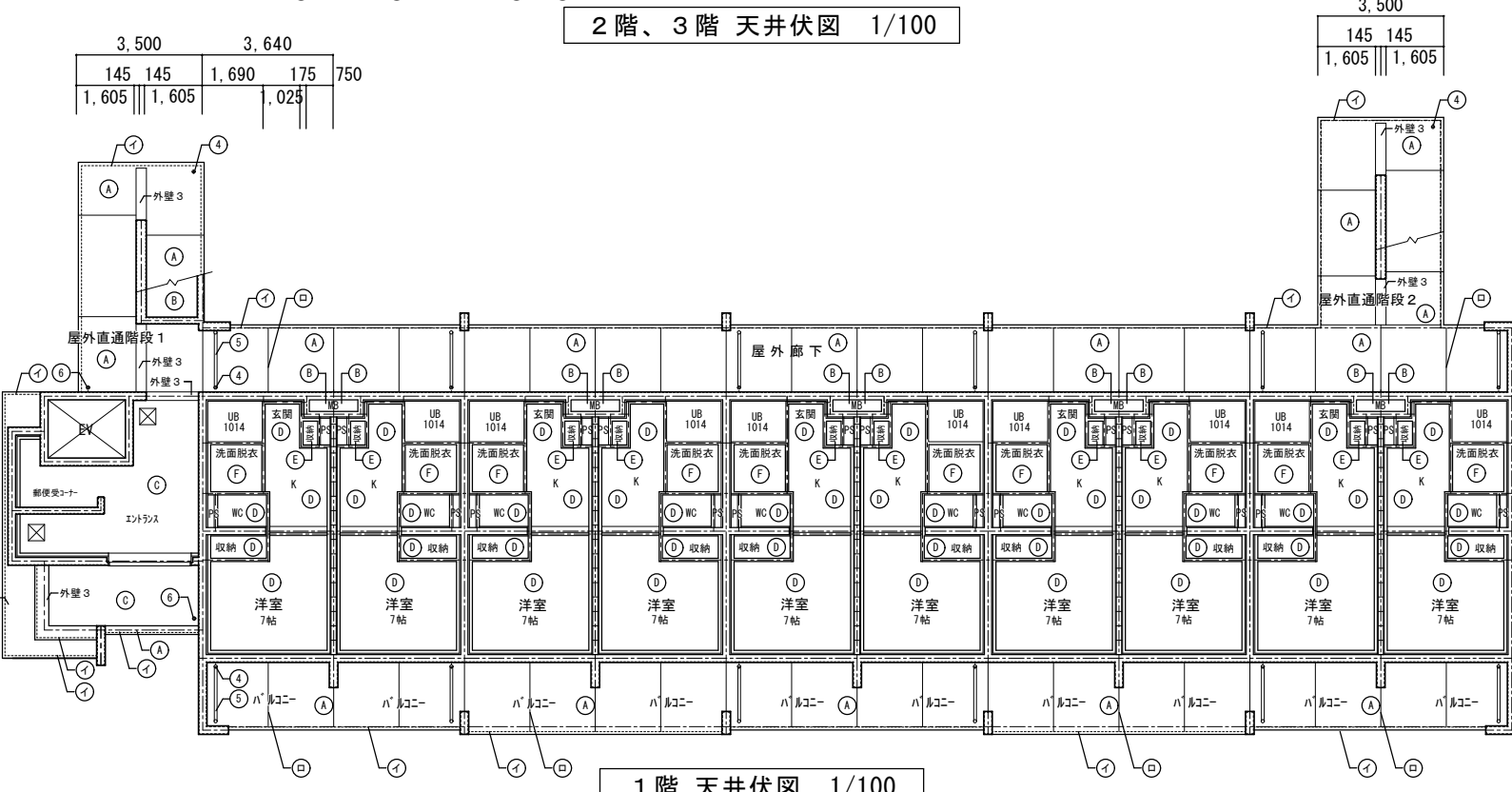
Y1

Y2

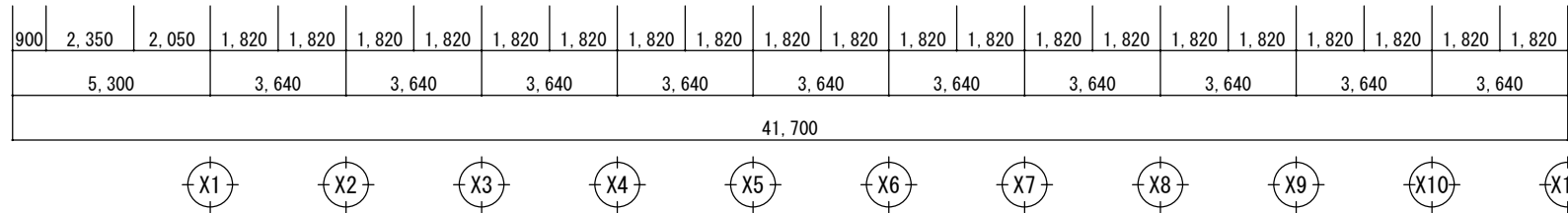
Y1



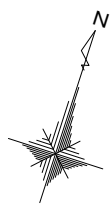
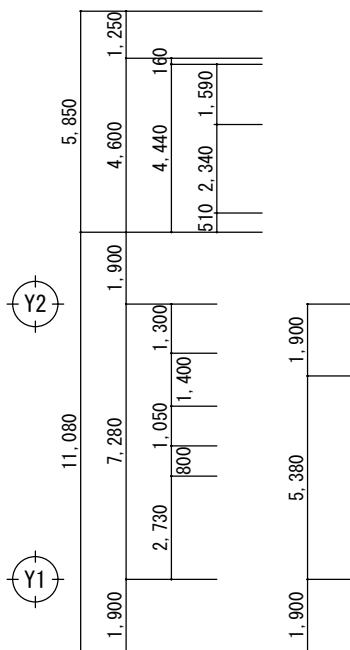
2階、3階 天井伏図 1/100



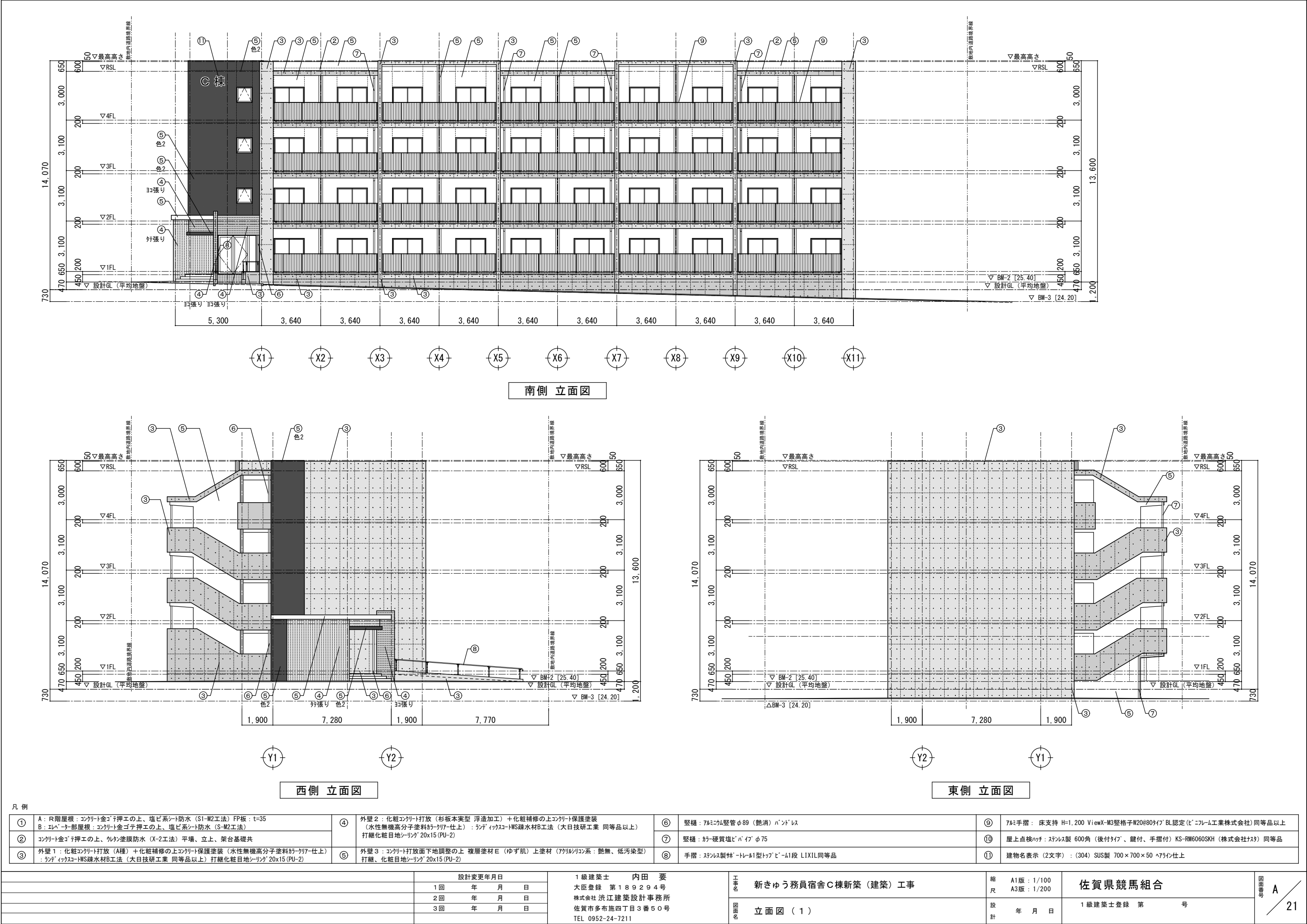
1階 天井伏図 1/100



凡 例：(天井仕上)		
記 号	下 地	仕 上
㊦	RC	化粧コンクリート打放 (A種) + 化粧補修の上コンクリート保護塗装 (水性無機高分子塗料 <sup>㉔</sup> ・ <sup>㉕</sup> 仕上)
㊧	RC	コンクリート打放補修 (素地)
㊨	LGS	石こうボード貼 t=9.5 + ロックウール化粧吸音板凸凹模様 t=12 (外部用)
㊩	LGS	石こうボード貼 t=9.5 + 壁紙クロス
㊪	LGS	化粧石こうボード貼 t=9.5
㊫	LGS	珪酸カルシウム板貼 (目選カシ) t=6.0 + EP
㊬	LGS	珪酸カルシウム板貼 (目選カシ) t=8.0 + EP
㊭		
㊮		水切目地 20×15
㊯		化粧目地 20×10 ㊮2.00以内
㊰		点検口450×450 (7#目地947)

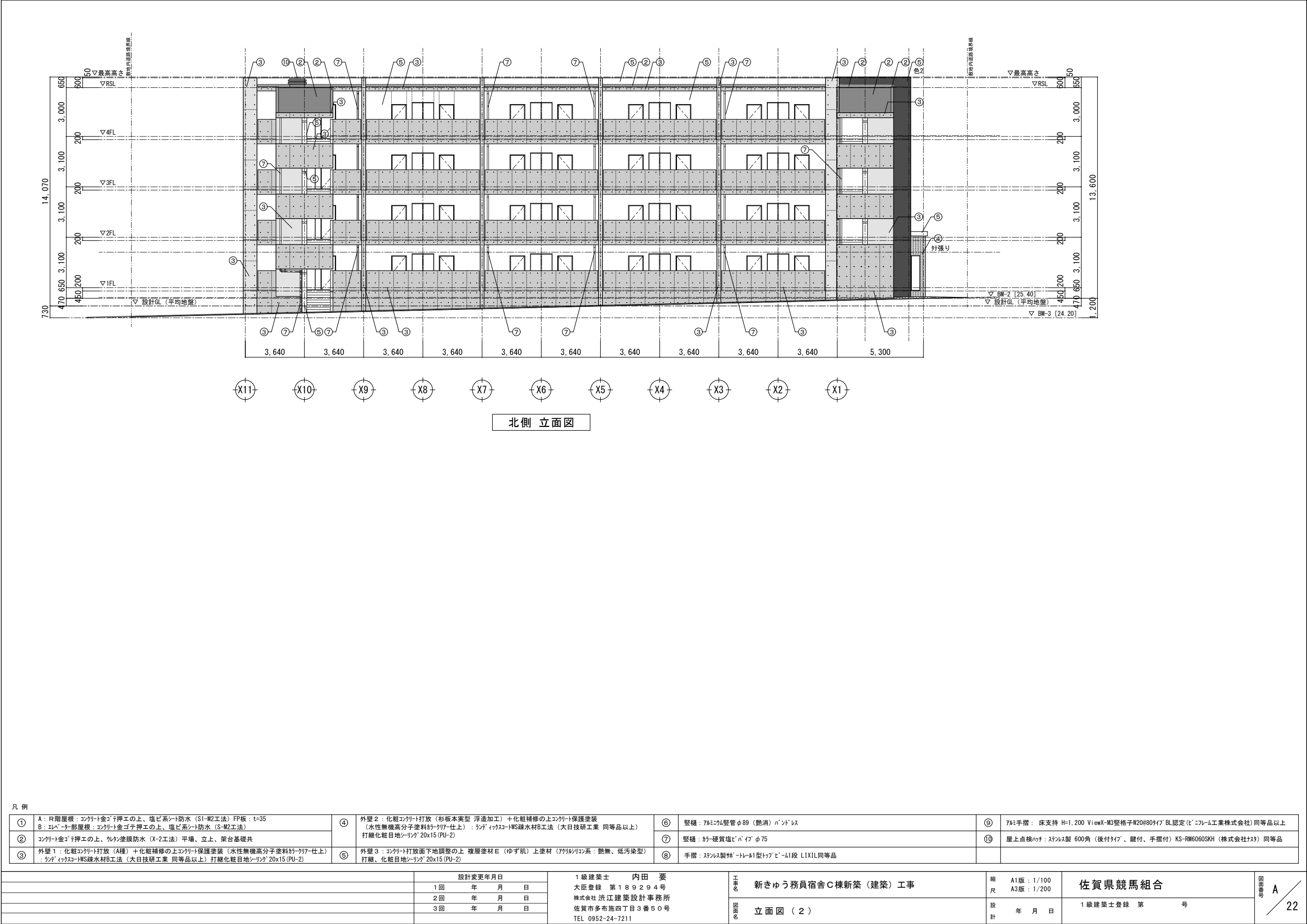






① A：R階屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S1-M2工法）FP板：t=35		④ 外壁2：化粧コンクリート打放（杉板本実型 浮造加工）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料カラークリアー仕上）：ラディックスコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 打継化粧目地シーリング 20x15（PU-2）	⑥ 縦樋：75mm径縦管φ89（艶消）パンドレス	⑨ 75mm手摺：床支持 H=1,200 ViewX-M3縦格子W20@80タイ7 BL認定（エフエム工業株式会社）同等品以上
② コンクリート金ゴテ押工の上、ウレタン塗膜防水（X-2工法）平場、立上、架台基礎共			⑦ 縦樋：カラー硬質塩ビパイプφ75	⑩ 屋上点検ハッチ：ステンレス製 600角（後付タイ7、鍵付、手摺付）KS-RM6060SKH（株式会社ナスタ）同等品
③ 外壁1：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料カラークリアー仕上）：ラディックスコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 打継化粧目地シーリング 20x15（PU-2）	⑤ 外壁3：コンクリート打放面地下地調整の上 複層塗材E（ゆず肌）上塗材（75mm径縦管系：艶無、低汚染型） 打継、化粧目地シーリング 20x15（PU-2）	⑧ 手摺：ステンレス製カラーローリング型タイプ1段 LIXIL同等品	⑪ 建物名表示（2文字）：（304）SUS製 700×700×50 へアライン仕上	

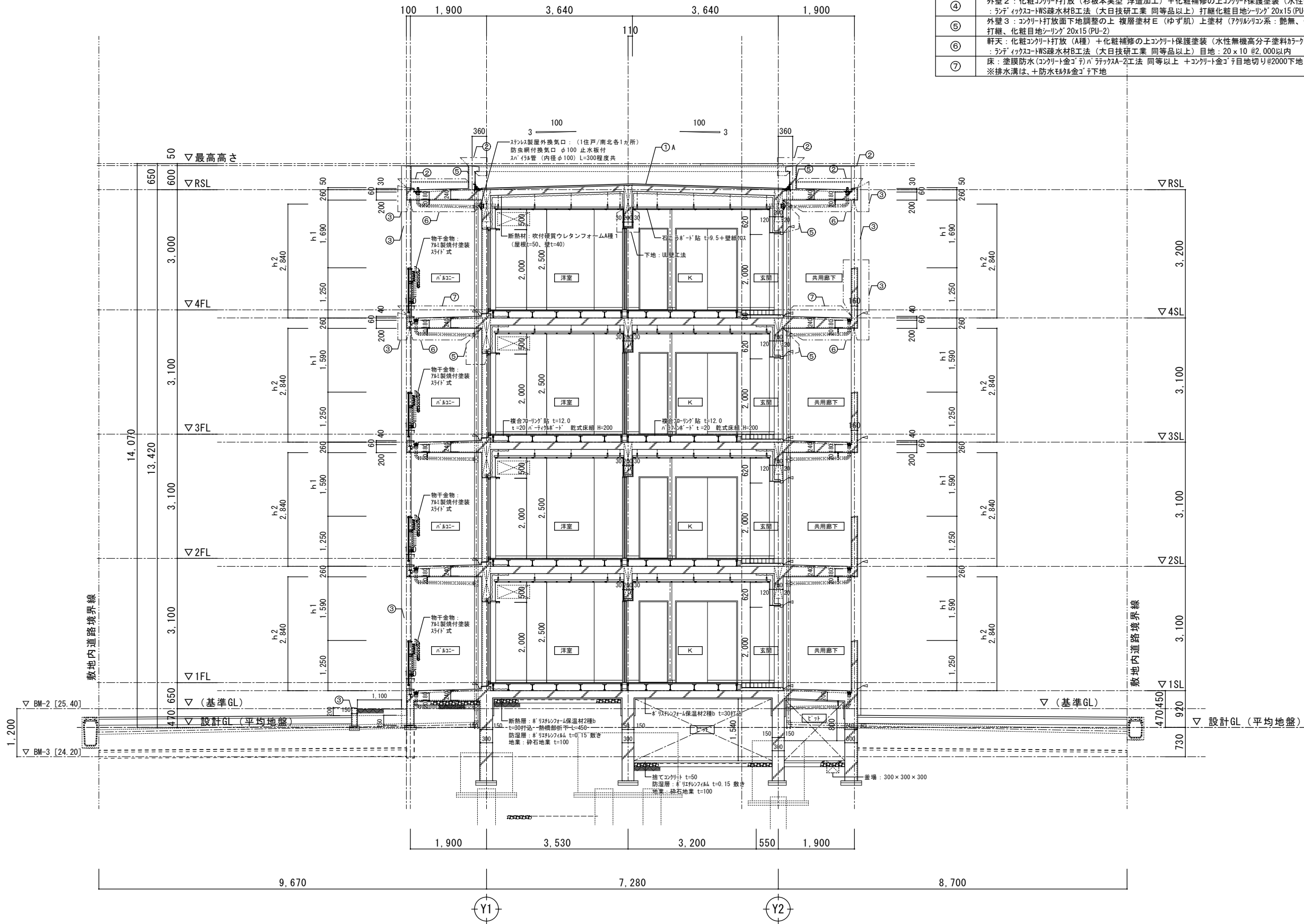
		設計変更年月日		1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋谷建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう役員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 A 21
		1回 年 月 日						
		2回 年 月 日						
		3回 年 月 日						
					図面名 立面図（1）	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	



①	A：R階屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S1-M2工法）FP板：t=35	④	外壁2：化粧コンクリート打放（杉板本実型 浮造加工）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料カラークリアー仕上）：ランディックスコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 打継化粧目地シーリング 20x15 (PU-2)	⑥	縦樋：75mm径縦管φ89（艶消）バンドレス	⑨	75mm手摺：床支持 H=1,200 ViewX-M3縦格子W20φ80タイ7' BL認定（レノブーム工業株式会社）同等品以上
	B：エレベーター部屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S-M2工法）			⑦	縦樋：カラー硬質塩ビパイプφ75	⑩	屋上点検ハッチ：ステンレス製 600角（後付タイ7'、鍵付、手摺付）KS-RM6060SKH（株式会社ナスタ）同等品
②	コンクリート金ゴテ押工の上、ウレタン塗膜防水（X-2工法）平場、立上、架台基礎共	⑤	外壁3：コンクリート打放面地下地調整の上 複層塗材E（ゆず肌）上塗材（7クリルリコン系：艶無、低汚染型） 打継、化粧目地シーリング 20x15 (PU-2)	⑧	手摺：ステンレス製特殊トレー&1型トップ&1段 LIXIL同等品		
③	外壁1：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料カラークリアー仕上）：ランディックスコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上） 打継化粧目地シーリング 20x15 (PU-2)						

			設計変更年月日		1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋谷建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名	新きゅう役員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺	A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 A 22
			1回 年 月 日			図面名	立面図（2）	設計	年 月 日	1級建築士登録 第 号	
			2回 年 月 日								
			3回 年 月 日								

凡 例	
①	A：R階屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S1-M2工法）FP板：t=35 B：エレベーター部屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S-M2工法）
②	コンクリート金ゴテ押工の上、ウレタン塗膜防水（X-2工法）平場、立上、架台基礎共
③	外壁1：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がークリアー仕上） ：ラディックコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上）打継化粧目地シーリング 20x15（PU-2）
④	外壁2：化粧コンクリート打放（杉板本実型 浮造加工）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がークリアー仕上） ：ラディックコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上）打継化粧目地シーリング 20x15（PU-2）
⑤	外壁3：コンクリート打放面下地調整の上 複層塗材E（ゆず肌）上塗材（アクリルシリコン系；艶無、低汚染型） 打継、化粧目地シーリング 20x15（PU-2）
⑥	軒天：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がークリアー仕上） ：ラディックコートWS疎水材B工法（大日技研工業 同等品以上）目地：20×10 @2,000以内
⑦	床：塗膜防水（コンクリート金ゴテ）バタックA-2工法 同等以上 ＋コンクリート金ゴテ目地切り@2000下地 ※排水溝は、＋防水モルタル金ゴテ下地



■バルコニー、共有廊下 開放性の確認

【4階】  
1.59≧1.10  
1.59≧1.42 (1/2・2.84)  
∴h1≧1.1mかつh1≧1/2・h2である。

【3階】  
1.59≧1.10  
1.59≧1.42 (1/2・2.84)  
∴h1≧1.1mかつh1≧1/2・h2である。

【2階】  
1.59≧1.10  
1.59≧1.42 (1/2・2.84)  
∴h1≧1.1mかつh1≧1/2・h2である。

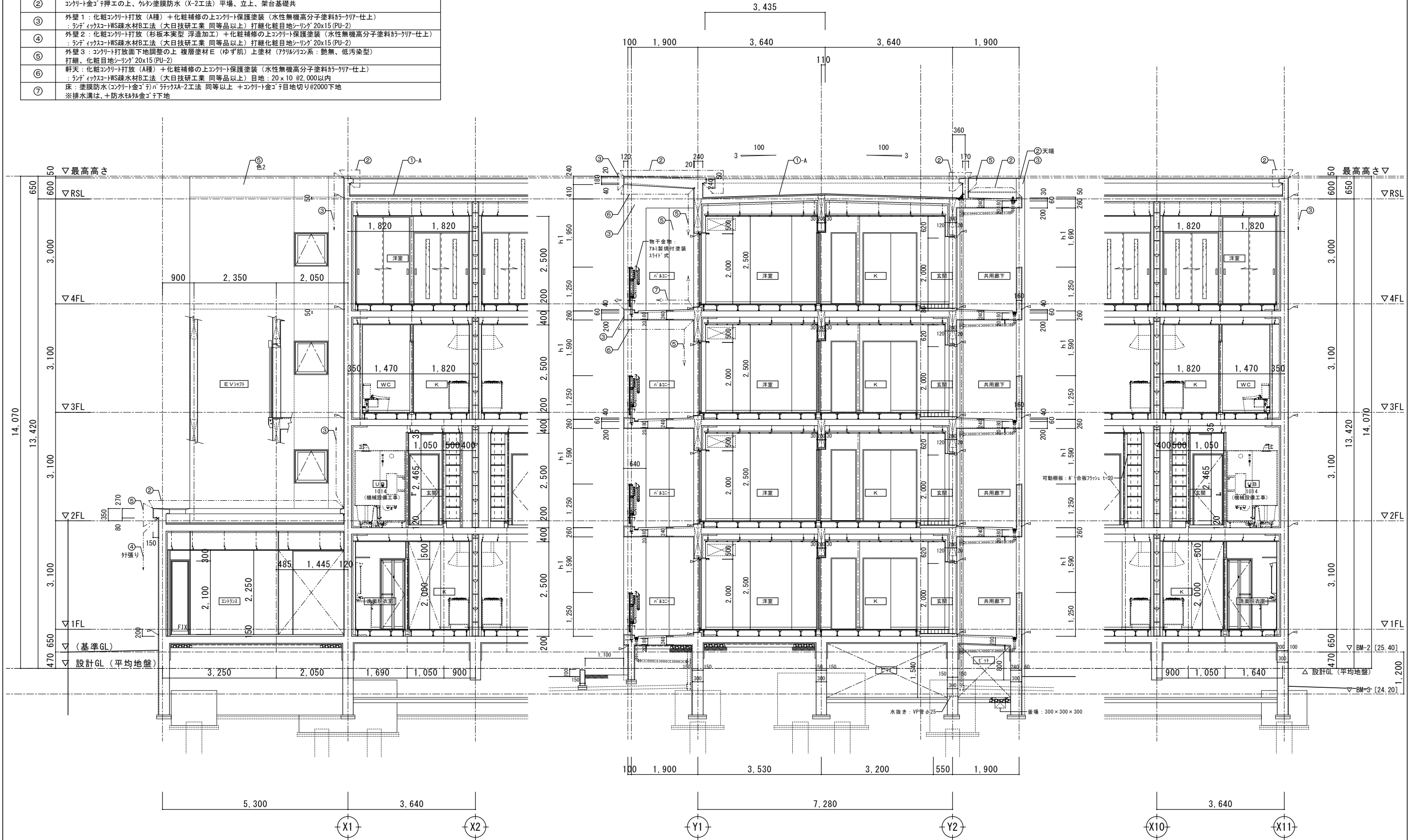
【1階】  
1.59≧1.10  
1.59≧1.42 (1/2・2.84)  
∴h1≧1.1mかつh1≧1/2・h2である。

断面詳細図 1 1/50

設計変更年月日			1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゆう役員宿舎C棟新築（建築）工事  図面名 断面詳細図（1）	縮尺 A1版：1/50 A3版：1/100  設計 年 月 日	佐賀県競馬組合  1級建築士登録 第 号	図面番号 A 23
	1回	年 月 日					
	2回	年 月 日					
	3回	年 月 日					

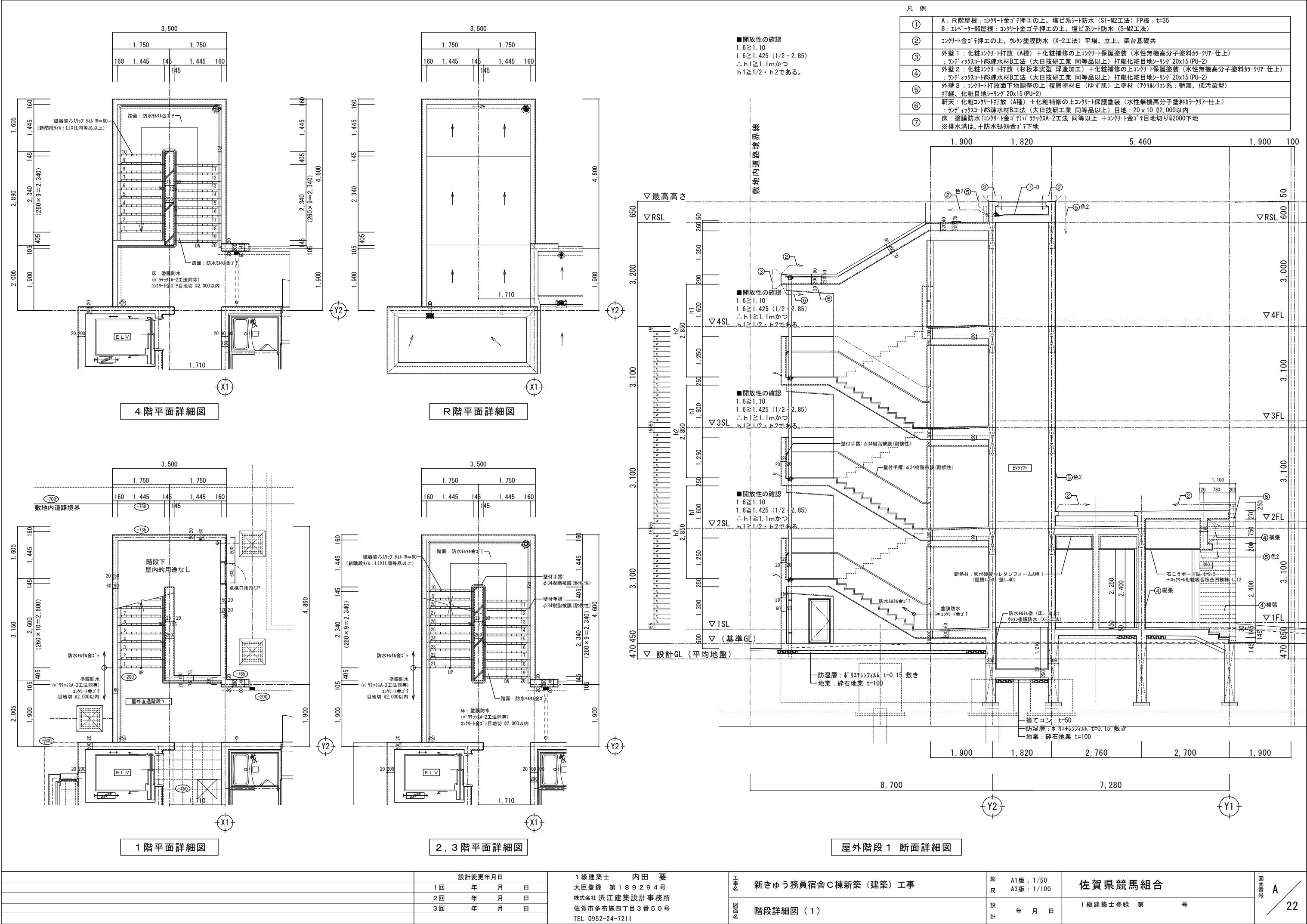
凡 例

①	A：R階屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S1-M2工法）FP板：t=35 B：エレベーター部屋根：コンクリート金ゴテ押工の上、塩ビ系シート防水（S-M2工法）
②	コンクリート金ゴテ押工の上、ウレタン塗膜防水（X-2工法）平場、立上、架台基礎共
③	外壁1：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がークリアー仕上） ：ラディックコートWS疎水材B工法（大目技研工業 同等品以上）打継化粧目地シーリング 20x15（PU-2）
④	外壁2：化粧コンクリート打放（杉板本実型 浮造加工）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がークリアー仕上） ：ラディックコートWS疎水材B工法（大目技研工業 同等品以上）打継化粧目地シーリング 20x15（PU-2）
⑤	外壁3：コンクリート打放面下地調整の上 複層塗材E（ゆず肌）上塗材（アクリルシリコン系、艶無、低汚染型） 打継、化粧目地シーリング 20x15（PU-2）
⑥	軒天：化粧コンクリート打放（A種）＋化粧補修の上コンクリート保護塗装（水性無機高分子塗料がークリアー仕上） ：ラディックコートWS疎水材B工法（大目技研工業 同等品以上）目地：20 x 10 ②2,000以内
⑦	床：塗膜防水（コンクリート金ゴテ）パタックスA-2工法 同等以上 ＋コンクリート金ゴテ目地切り②2000下地 ※排水溝は、＋防水モルタル金ゴテ下地

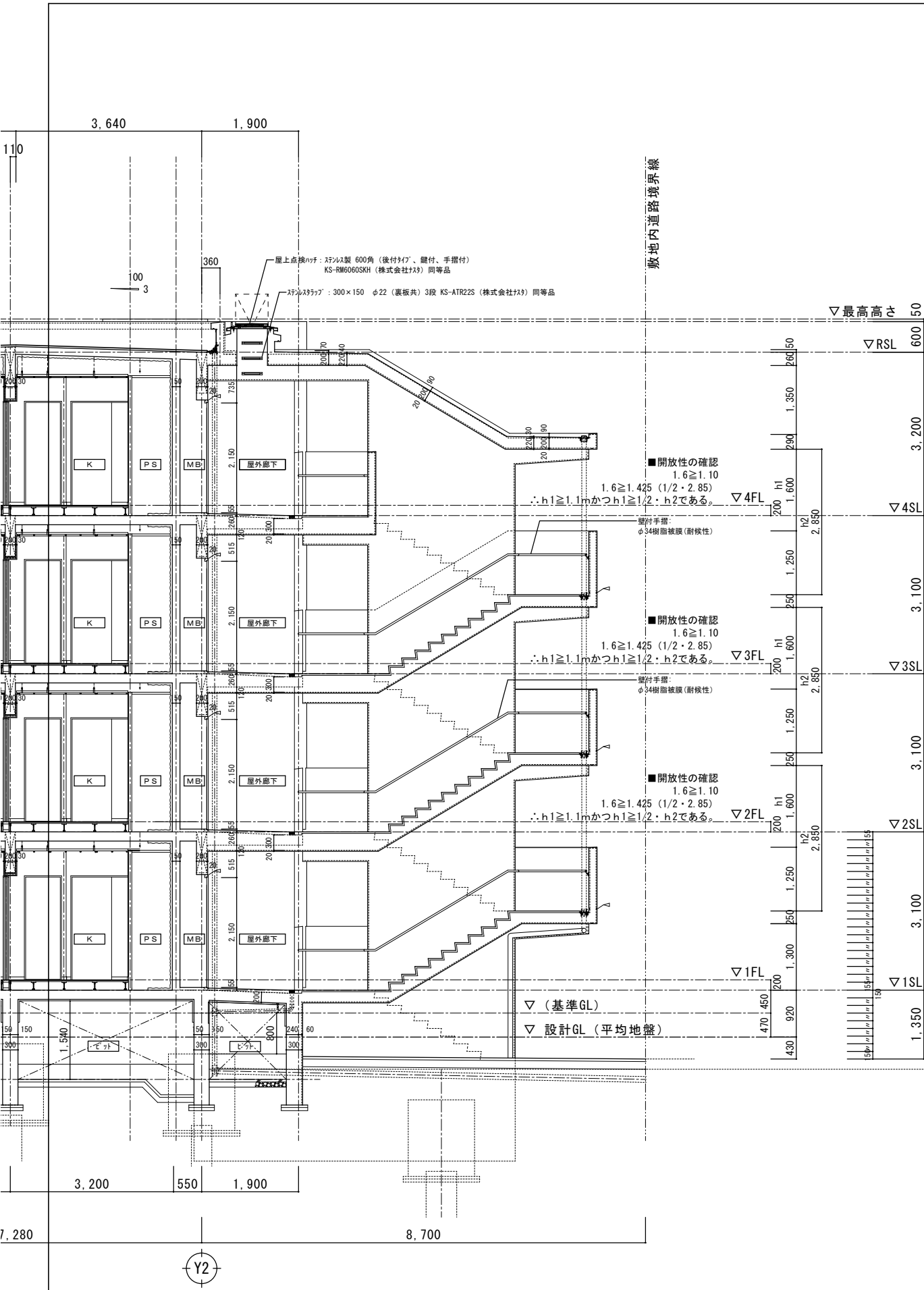


断面詳細図 2 1/50

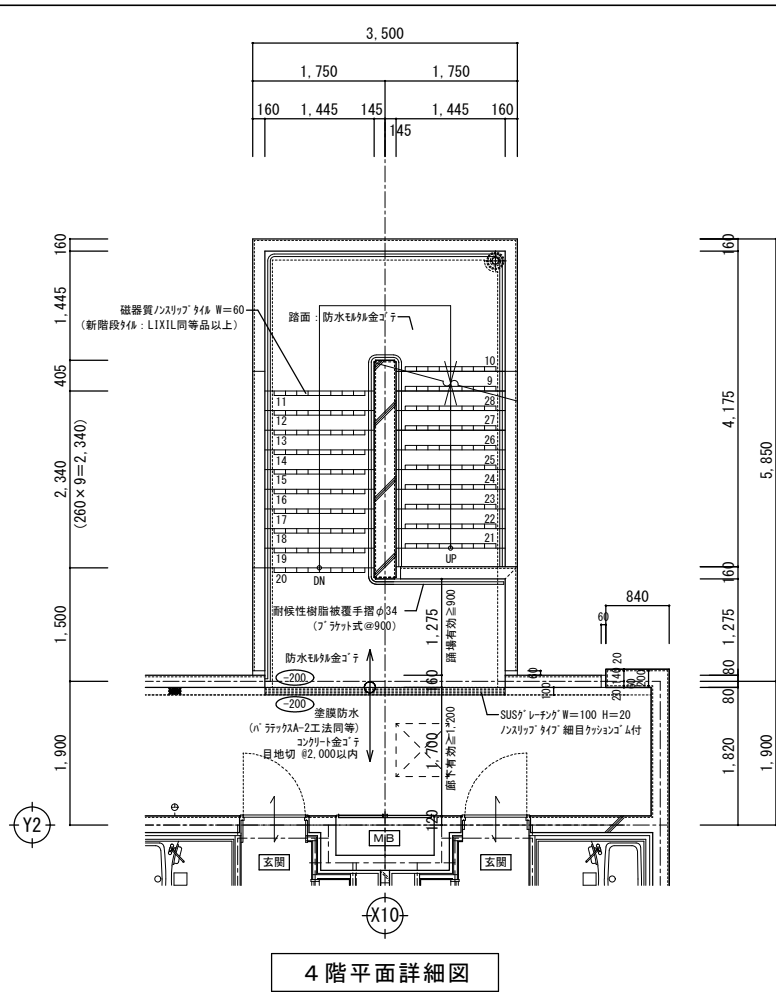
		設計変更年月日		1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋谷建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゆう役員宿舎C棟新築（建築）工事  図面名 断面詳細図（2）	縮尺 A1版：1/50 A3版：1/100  設計 R4年1月18日	佐賀県競馬組合  1級建築士登録 第 号	図面番号 A 21
		1回	年 月 日					
		2回	年 月 日					
		3回	年 月 日					



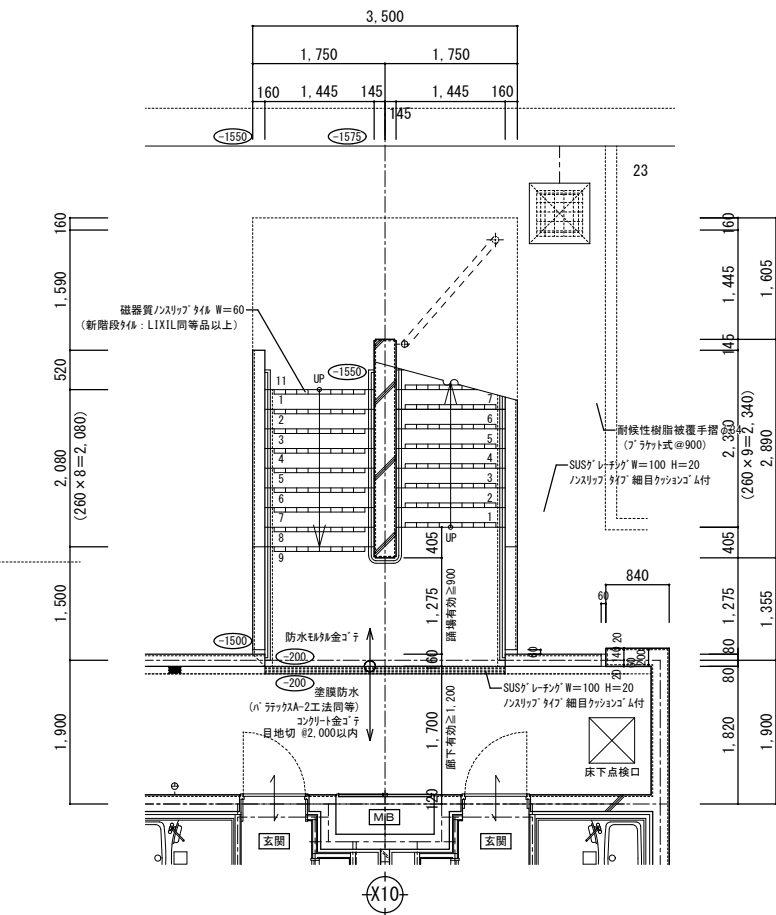




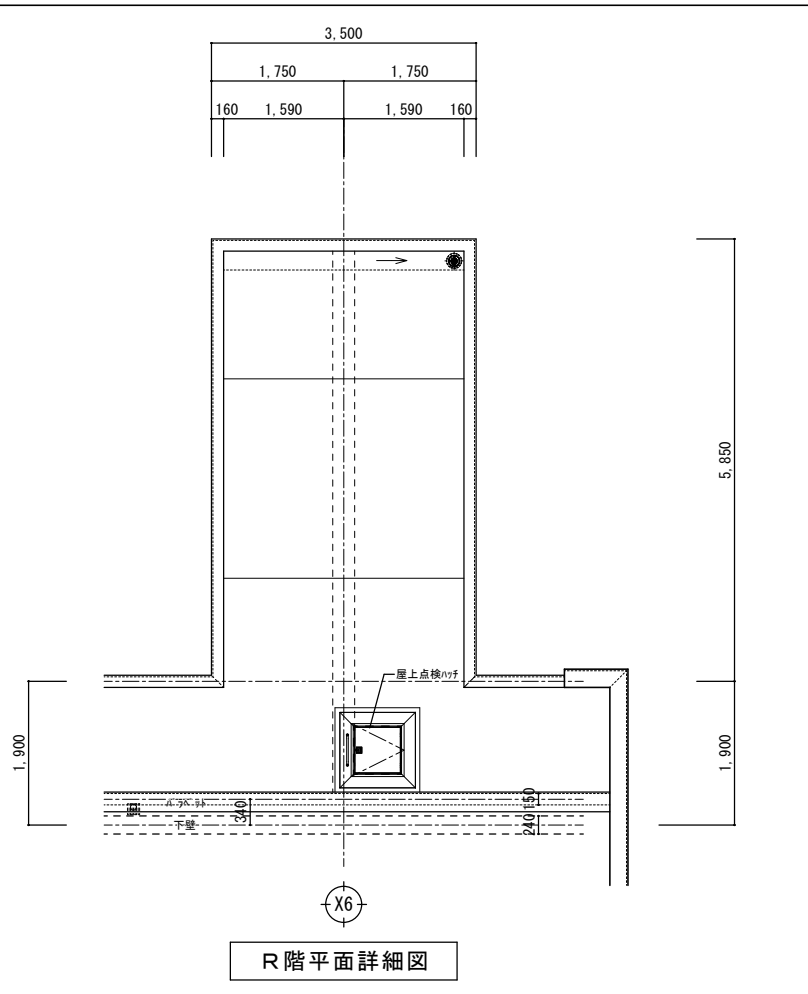
屋外階段2 断面詳細図



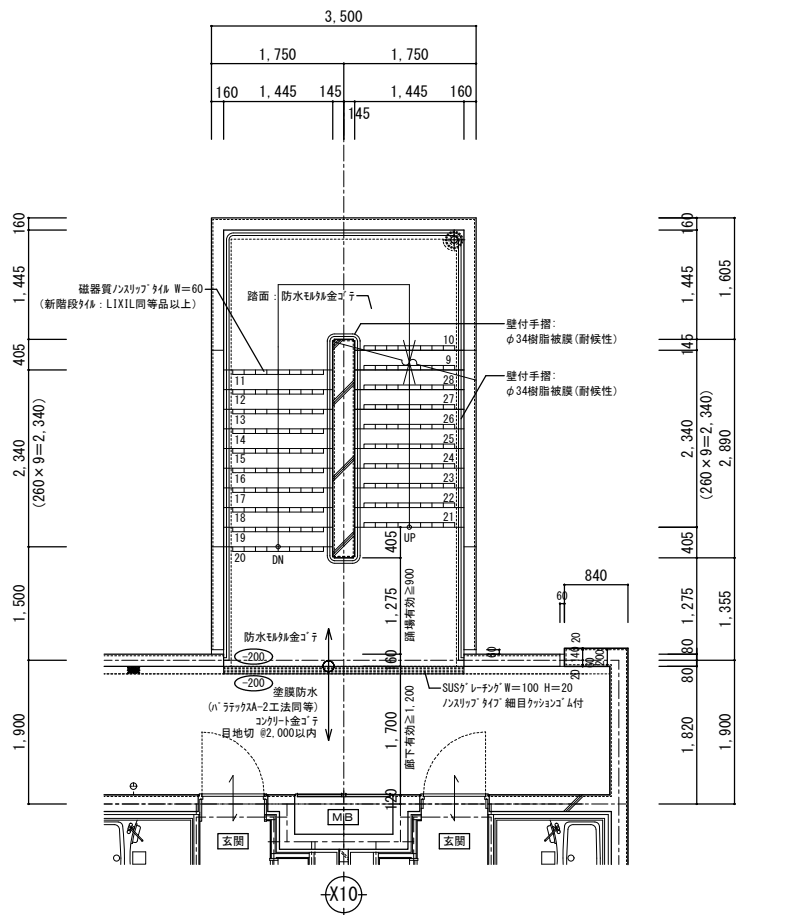
4階平面詳細図



1階平面詳細図



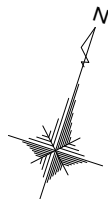
R階平面詳細図



2,3階平面詳細図

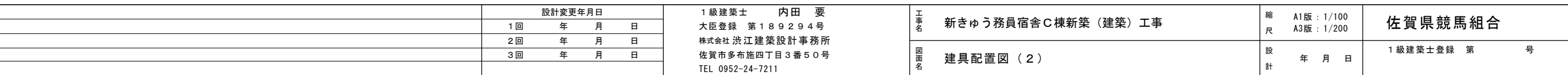
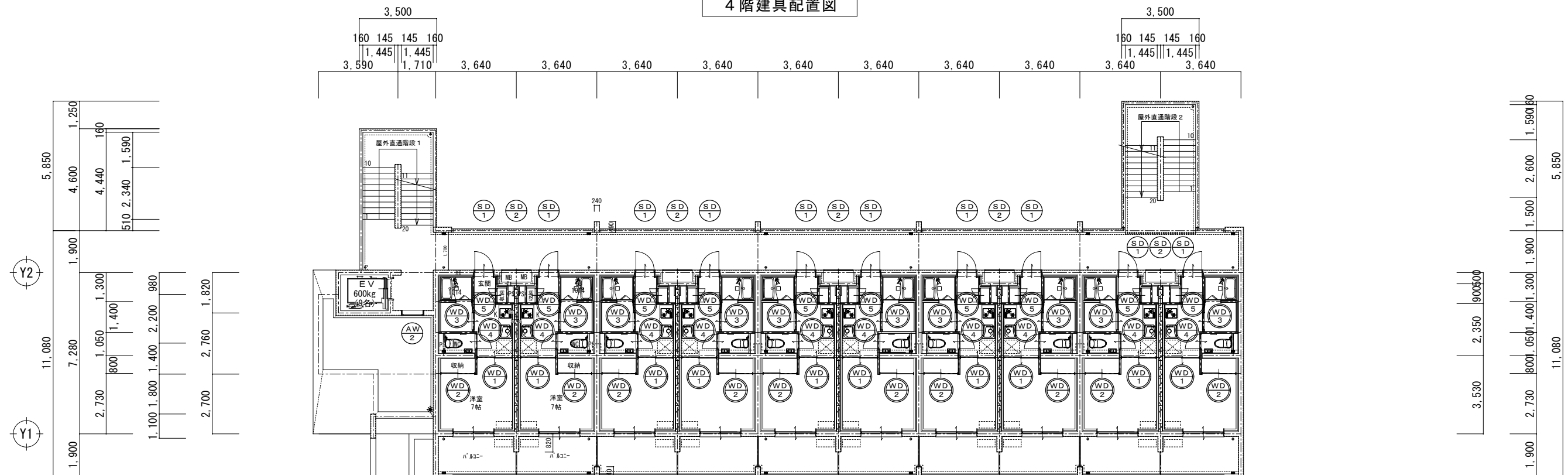
○200・・・各FLからの高さを示す。

			設計変更年月日			1級建築士 内田 要			工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事			縮尺 A1版：1/50 A3版：1/100			佐賀県競馬組合			図面番号 A 23		
			1回 年 月 日			大臣登録 第189294号														
			2回 年 月 日			株式会社 渋江建築設計事務所			図面名 階段詳細図（2）			設計 年 月 日			1級建築士登録 第 号					
			3回 年 月 日			佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211														



## 1 階建具配置図

		設計変更年月日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 洪江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 A 24
		1回 年 月 日		図面名 建具配置図（1）	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	
		2回 年 月 日					
		3回 年 月 日					

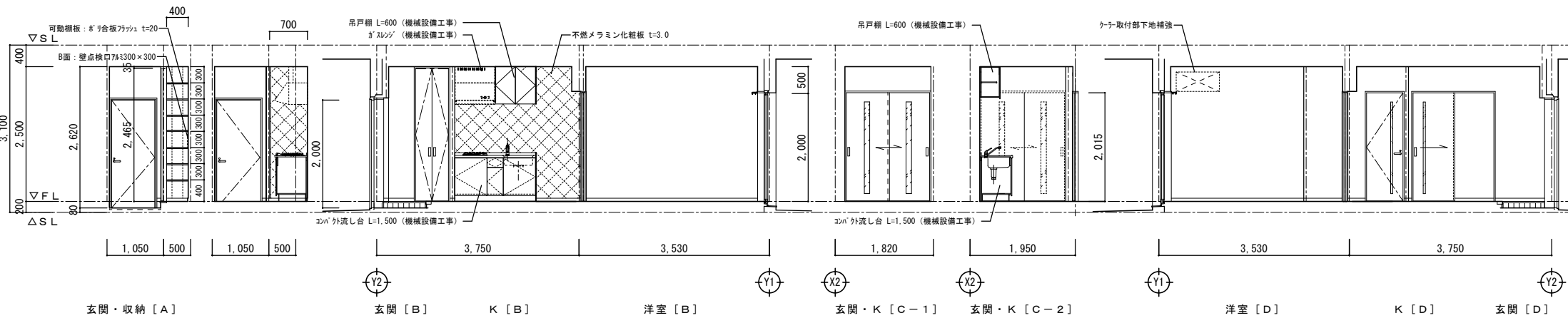


記号	名称	<div><div>AD</div><div>1</div></div> ランマ窓、FIX袖付両開きフロアヒンジドア（外面付）		<div><div>AD</div><div>2</div></div> 片開き戸（設備点検用）				<div><div>SD</div><div>1</div></div> スチール片開きフラッシュ戸（防音・耐熱仕様）		<div><div>SD</div><div>2</div></div> 片開き戸	
姿図											
	室名	数量	エントランス	1	屋外階段 1（東面）	1		玄関	40	MB	20
	仕上	見込	7mmB-2種（A2）ブラック	100	7mm形材（ブラック）	70		扉：化粧銅板（カエグ・横木目）＋ポリエステル化粧樹脂	扉：36	特殊溶融亜鉛メッキ銅板 t=0.8＋SOP塗（枠、扉共）	90
	硝子	扉：強化ガラス t=6.0    FIX：強化ガラス t=5.0		7mmプレート t=4.0（ブラック）				枠：溶融亜鉛メッキ銅板＋防錆塗装＋SOP塗	枠：80		
	金物	シンガー錠、サムターン錠、フロアヒンジ		ハンドル、本締錠、カーブ7mm水切、7mm額縁				レバーハンドル錠＋本締錠、ステンレスHL番摺、戸当り、ドアローザー、ドアガード、7mm額縁	ケースハンドル型内掛錠、SUS丁番、上下軸		
備考	逆マスター仕様、その他付属金物 7mm額縁		その他付属金物				その他付属金物（LIXIL：NTⅡ フラットタイプ ハイグレードカー 同等品） 額縁D120	住戸表示板等BL品による金物一式			
記号	名称	<div><div>AW</div><div>1</div></div> FIX窓		<div><div>AW</div><div>2</div></div> 突出し窓		<div><div>AW</div><div>3</div></div> 引違い窓				<div><div>WD</div><div>1</div></div> 引き違いフラッシュドア	
姿図											
	室名	数量	エントランス	1	E.V.ホール	3	洋室	40		洋室	40
	仕上	見込	7mm形材（ブラック）	70	7mm形材（ブラック）	70	7mm形材（ブラック）	70		両面：ポリエステル合板フラッシュ 小口：堅木 カーCL塗装	扉：36
	硝子	強化ガラス t=5.0		複層：FL5＋A12＋FL5		複層：FL5＋A12＋FL5				採光窓：7mm板t=4（不透明）	
	金物	カーブ7mm水切、7mm額縁		ハンドル、カーブ7mm水切、7mm額縁		クレセント、ステンレス水切、上框閉開がら				SUS船底引手、サイレント戸車、戸当り、V型レール（カーブ7mm）	
備考	その他付属金物 額縁D150		網戸、その他付属金物 額縁D180		網戸、その他付属金物 額縁D130				その他付属金物		
記号	名称	<div><div>WD</div><div>2</div></div> 引き違いフラッシュドア		<div><div>WD</div><div>3</div></div> 片引きフラッシュドア		<div><div>WD</div><div>4</div></div> 片引きフラッシュドア		<div><div>WD</div><div>5</div></div> 両開きフラッシュドア			
姿図											
	室名	数量	洋室	40	洗面脱衣室	40	洗面脱衣室	40	玄関	40	
	仕上	見込	両面：ポリエステル合板フラッシュ 小口：堅木 カーCL塗装	扉：36	両面：ポリエステル合板フラッシュ 小口：堅木 カーCL塗装	扉：36	両面：ポリエステル合板フラッシュ 小口：堅木 カーCL塗装	扉：36	両面：ポリエステル合板フラッシュ 小口：堅木 カーCL塗装	扉：33	
	硝子			採光窓：7mm板t=4（不透明）		採光窓：7mm板t=4（不透明）					
	金物	SUS船底引手、サイレント戸車、戸当り、V型レール（カーブ7mm）		表示錠（内部サムターン）、SUS船底引手、埋込吊レール、埋込ガイドピン、その他付属金物		表示錠（内部サムターン）、SUSレバーハンドル、戸当り、SUS丁番3枚吊、その他付属金物		ソフトモーション丁番（SUS304）、SUS取手（掘込タイプ）、戸当り			
備考	その他付属金物		下部アンダーカット≧H10		下部アンダーカット≧H10		その他付属金物				
				設計変更年月日		1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 渋江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211		工事名 新きゆう務員宿舎C棟新築（建築）工事		縮尺 A1版：1/50 A3版：1/100	
				1回 年 月 日				図面名 建具表		設計 年 月 日	
				2回 年 月 日						佐賀県競馬組合	
				3回 年 月 日						1級建築士登録 第 号	
										図面番号 A 26	



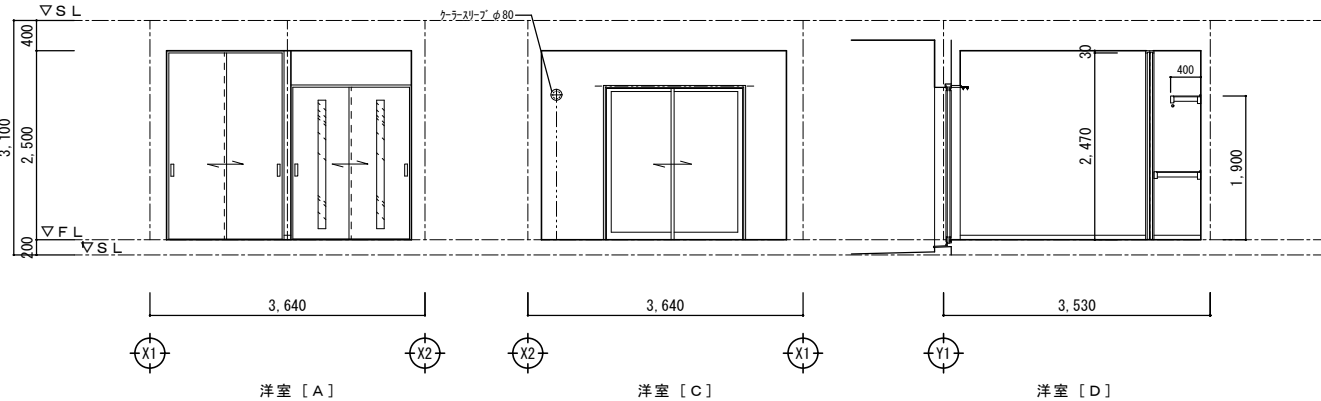


玄関・収納	
天井	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
壁	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
腰	同上
巾木	磁器質タイル 100角、木製SOP H=60
床	磁器質タイル 100角 複合フローリング貼 t=12.0
備考	上り框：集成材 (9t) OL塗装 可動棚：ｶﾞﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ t=20 壁点検口7ﾙ300×300 ｺﾊﾞ外流し台 L=1,500 (機械設備工事) 吊戸棚 L=600 (機械設備工事) ｼﾝｸﾞｰﾄﾞ L=600 (機械設備工事) 不燃メラミン化粧板目地：ｼｰﾘﾝｸﾞ 、ｺﾝﾄ見切：ｼﾞﾅｲﾅｰ

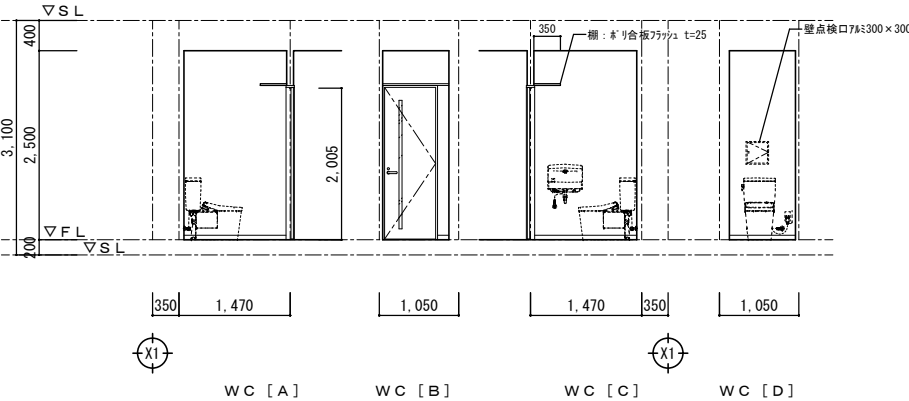


K	
天井	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
壁	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ 一部、石こうボード貼 t=12.5 +不燃メラミン化粧板 t=3.0
腰	同上
巾木	木製SOP H=60
床	複合フローリング貼 t=12.0
備考	ｺﾊﾞ ｸﾞﾗｯｼｭ W=1500 (設備工事)

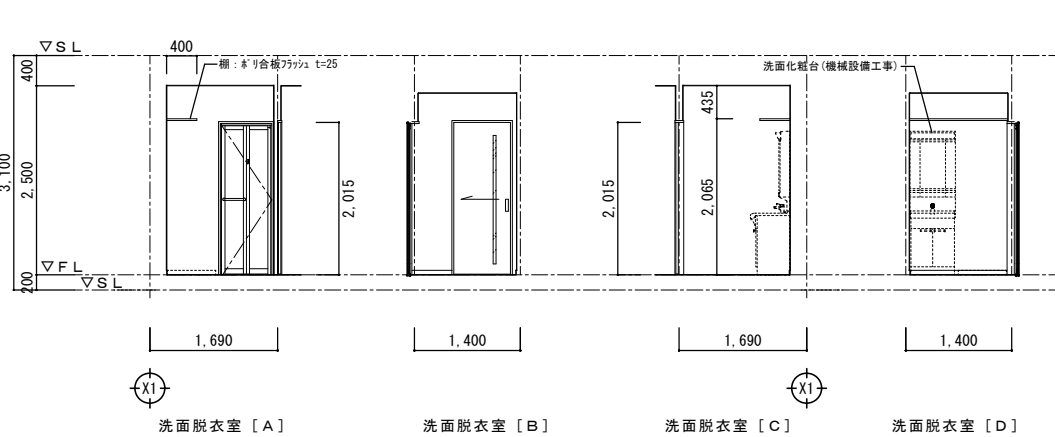
洋室・収納	
天井	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
壁	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
腰	同上
巾木	木製SOP H=60
床	複合フローリング貼 t=12.0
備考	SUS-ﾌﾟﾚｰﾄ W型 L=2,100 ｸﾞﾗｯｼｭ ｳｳ ｳ90、ｸﾞﾗｰ取付部下地補強 中段、枕棚、SUSｳｳ-ｳﾞ-ｲﾌ ｳ32 L=1600



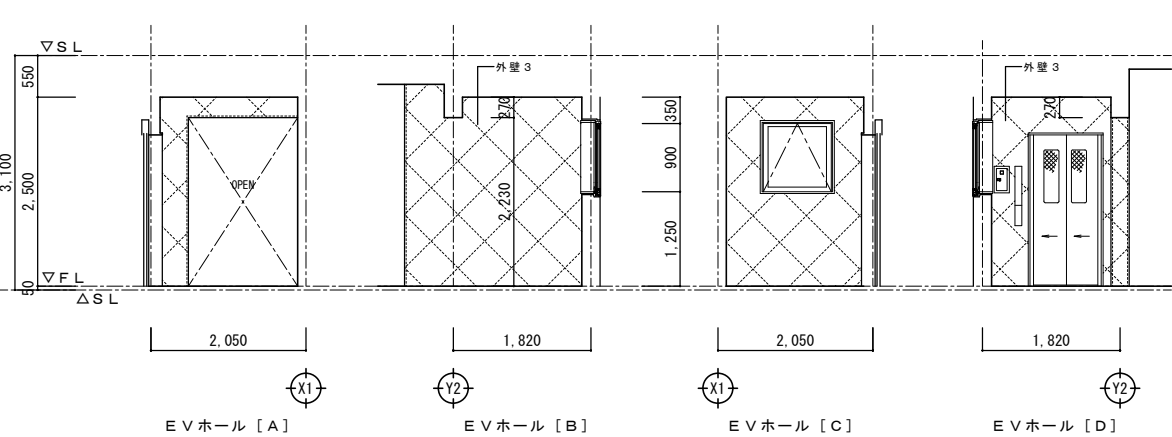
WC	
天井	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
壁	石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
腰	同上
巾木	木製SOP H=60
床	長尺シート貼 t=2.0 耐水ベニヤ (T1) 拵貼 t=12.0
備考	便器、紙巻器、手洗器 (機械設備工事) 棚板：ｶﾞﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ t=25 壁点検口7ﾙ300×300



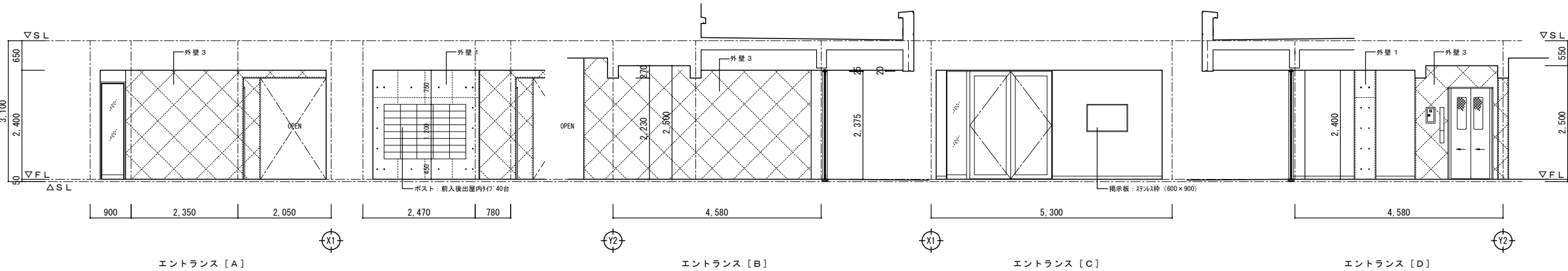
洗面脱衣室	
天井	珪酸カルシウム板 t=6.0+EP
壁	石こうボード貼 t12.5 +塗装珪酸カルシウム板 t=6.0 (目地：ｼｰﾘﾝｸﾞ処理)
腰	同上
巾木	木製SOP H=60
床	長尺シート貼 t=2.0 耐水ベニヤ (T1) 拵貼 t=12.0
備考	床下点検口SUS450×450 天井点検口7ﾙ3450×450目地ﾀﾞｲ (4階のみ) 棚：ｶﾞﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ t=25 D=400 洗面化粧台 W600 (機械設備工事) 洗濯機ﾊﾞﾝ (機械設備工事)



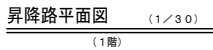
E Vホール	
天井	石こうボード貼 t=9.5+ ロックウール化粧吸音板凸凹模様t=12
壁	外壁 3
腰	同上
巾木	
床	差戻防水ﾊﾞﾗｯｸﾞｽﾙｰ2工法 同等以上
備考	天井点検口450×450 (7ﾙ製目地ﾀﾞｲ)



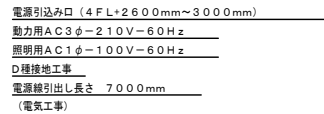
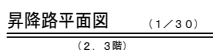
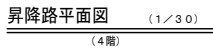
エントランス	
天井	石こうボード貼 t=9.5+ ロックウール化粧吸音板凸凹模様t=12
壁	外壁 1 外壁 3 石こうボード貼 t12.5+壁紙ｸｽ
腰	同上
巾木	壁紙ｸｽ部：磁器質ﾀｲﾙ70×1200角 付けかまち (小箱仕上) ｼﾞｪｯﾄﾌﾞﾗｯ (LIXIL) 同等品以上
床	磁器質ﾀｲﾙ 300角 (外部床対応)
備考	ポスト：前入後出屋内ﾀﾞｲ7 40台 KS-MB 7102PY-PK (株式会社ﾌｻ) 同等品以上 掲示板：ｽﾌﾟﾙｽ枠 (600×900) 天井点検口450×450 (7ﾙ製目地ﾀﾞｲ) 2ヵ所



(02265)

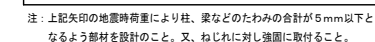
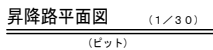


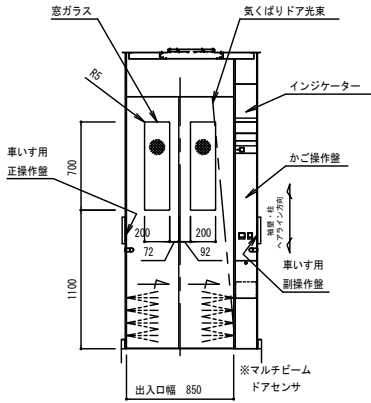
昇降路平面図 (1/30)



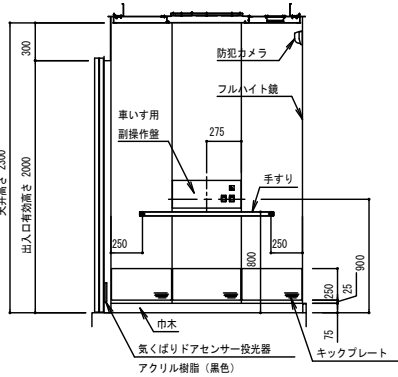
照明用電源AC1φ100V60Hz (設備容量1kVA/台 電源側NF容量20AT/台) (\*) 電源側に漏電遮断器を設置する場合

高調波対策内容		機器名称	定格容量 (kVA)	台数	合計容量 P (kVA)	回路分 細分 N o.	6パルス 換算係数 (K 1)	6パルス等価 容量 (kVA) [K1×P1]	機器最大 稼働率 (%)	基本電流に対する高調波電流発生率 n (%)							
										5次	7次	11次	13次	17次	19次	23次	25次
○	ノイズフィルタのみ (標準)	○ 1号機	3.9	1	3.9	31	3.4	13.2	25	65	41	8.5	7.7	4.3	3.1	2.6	1.8
	DCリアクトル追加 (K1=1.8相当)					33	1.8	7	25	30	13	8.4	5	4.7	3.2	3	2.2

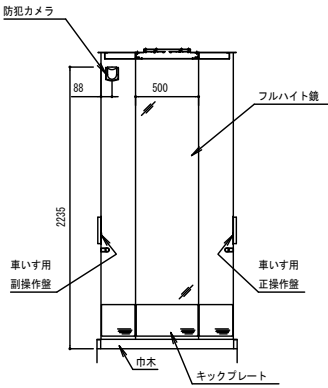
$$\text{各次数毎の高調波流出電流量 (mA)} = \frac{\text{合計容量 } P_i \text{ (kVA)}}{\text{受電電圧 (kV)} \times \sqrt{3}} \times 10^3 \times \text{各次数毎の発生率 } I_n \text{ (\%)} \times \text{機器最大稼働率 } k \text{ (\%)}$$




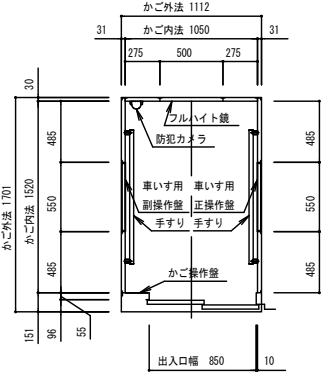
カゴ室正面図 (1/30)



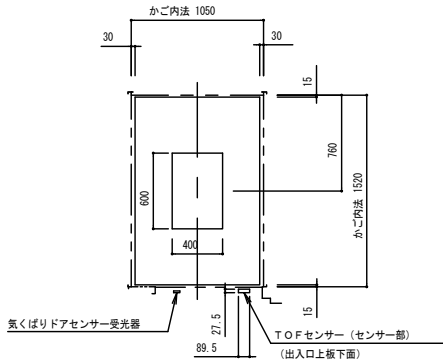
カゴ室側面図 (1/30)



カゴ室背面図 (1/30)

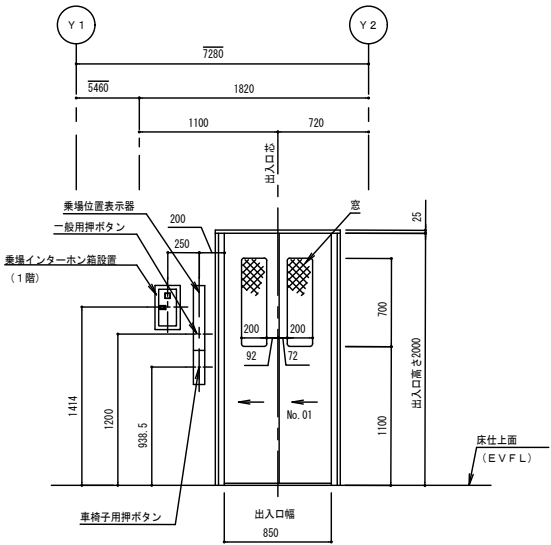


カゴ室平面図 (1/30)



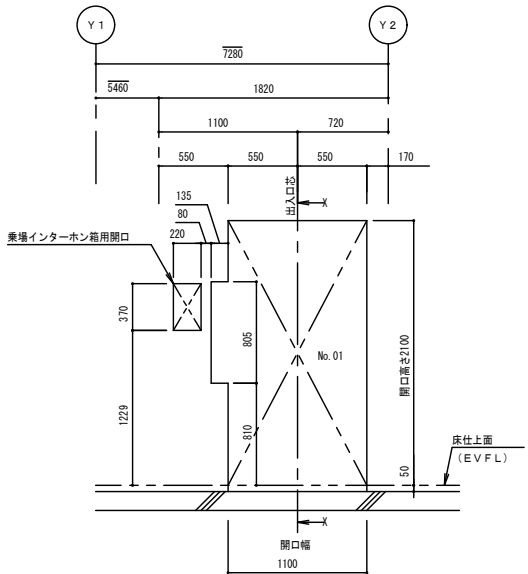
天井伏図 (1/30)

かご室意匠仕様	
天井	鋼板塗装仕上
換気装置	ＤＣ軸流ファン＋ヘルスエアー R
照明	乳白色樹脂照明板 ＬＥＤ照明（白色）
停電灯	主照明兼用式
壁	化粧鋼板
出入口上板	化粧鋼板
戸	化粧鋼板
袖壁・柱	ステンレスヘアライン仕上
巾木	アルミ製
床仕上部	樹脂タイル t2
数器	アルミ製
窓ガラス	網入り合わせガラス t10.56（段差：無）JIS R3205
フルハイト鏡	ステンレス鏡面仕上 t1.5
手すり	ステンレスヘアライン仕上（φ32） キャップ：樹脂（パールメッキ） ブラケット：アルミ ブラケットカバー：樹脂（パールメッキ）
キックプレート	ステンレスヘアライン仕上：ビス無

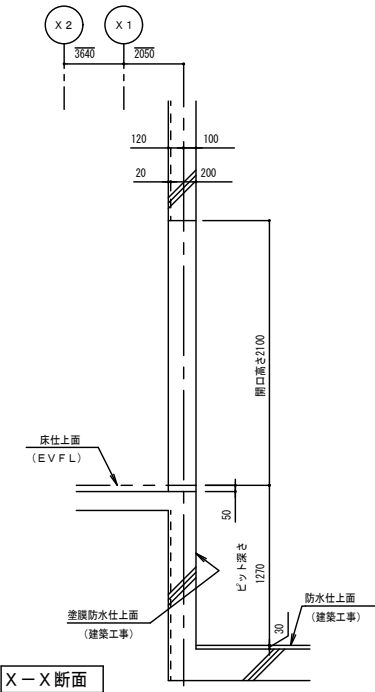


乗場正面図 (1/30)  
(No. 01号機)  
(1～4階)

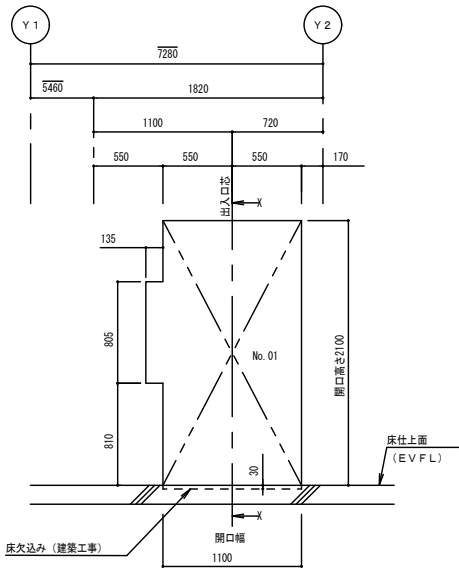
※窓付の場合は、特定防火設備に該当しません



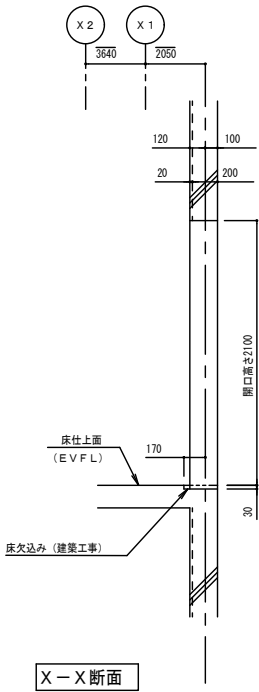
乗場穴あけ図 (1/30)  
(No. 01号機)  
(1階)



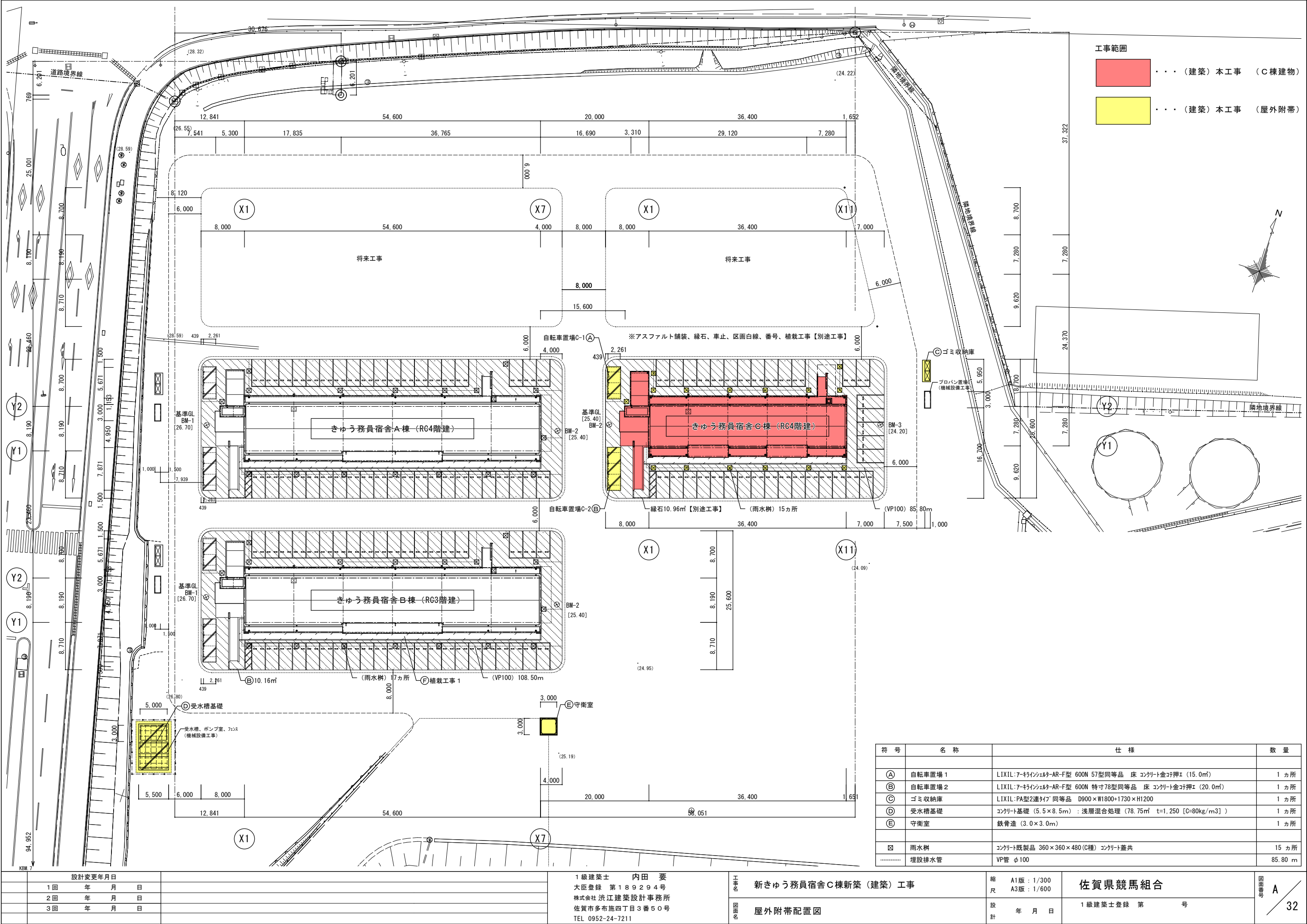
X-X断面



乗場穴あけ図 (1/30)  
(No. 01号機)  
(2～4階)



X-X断面



工事範囲

・・・（建築）本工事（C棟建物）

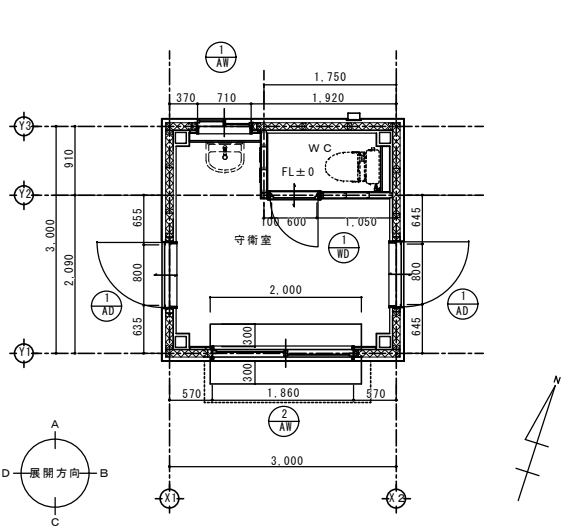
・・・（建築）本工事（屋外附帯）

符 号	名 称	仕 様	数 量
(A)	自転車置場 1	LIXIL:7-ライインジェクタ-AR-F型 600N 57型同等品 床 コンクリート金型押入 (15.0㎡)	1 カ所
(B)	自転車置場 2	LIXIL:7-ライインジェクタ-AR-F型 600N 特寸78型同等品 床 コンクリート金型押入 (20.0㎡)	1 カ所
(C)	ゴミ収納庫	LIXIL:PA型2連タイプ 同等品 D900×W1800+1730×H1200	1 カ所
(D)	受水槽基礎	コンクリート基礎 (5.5×8.5m) : 浅層混合処理 (78.75㎡ t=1,250 [C=80kg/m3] )	1 カ所
(E)	守衛室	鉄骨造 (3.0×3.0m)	1 カ所
☒	雨水樹	コンクリート既製品 360×360×480 (C種) コンクリート蓋共	15 カ所
-----	埋設排水管	VP管 φ100	85.80 m

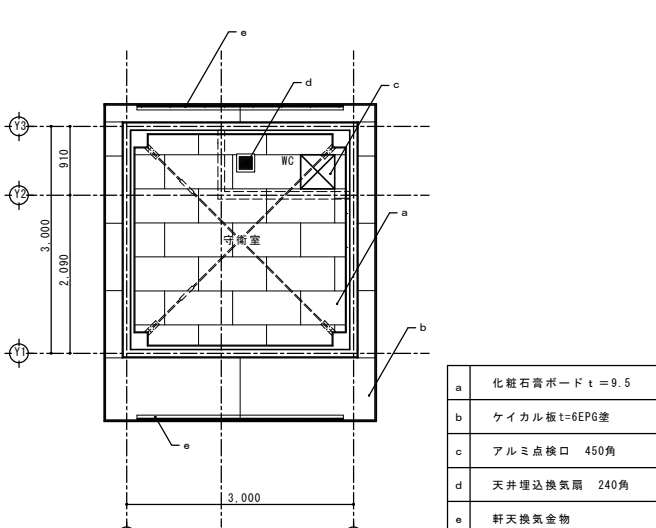
工事概要							
工 事 名 称	新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	用 途	守衛室	用 途 地 域	準工業地域	床 面 積	9.00㎡
建 設 地	佐賀県鳥栖市大字江島町字西谷3256番地228	構 造	鉄骨造	防 火 地 域	指定なし	前 面 道 路	国道34号線
建 築 主	佐賀競馬組合	工 率 種 別	新築	敷 地 面 積	450.000㎡		
				建 築 面 積	9.00㎡		

外部仕上表							
鉄骨造平屋建て	屋根	ガルバリウム鋼板t=0.5縦ハゼ葺き（嵌合式）改質アスファルトルーフィング 硬質野地板 t=25	外壁	窯業系サイディングt=16 通気金具止め工法 同質出隅役物 透湿防水シート C-100×50×20×2.3#600	天井	吹付硬質ウレタンフォームt=50、グラスウール24K t=100敷込	
	庇	ガルバリウム鋼板t=0.5平葺き 改質アスファルトルーフィング 硬質野地板 t=25		C00Lミライア（3つドレ）色）：ニチハ同等品以上	断熱材	外壁 吹付硬質ウレタンフォームt=50	
	軒天	ケイカル板 t=6/EPG塗	外部巾木	アクリル系吹付タイル 複層塗材E打放面 GL+400		外部巾木 硬質ウレタンフォーム保温板t=25	
	樋	住宅用塩ビ軒樋		エプロン モルタル金隠押さえ		基礎 硬質ウレタンフォーム保温板t=30	
		壁樋φ65	開口部	ビル用カラーアルミサッシ、ビル用アルミフラッシュ戸	軒天換気	軒天換気金物	

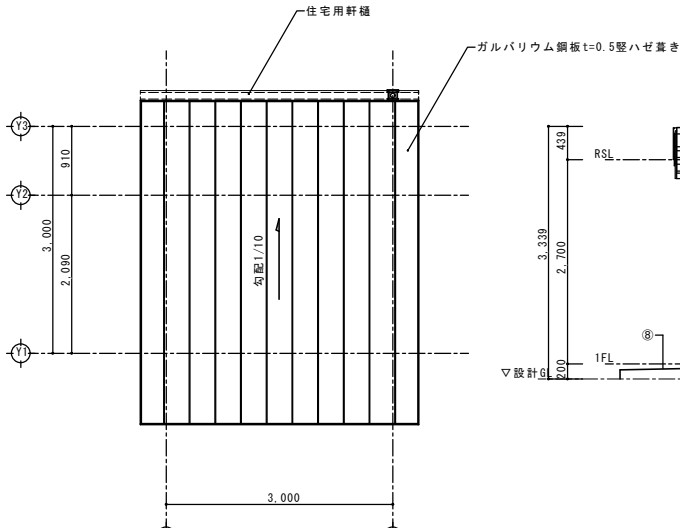
内部仕上表														
階	室名	床高 (FL)	天井高 (CH)	床		巾木		壁		天井		廻縁		備考
				下地	仕上	名称	高さ mm	下地	仕上	下地	仕上	名称	高さ mm	
1F	守衛室	±0	2,400	RC	モルタル t=28	ビニル床シート	ソフト巾木H60	60	LGS GB-R t=12.5 RC GB-R t=12.5 25型-W C鋼線 ライニング GB-S	ビニルクロス 同上 同上 同上	LGS 25型-W 化粧石膏ボードt=9.5	塩ビ製	60	受付カウンター：見付W=2000、D=300 ライニングW=120 天板：ポストフォームt=19 室内：ポリ合板フラッシュt=30 室外：合板t=30、SUS304t=2曲げ加工 模型ブラインド 800×800、2000×1200
	WC	±0	2,400	RC	モルタル t=28	ビニル床シート エポキシ系接着剤	同上	同上	LGS GB-R t=12.5 RC GB-R t=12.5 25型-W C鋼線 ライニング GB-S	ビニルクロス 同上 同上 同上	LGS 25型-W 同上	同上	同上	ライニングW=120 天板：ポストフォームt=19 棚板W850D300：ポリ合板フラッシュ



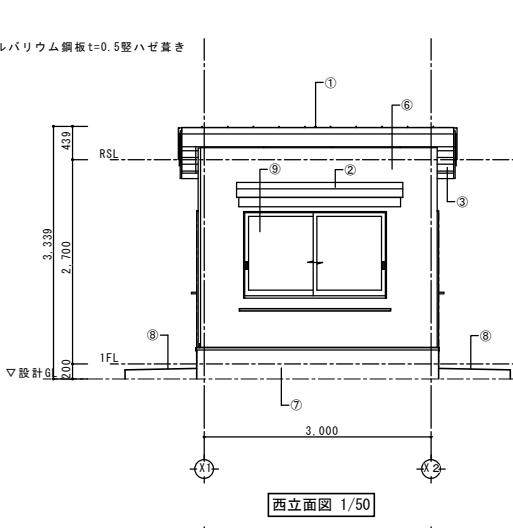
1F平面詳細図 1/50



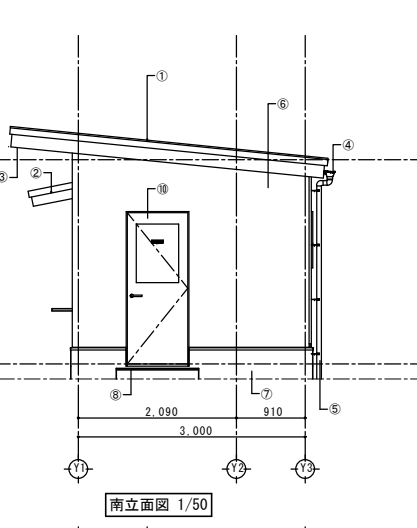
1F天井伏図 1/50



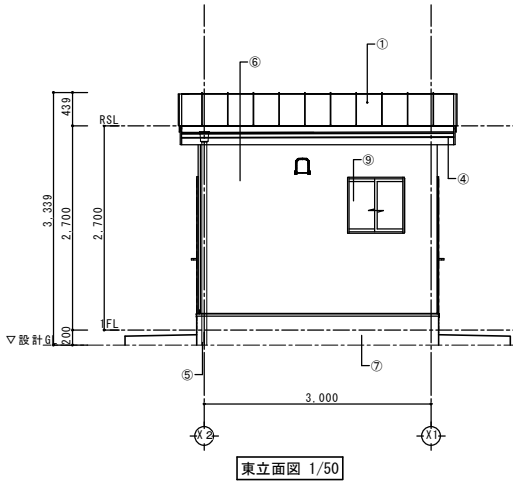
屋根伏図 1/50



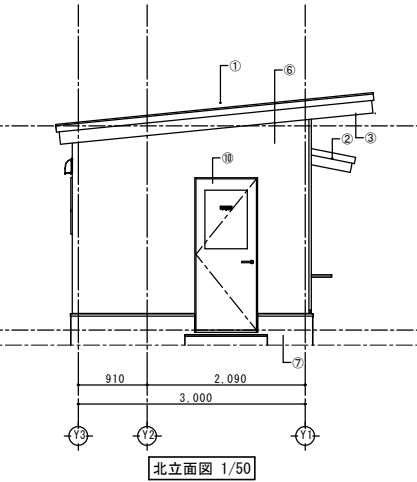
西立面図 1/50



南立面図 1/50

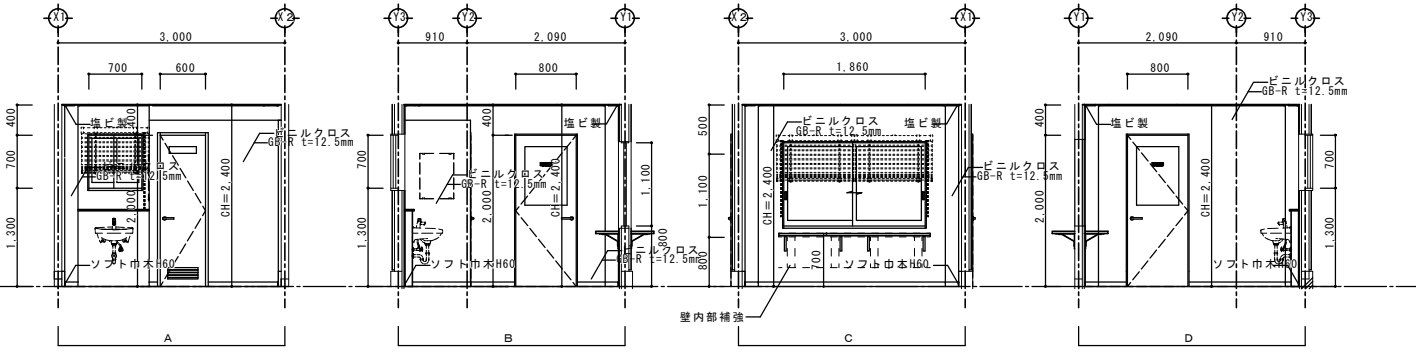


東立面図 1/50

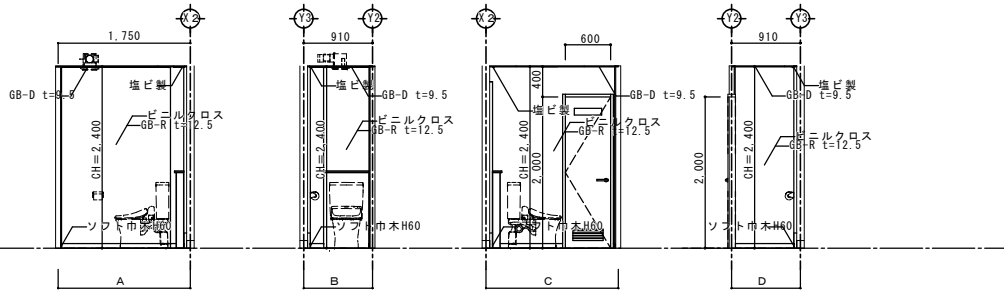


北立面図 1/50

1F 守衛室
天井 化粧石膏ボード GB-D t=9.5mm
廻縁 塩ビ製
壁 ビニルクロス
巾木 ソフト巾木H60
床 ビニル床シート t=2mm
備考

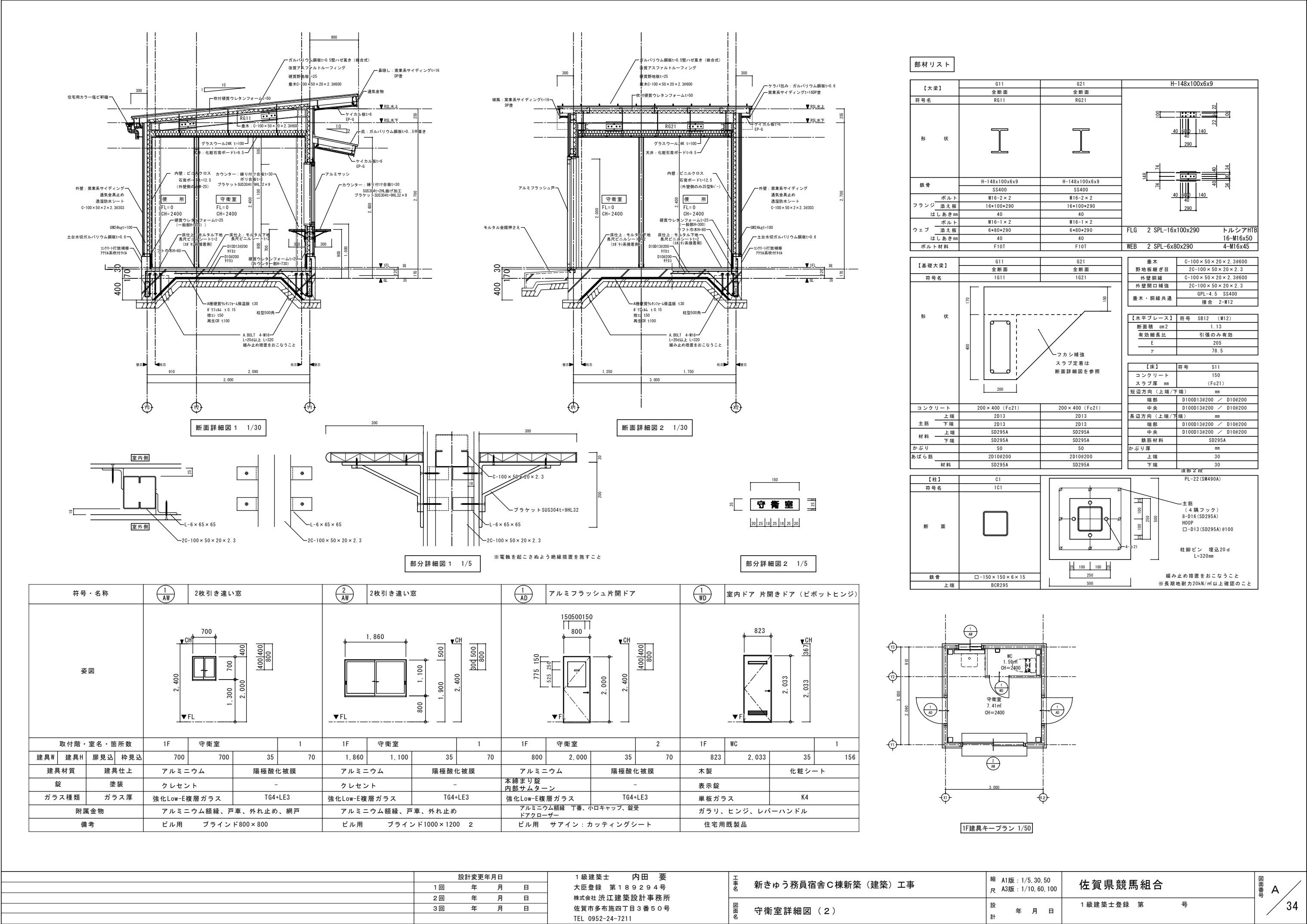


1F WC
天井 化粧石膏ボード GB-D t=10mm
廻縁 塩ビ製
壁 ビニルクロス
巾木 ソフト巾木H60
床 ビニル床シート t=2mm
備考

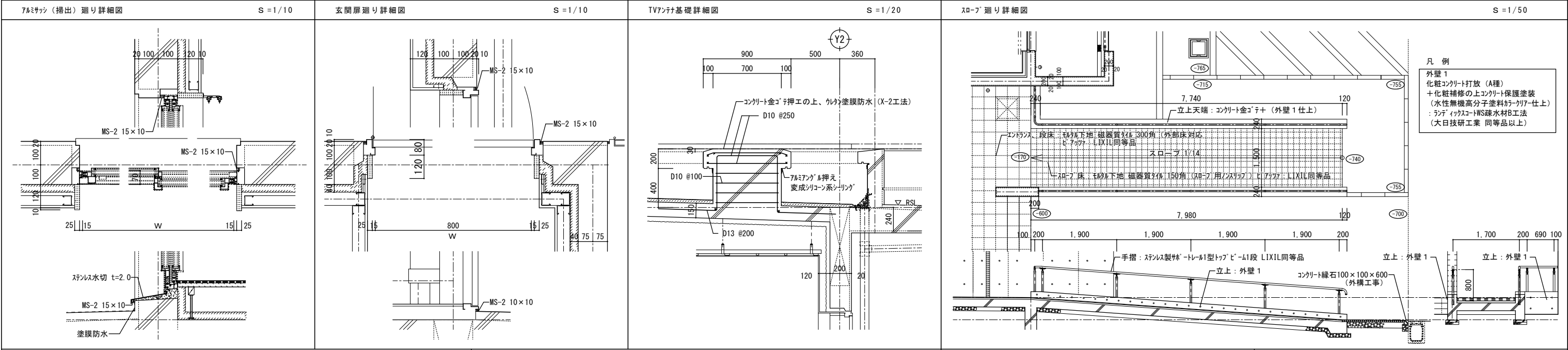


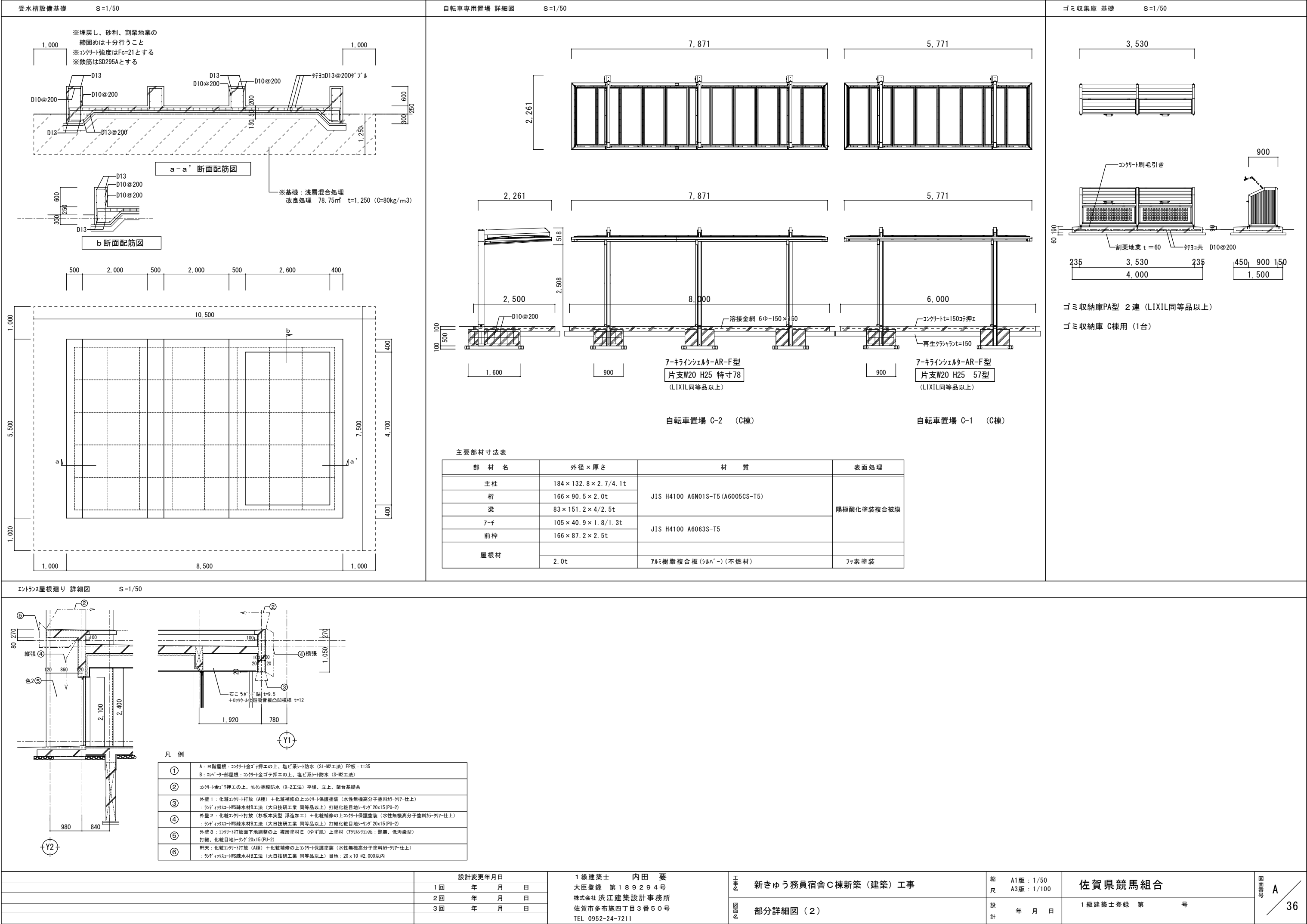
① ガルバリウム鋼板t=0.5縦ハゼ葺き（嵌合式）	⑥ 窯業系サイディングt=16 通気金具止め工法 同質出隅役物
② ガルバリウム鋼板t=0.5平葺き	⑦ アクリル系吹付タイル 複層塗材E打放面
③ ケイカル板 t=6/EPG塗	⑧ モルタル金隠押さえ
④ 住宅用塩ビ軒樋	⑨ ビル用カラーアルミサッシ
⑤ 住宅用塩ビ壁樋φ65	⑩ ビル用アルミフラッシュ戸

			設計変更年月日		1 級建築士 内田 要	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/50 A3版：1/100	佐賀県競馬組合	図面番号 A
			1 回	年 月 日	大臣登録 第189294号				
			2 回	年 月 日	株式会社 渋江建築設計事務所				
			3 回	年 月 日	佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211				
						図面名 守衛室詳細図（1）	設計 年 月 日	1 級建築士登録 第 号	33









構造設計標準仕様

適用は、■印を記入する。

1. 建築物の構造内容

1-1 工事概要

(1) 工事名称  
新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事

(2) 建築場所  
佐賀県鳥栖市江島町西谷

(3) 工事種別  
■新築 □増築 □増改築 □改築

(4) 構造種別  
□木造軸組（W） □木造枠組壁式（2×4） □補強コンクリートブロック造（CB） □鉄骨造（S）  
□鉄筋コンクリート造（RC） ■壁式鉄筋コンクリート造（WRC）  
□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）  
□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

(5) 階数  
地下 階 地上 4 階 塔屋 階

(6) 主要用途  
きゅう務員宿舎

(7) 屋上付属物  
□広告塔 □高架水槽 t □室外機  
□煙突 □キュービクル t □太陽光パネル

(8) 増築計画 □有（ ） ■無（同一棟ではない）

(9) 付帯工事  
□門塼 □擁壁 □ □

(10) 特別な荷重  
■エレベーター 9人乗り □リフト □ホイスト KN  
□倉庫積載床用 KN/㎡

1-2 工事特記仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（平成31年版）」、および日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説」JASS5（2018）による。

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm <sup>2</sup>	スランプcm	調合管理強度
掘コンクリート	■普通	■18	15	
土間スラブ	■普通	□18 □21 ■24	15	構造体強度補正 要
基礎、基礎梁	■普通	□18 □21 ■24	15	構造体強度補正 要
上部コンクリート	■普通	□18 □21 ■24	18	構造体強度補正 要
	□普通□軽量	□18 □21 □24	18	
■ Fc= 24 N/mm <sup>2</sup> の時 W/C= 55 %以下 コンクリート中の単位水量 185 kg/㎡以下、空気量 4.5 %とする。 □ Fc= N/mm <sup>2</sup> の時 W/C= %以下 コンクリート中の単位水量 kg/㎡以下、空気量 %とする。				

(2) コンクリートブロック（CB）  
□A種 □B種 □C種 厚□100 □120 ■150 □190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295	D10～D16	構造躯体全般
	■SD345	D19 以上	基礎、梁
	□SD390		
高強度せん断補強筋	□KSS785		D19 以上
溶接金網	□SR295		■機械式継手 ( )

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
□SS400 □SN400		□有 □無	
□BCR295		□有 □無	
□STKR400 □STKR490		□有 □無	
□SSC400		□有 □無	

※BCR295 大臣認定番号 MSTL-0141(JFE)同等品

(5) ボルト

□高力ボルト□メッキ、F8T□特殊、S10T認定品(□M12、□M16、□M20、□M22)  
□中ボルト M12、M16 高力ボルトすべり係数試験 □要 □否  
□アンカーボルト ABR490 M20 ダブルナット L=600  
SS400 M16 ダブルナット L=600

(6) 屋根、床、壁

■コンクリート+塩ビシート防水  
■コンクリート+乾式二重床+複合フローリング t=12  
■コンクリート下地ごしらえ複層塗材E

使用箇所  
屋根  
床  
外壁

3. 地盤

(1) 地盤調査資料

■有（■敷地内 □近隣） ■ボーリング調査 □平板載荷試験 □サウンディング試験  
□水平地盤反力係数測定 □液化化判定 □現場透水試験 □土質試験  
□無（調査予定 □有 □無）

(2) 地盤調査計画  
□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定  
□土質試験 □物理探査 □平板積載試験 □試験堀（支持層の確認）

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

深度	土質	N値	標準貫入試験					備考
			10	20	30	40	50	
0								○調査地盤 ボーリングデータ NO.
1								○位置図
2								○支持地盤、地層及び深さ についてのコメント
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								○孔内水位 GLー m
11								
12								
13								○近隣データの調査地盤と 設計地盤とは約 m の距離がある
14								○備考
15								
16								
17								
18								
19								
20								

別紙による

4. 地業工事

(1) 直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験堀 □有 □無  
支持層ー 長期許容支持力度 kN/㎡ 載荷試験 □有 □無

(2) 杭基礎 支持層ー風化花崗岩

杭種	材料	施工法	備考
□PHC	PHC（□A種 □B種 □C種）	□打ち込み	
■節杭	節杭（□A種 □B種 ■I種）	□埋込み（セメントミルク工法）	
□SC杭	鋼材 □SKK490	■埋込み（Smart-MAGNUM工法）	大臣認定 TACP-0625号
□CPRC	CPRC（□I種 □II種）	□	大臣認定 TACP-0626号
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート Fc=セメント量 kg/㎡ 鉄筋主筋 SD HOOP SD	□オールケーシング □拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深礎 □手掘 □機械掘	拡底杭 日本建築センター認定 第号 年月日

杭仕様 ■施工計画書承認 ■杭施工結果報告書  
試験堀（■有・□無）（□打ち込み・□載荷） 3本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の長さ (m)	本数
節杭φ600-450	1400kN/本	L=9.0m	31本
節杭φ500-400	1000kN/本	L=9.0m～8.0m	10本

施工記録 ■施工結果はすべての杭について下記事項の内容を記載した施工記録をまとめて提出とする。詳細については監理員の指示による。  
記載事項 ■JASS4. 地業および基礎スラブ工事の内、「4. 4. 9. 施工記録」に準じて記載する。

(3) 土間スラブ下埋戻し

土間スラブ下の土を根切り等により乱した場合は、建築工事共通仕様書により十分締固めを行い埋め戻すこと。また、設備配管の埋戻しも砂を用いて埋め戻すこと。

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

■コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5（2018）による。  
■耐久設計基準強度 Fd □短期 ■標準 □長期 □超長期  
■セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
■調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。  
■コンクリートの養生は、コンクリートの打込み中及び打込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにし、かつ、乾燥、震動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように発生しなければならない。ただし、コンクリートの凝結及び硬化を促進するための特別な措置を講ずる場合においては、工事監理者の承認を得ること。（令第75条）  
■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。  
■フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。  
■構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、工事現場で試料を採取して作製した円柱供試体とし、採取は打ち込み工区ごと打ち込み日ごととする。また、打ち込み量で150㎡をこえる場合は150㎡ごとまたは、その繰数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。  
■構造体コンクリートの圧縮強度の基準

供試体の養生方法	試験材齢	圧縮試験強度の基準
コア	91日	調合基準強度以上
標準養生	28日	品質基準強度以上
現場水中養生又は現場封かん養生	施工上必要な材齢	施工上必要な強度

注) 1. 工事監理者の承認を得て構造体温度養生試験体とすることができる。  
注) 2. 構造体温度養生試験体による場合は、品質基準強度に3N/mm<sup>2</sup>を加えた値とする。  
注) 3. 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。  
注) 4. 工事監理者の承認を得て、供試体成形後翌日までは20±1℃の日光及び風が直接当たらない場所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

(2) 鉄筋

■鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。  
■施工はJASS5（2009）による。  
■高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。  
■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね継手長さ、定着長さは、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。  
■D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。  
■ガス圧接部の検査  
外観検査 ■有 □無 引張試験 □有 ■無 超音波探傷試験 ■有 □無  
ガス圧接部の引張試験の採取り検査は、1検査ロットに5本以上とする。  
ガス圧接部の超音波探傷試験は、1検査ロットに30箇所とする。  
※1検査ロットは、1組の作業班が1日に行った圧接面所の数量及び200箇所以内とする。検査には、管理者が立会い、その結果はコンクリート打設前に必ず管理者に報告すること、不良圧接の補正は、共通仕様書5. 4. 10による。  
■柱の帯筋（HOOP）の加工方法  
□H型（タガ型） ■W型（溶接型） □S型（スパイラル型）  
■コンクリート及び鉄筋の試験は工事監理者の承認の上、指定の試験機関で行うこと。  
試験機関名 代行業者名

代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型枠

型枠材料 ■合板厚12mmを標準とする。 □  
型枠施工 ■JASS5（2018）による。 □  
型枠存置期間 ■下記表による。 □公共建築工事標準仕様書（平成31年版による） ■JASS5（2018）による。

種類 部 位	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
セメントの種類 平均気温 在留期間の平均気温	単強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	単強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	単強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種	単強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント A種 シリカセメント A種
	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
コンクリート打設日	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	圧縮強度が5.0 N/mm <sup>2</sup> 以上 (超長期 10.0 N/mm <sup>2</sup> )		圧縮強度が設計基準強度の50%以上		圧縮強度が設計基準の85%以上又は12 N/mm <sup>2</sup> 以上 かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全である事が確認されるまで。		圧縮強度が設計基準強度以上	

注) 1 片持ばり、底、スパン8.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。  
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。  
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。  
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。  
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。  
注) 6 上記以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

□日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
□鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」  
□

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの  
□製作工場 □製作要領書 □工作図 □施工計画書  
□建築基準法第68条26第3項による鉄骨製作工場（評価区分 グレード）  
□材料規格証明書または試験成績書  
□鋼材 □高力ボルト □特殊ボルト □スタッドボルト  
□社内検査表 □ □

(3) 工事監理者が行う検査項目  
(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)  
□現寸検査 □組立・開先検査 □製品検査  
□建方検査 □ □

(4) 接合部の溶接は下記によること  
□東京都アーク溶接工事管理規程（建築構造設計指針第12章）  
□鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱溶鋼（建築構造設計指針第12章）  
□日本建築学会「溶接工作規程、同解説I、II、Ⅲ、IV、V、VI、VII、Ⅸ」

(5) 接合部の検査  
□溶接部の検査（溶接結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	A O Q L又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
□突合せ溶接部	超音波探傷試験	全数検査	4 %	%	
□	外観（目視）検査	全数検査	4 %	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					
注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。					

□高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラスト、による処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。  
□高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。  
締付け後の検査は、締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装

□防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K 5674 1種、2回塗りを標準とする。  
□現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料  
□

施行令第129条の2の3の事項 ※ 設計が該当する場合には ■ 印を記入する。  
・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。  
■ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。  
■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結する。  
□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。  
□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石積若しくはコンクリートブロック造とすること。  
■ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 （建築設備耐震設計・施工指針による）  
■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、  
■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。  
■ 建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。  
■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。  
■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金具又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。  
■ 建築物に設ける給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

	設計変更年月日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 浜江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事 図面名 構造特記仕様書	縮尺 設計 年 月 日	佐賀県競馬組合 1級建築士登録 第 号	図面番号 S 01
	1回 年 月 日 2回 年 月 日 3回 年 月 日					
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美						

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図

1一般事項

適用範囲

1. この基準は普通コンクリート及び軽量コンクリートによる鉄筋コンクリート造の壁式構造に適用する。

2. 図面及び配筋標準図に記載されていない事項は、すべて公共建築工事標準仕様書による他、日本建築学会壁式構造配筋指針を参考とする。

3. 構造図面に記載された事項は本標準図に優先する。

鉄筋加工図

1. 加工・組立に先立ち、構造図及び施工計画書に基づいて鉄筋施工図を作成し、監督職員の承認を受ける。

2共通事項

2-1記号

Fー基礎

F Sー耐圧版

Gー壁ばり

F Gー基礎ばり

Wー非耐力壁

E Wー耐力壁

Bー小ばり

Sースラブ

C Gー片持ばり

C Bー片持小ばり

C Sー片持スラブ

2-2階段、部材番号記号（例）

RG 1

↑

屋根

梁番号

↑

壁厚

W 1 5

2-3鉄筋の表示記号

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	●	×	●	○	○	⊙	⊗	○

2-4鉄筋の折曲げ基準

末端部

曲げ角度	折曲げ図	S D 295 A S D 345 S D R 295		S D 295 B S D R 345		S D 390 D 10 ～ D 38	使用箇所
		D 16 以下	D 19 ～ D 38	D 19 ～ D 38	D 29 ～ D 38		
180°		D	3d以上	4d以上	5d以上		はりの主筋 杭基礎のベース筋 D 16以上の鉄筋
135°		D	3d以上	4d以上	5d以上		あばら筋 D 13以下の鉄筋
90°		D	3d以上	4d以上	5d以上		T形及びL形のはりのあばら筋
135°及び90°		D	3d以上	4d以上	5d以上		幅止め筋

中間部

曲げ角度	折曲げ図	S D 295 A S D 345 S D R 295		S D 295 B S D 390 S D R 345		使用箇所
		D 16 以下	D 19 ～ D 25	D 29 ～ D 38		
90°以下		D	3d以上	4d以上	—	はり断面の縦・横筋、あばら筋
		D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

1. dは鉄筋の公称直径

2. Dは曲げ内のり直径

2-5鉄筋の加工寸法の許容差

構造	項目	符 号	許容差 (mm)
壁式RC造	各加工寸法*	あばら筋、壁ばり断面の縦・横筋	± 5
		その他の鉄筋	± 1 0
	加工後の全長*		± 1 5
補強ブロック造・型枠ブロック造・ブロック杭壁・ブロック塀・石塀	各加工寸法*	あばら筋	± 5
		縦・横筋	± 1 0
		縦筋	± 1 5
	加工後の全長*	横筋	± 1 0

あばら筋、壁ばり断面の縦・横筋

左記以外の鉄筋

加工後の全長

加工後の全長

加工後の全長

3異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、下記の場合にフックをつける。

(1) はり主筋の末端部が、はりの出隅及び下端の両端（下図の●）にある場合。

但し、基礎ばりを除く。

(2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。

(3) くい基礎のベース筋。

(4) あばら筋及び幅止め筋。

（壁ばり断面の縦筋を含む）

4鉄筋の継手及び定着の長さ

4-1鉄筋の継手及び定着の長さ

(1) コンクリートの設計基準強度（F<sub>o</sub>）が18N/mm<sup>2</sup>以上36N/mm<sup>2</sup>未満の場合に適用する。

鉄筋の種類	鉄筋の定着の長さ						
	フックなし			フックあり			
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	
SD295A SD295B	18	45d	40d	小梁	スラブ	35d 30d	30d 25d
	21	40d	35d		25d	20d	
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d	
SD345	18	50d	40d	20d	10dかつ150mm以上	35d 30d	30d 25d
	21	45d	35d		30d	25d	
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d	
SD390	21	50d	40d	10d	—	35d 30d	30d 25d
	24, 27	45d	40d		35d 30d		
	30, 33, 36	40d	35d		30d 25d		

(注)

1. L<sub>1</sub>：継手並びに下記2.及び3.以外の定着長さ。

2. L<sub>2</sub>：割製破壊の恐れのない箇所の定着長さ。

3. L<sub>3</sub>：小ばり及びスラブの下端筋の定着長さ。但し、基礎耐圧版、これを受ける小ばりなどは除く。

4. フックのある場合のL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>及びL<sub>3</sub>は、下図に示すようにフック部分Dを含まない。

4-2溶接金網の継手及び定着

(1) 溶接金網の継手は重ね継手とする。

(2) 溶接金網の継手及び定着は下記による。

1節半以上かつ150mm以上

1節半以上かつ150mm以上

鉄筋

鉄筋

重ね継手

定着（スラブの場合）

定着（壁の場合）

(注) ジョイント用鉄筋径及び間隔は特記による。

4-3非耐力壁の鉄筋の定着と継手

(1) 縦・横筋は耐力壁・スラブ・壁ばり・小ばり・布基礎・基礎つなぎばり直交する非耐力壁に2.5d以上定着する。

(2) 縦・横筋の重ね継手長さは、2.5d以上とする。

(3) 曲げ・縦・横補筋の定着、および重ね継手長さは2.5d以上とする。

5鉄筋の継手位置

5-1布基礎、べた基礎及び基礎つなぎばりの主筋の継手位置

(a) 布基礎およびべた基礎の場合

(b) 基礎つなぎばりの場合

5-2耐力壁の鉄筋の継手位置

(1) 縦筋および曲げ補強筋・縦補強筋の継手位置は、原則として耐力壁の下部とする。

(2) 曲げ補強筋、および縦・横補強筋の継手は、1ヶ所に集中することなく、相互にずらして設ける。

(3) 横筋の継手は、原則として曲げ補強筋および縦補強筋の継手に重ならないようにする。

(4) 縦・横筋の継手は、あき重ね継手でもよい。

横筋・曲げ補強筋・縦補強筋の重ね継手

5-3周辺固定スラブの鉄筋の継手位置

(a) 上端筋の継手

(b) 下端筋の継手

(注) スラブ筋の継手は、はり幅内に設けないことが望ましい。やむを得ない場合は（a）図の\*印でもよい。下端筋では、\*\*の部分に継手を設けず、はりに定着（スラブ下端筋定着長さ）する場面が多い（\*\*印の部分）。べた基礎（耐圧スラブ）のスラブ筋の継手位置は、（a）（b）の図で上端筋→下端筋、下端筋→上端筋として設けよう。

周辺固定スラブの継手位置

5-4隣り合う継手の位置

フックのある場合

フックのない場合

圧接の場合  
a ≥ 400mm

(注) 床版及び壁の場合でD 16以下は除く。

5-5その他

壁ばり主筋の重ね継手は、原則としてはり中間部には設けないものとする。

6鉄筋の最少及び常用かぶり厚さ

6-1一般事項

(1) 鉄筋（溶接金網を含む）の最小かぶり厚さは特記のない場合、下表による。但し、壁及びはりの主筋にD 29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

(2) 耐力壁、はり等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最少かぶり厚さ以上とする。

(4) 鉄筋相互のあきは、つぎの値のうち最大のもの以上とする。

① 粗骨材の最大寸法の1.25倍

② 25mm

③ 鉄筋の径（呼び名に用いた数値）の1.5倍

(5) 貫通孔に挿する鉄筋のかぶり厚さは、(3)による。

6-2鉄筋の最小及び常用かぶり厚さ

(単位 mm)

構造部分の種類		最小かぶり厚さ	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり 20 仕上げなし 30	
	はり 耐力壁	室内 仕上げあり 30 仕上げなし 30	
		室外 仕上げあり 30 仕上げなし 40	
		隔壁、耐圧スラブ	40
		土に接する部分	はり、スラブ、壁 基礎、隔壁、耐圧スラブ * 40 * 60
	煙突など高熱を受ける部分	60	

(注) 1. 耐力壁、はりの場合のかぶり厚さは、コンクリート面からそれぞれ最外鉄筋、スターアップの外面までの寸法である。

2. \*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。

3. 「仕上げあり」とは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、仕上塗材吹付け又は、塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。

4. スラブ、はり、基礎及び隔壁で直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さは含まない。

5. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

6. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所には、上記の表は適用しない。

(2)基礎交差部分の配筋

30程度  
30程度  
L 2以上  
PーP  
P：ベース筋の設計間隔  
基礎梁  
主筋  
交差部ベース筋  
配力筋（交差部まで延ばす）  
L形交差部  
ベース筋  
第1ベース筋（直交布基礎の縁に配置する）  
十形交差部  
T形交差部  
T形交差部  
布基礎交差部の配筋（平面）

(3)立上り部分の配筋

150以上  
AーA  
壁端部 第1横筋  
布基礎  
第1横筋  
第1縦筋  
A  
A  
A  
A  
(a) 上部の耐力壁および布基礎の立ち上がり部分が単配筋の場合  
(b) 上部の耐力壁が単配筋で布基礎の立ち上がり部分は複配筋の場合  
(c) 上部の耐力壁および布基礎の立ち上がり部分が複配筋の場合  
(注) 布基礎の立上り部分の上部の耐力壁の縦筋および曲げ補強筋は原則として基礎のベース筋位置まで延ばす。

(4)布基礎の立上り部分の交差部における主筋・横筋および耐力壁曲げ補強筋の配筋

(イ) (ロ) (ハ)

(a) 単配筋と単配筋の場合

(イ) (ロ) (ハ)

(b) 単配筋と複配筋の場合

(イ) (ロ) (ハ)

(c) 複配筋と複配筋の場合

設計変更年月日

1 級 建 築 士 内 田 要  
大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号  
株式会社 浜江建築設計事務所  
佐賀市多布施四丁目3番50号  
TEL 0952-24-7211

工事名  
新きゆう務員宿舎C棟新築（建築）工事

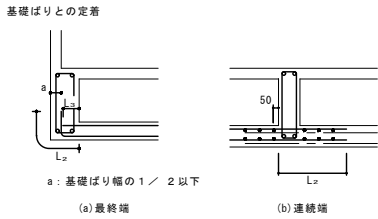
図面名  
配筋標準図 1

縮尺  
設計 年 月 日

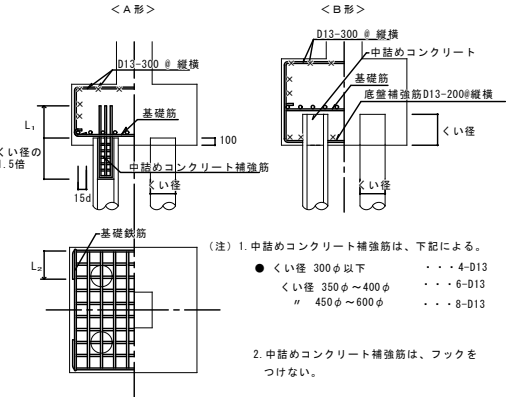
佐賀県競馬組合  
1 級 建 築 士 登 録 第 号

図面番号  
S  
02

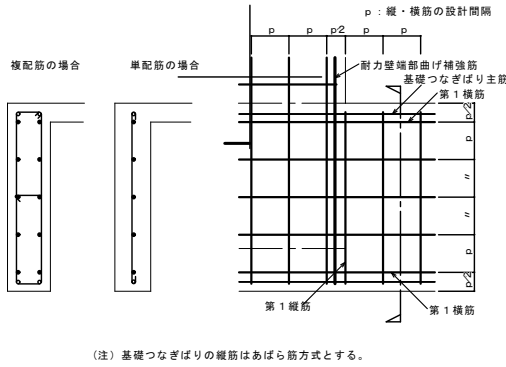
7-2 ベタ基礎



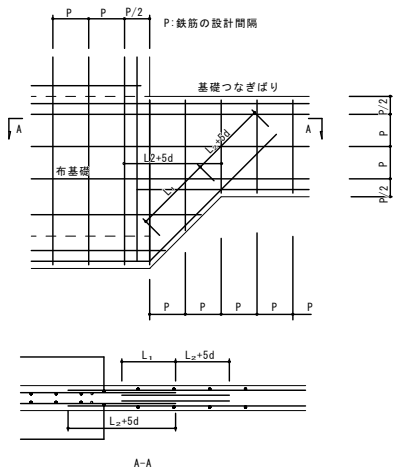
7-3 くい基礎



7-4 基礎つなぎばり

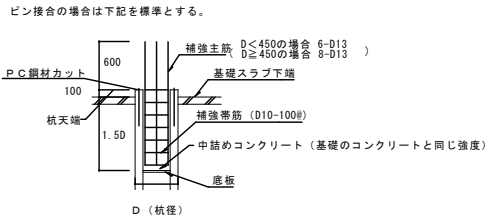


7-5 布基礎と基礎つなぎばり接合部の補強 (段差ができる場合)



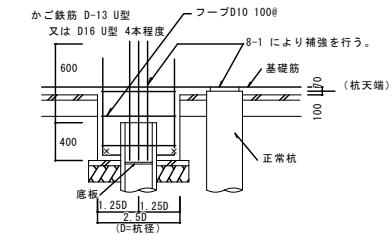
8 既存コンクリート杭の杭頭処理

8-1 杭頭部の補強 (ピン接合の場合)



- (注) 1. 基礎下端鉄筋のかぶり厚さは、杭先端から確保する。
2. 杭頭部を切りそろえる場合、杭軸方向は、杭先端から100mm程度のところで 切断する。
3. 剛接合の場合は特記による。

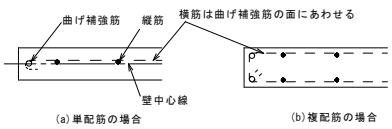
8-2 杭頭が所定位置より下がった場合



9 耐力壁の配筋要領

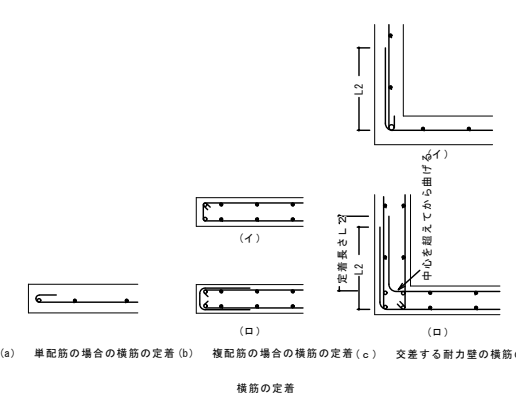
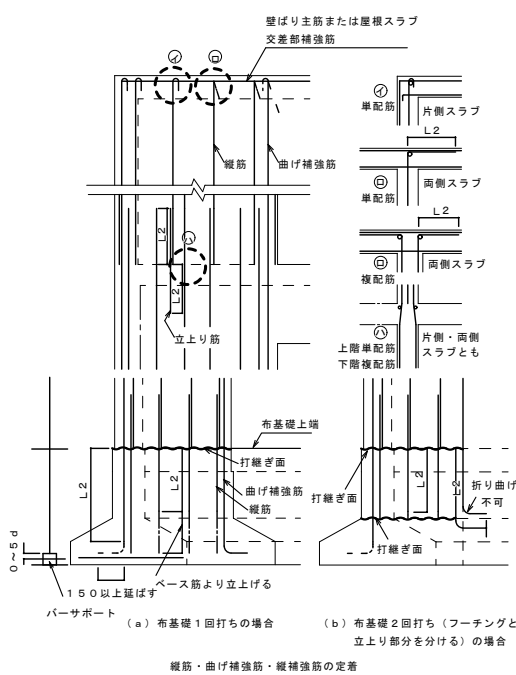
9-1 曲げ補強筋及び縦筋の位置

曲げ補強筋及び縦補強筋・縦筋の位置は、原則として単配筋の場合は、曲げ補強筋を壁の中心線上に、縦補強筋・縦筋は片面を曲げ補強筋の面に合わせて配置する。複配筋の場合は、曲げ補強筋を、かぶり厚さが十分確保できる位置に対称に配置し、縦補強筋・縦筋は単配筋と同様に外側面を合わせて配置する。



9-2 鉄筋の定着

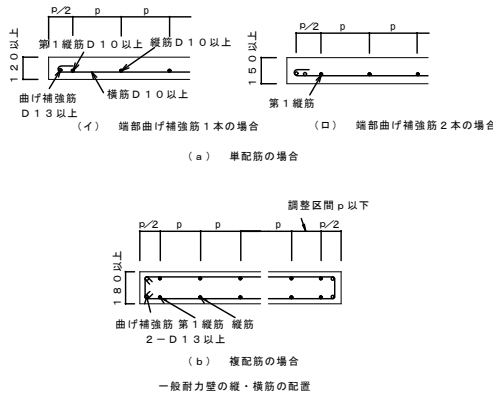
- (1) 縦筋及び曲げ補強筋・縦補強筋の下端は布基礎または下階の耐力壁に定着する。上端は、最上階及び直上に耐力壁のない場合は、スラブ内に定着する。ただし片側スラブの場合は、180° フックを付け壁ばり主筋またはスラブ交差部横補強筋 (以下、横補強筋という) にかざり掛けしてよい。
- (2) 横筋は一般耐力壁の場合で単配筋の場合は、端部補強筋に180° フックを付けかざり掛ける。複配筋の場合は、135° フックでかざり掛けし、帯筋方式とするかU字形筋を用いる。耐力壁が交差する場合は、一方の耐力壁内に定着する。



9-3 各部配筋

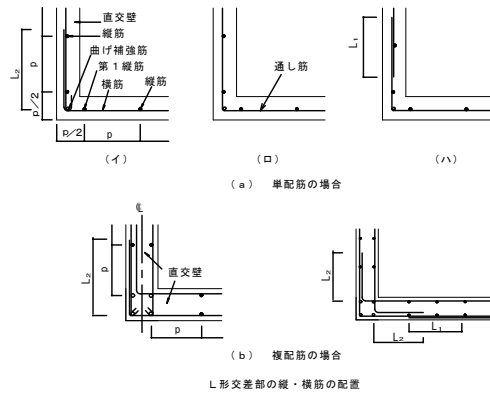
(1) 一般耐力壁の場合

縦筋はD10以上とする、第1縦筋は、耐力壁両端鉛直縁から、設計間隔の1/2の箇所、ただし、曲げ補強筋が2本配筋の場合は最外側補強筋の中心から測るものとする。その他の縦筋は設計間隔に基づき左端より配置する。横筋はD10以上とし、第1横筋は耐力壁上・下端より設計間隔の1/2の箇所、その他の横筋は、設計間隔に基づき下端より配置する。縦・横筋とも終端における間隔は調整区間とし、設計間隔以下とする。

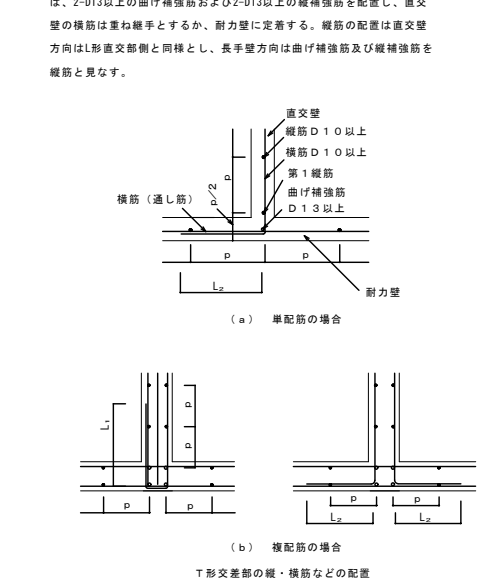


(2) 耐力壁が交差する場合

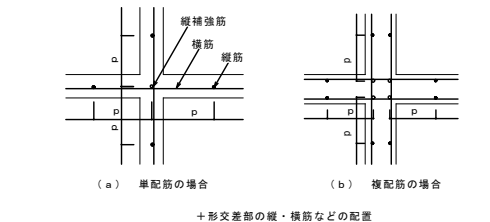
- I) L形部：単配筋の場合、交差部には1-D13以上の曲げ補強筋を配置する。耐力壁の横筋は交差部曲げ補強筋の外側を回して直交壁に定着し、直交壁横筋は曲げ補強筋にかざり掛けるか、通し筋または重ね継手とする。複配筋の場合は3-D13以上の曲げ補強筋および3-D13以上の縦補強筋を配置する。耐力壁の外側横筋は曲げ補強筋の外側を回して直交壁に定着し、内側横筋は直交壁中心を超えてから折り曲げ定着する。直交壁横筋は帯筋方式とする。ただし、外側横筋を重ね継手とし、内側鉄筋を両方向耐力壁に定着する方法としても差し支えない。縦筋の配置は、一般耐力壁の場合と同様とするが、複配筋の場合は内側縦筋を第一縦筋と見なす。



II) T形部：単配筋の場合、交差部には1-D13以上の曲げ補強筋を配置する。耐力壁の横筋は通し筋とし、交差部では継手を設けない。複配筋の場合は、2-D13以上の曲げ補強筋および2-D13以上の縦補強筋を配置し、直交壁の横筋は重ね継手とするか、耐力壁に定着する。縦筋の配置は直交壁方向はL形直交部側と同様とし、長手壁方向は曲げ補強筋及び縦補強筋を縦筋と見なす。



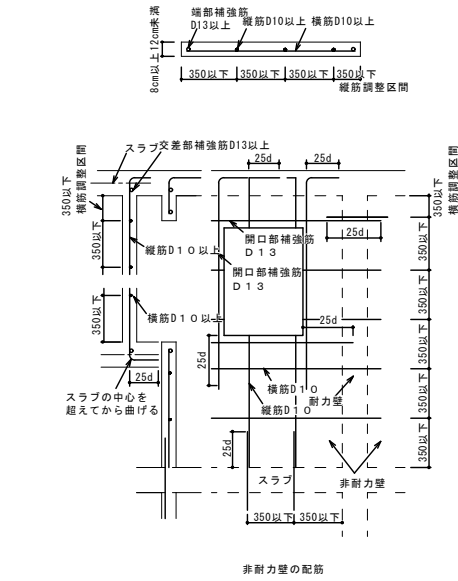
- III) +形部：交差部は単配筋の場合1-D13以上、複配筋の場合4-D13以上の縦補強筋を配置する。横筋は直交する耐力壁ごとに、それぞれ通し筋とし、交差部では原則として横筋の継手を設けない。



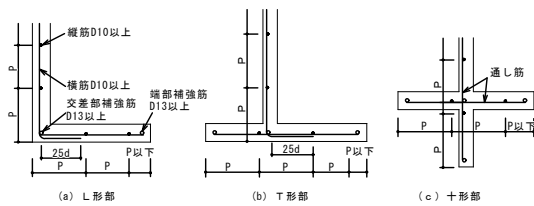
10 非耐力壁の配筋要領

10-1 非耐力壁の配筋

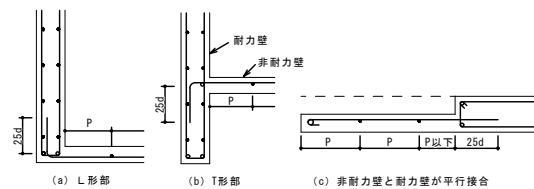
非耐力壁の端部、交差部及び非耐力壁とスラブとの交差部並びに開口部周囲にはD13以上の補強筋を配置する。



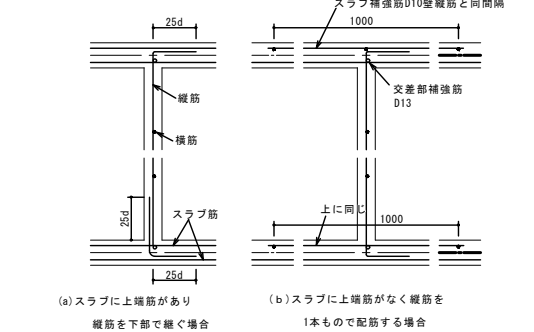
10-2 非耐力壁が交差する場合



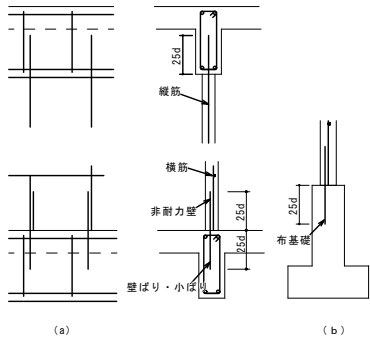
10-3 非耐力壁へ耐力壁が交差または平行して接合する場合



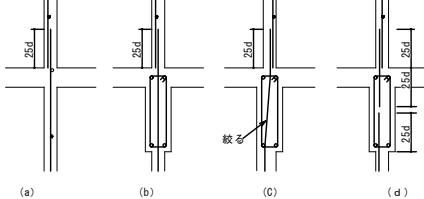
10-4 非耐力壁へスラブが定着する場合



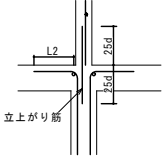
10-5 非耐力壁が壁ばり・布基礎などへ定着する場合



10-6 非耐力壁が上・下階同じ場所にある場合

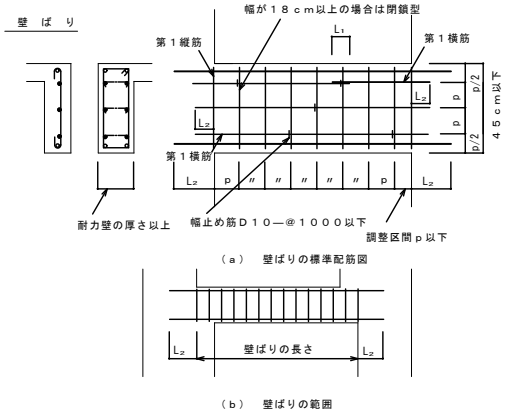


10-7 非耐力壁が下階の耐力壁の上に定着する場合



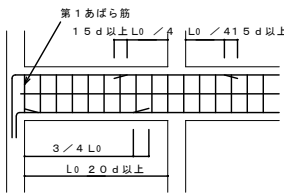
11 壁ばりの配筋

- (1) 壁ばり主筋の重ね継手は、原則としては中間部には設けないものとする。
- (2) 直上階の耐力壁の長さの異なる場合の壁ばりの長さは、上下階耐力壁の重なった部分までとする。
- (3) 壁ばりの縦・横筋はD10以上、間隔30cm以内とし、第1縦筋は両端の耐力壁鉛直縁に、第1横筋は壁ばり上下端より設計間隔の1/2以下に配置し、他の縦横筋は設計間隔に配置する。
- (4) 幅止め筋はD10とし、横筋に間隔100cm以下で交互に配置する。



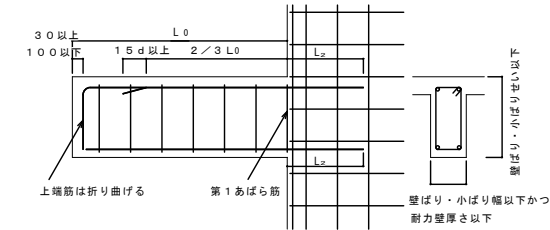
12 小ばりの配筋

- (1) 外端部材の中央部下端カットオフ筋は外端部まで配筋する。連続端の中央部下端カットオフ筋はスパンの3/4に20d以上を加えた長さとする。
- (2) 内端部の上端カットオフ筋は、スパン長さの1/4に15d以上を加えた長さとする。
- (3) 腹筋はD10以上とし、第1あばら筋まで配筋する。間隔は設計図による。



13 片持ちばりの配筋

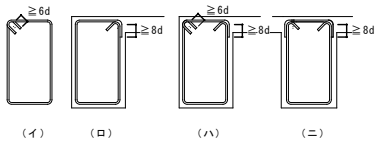
- (1) 片持ちばりの上端カットオフ筋は、持出し長さの2/3に15d以上を加えた長さとする。
- (2) 片持ちばりの上端筋先端は、垂直に折り曲げる。



14 あばら筋等の配筋要領

14-1 あばら筋

- (1) 形は下図(イ)とする。但し、L形ばりの場合は(ロ)又は(ハ) T形ばりの場合は(ロ)～(ニ)とすることができる。
- (2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合、L形ではスラブのつく側、T形では交互とする。



14-2 2段筋の間隔保持のための吊り筋

(a) 上筋の場合 (b) 下筋の場合



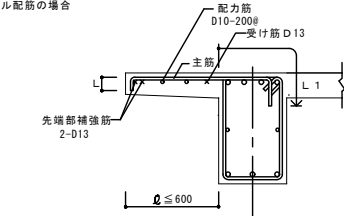
15 スラブの配筋

15-1 一般事項

- (1) スラブ上端筋は、原則として壁ばりまたはがりよう内に定着するか、あるいは通し筋とする。
- (2) スラブ下端筋は、壁ばりまたはがりようなどの中に10dかつ15cm以上定着するかまたは通し筋とする。
- (3) スラブ筋はパーサポートによって堅固に保持する。
- (4) 片持ちスラブは他の支持条件のスラブよりパーサポートによる鉄筋の保持を特に堅固にする。

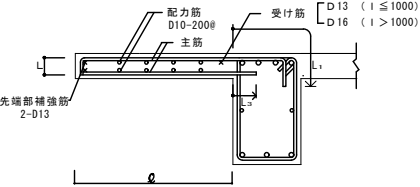
15-2 片持ちスラブの配筋

(1) シングル配筋の場合



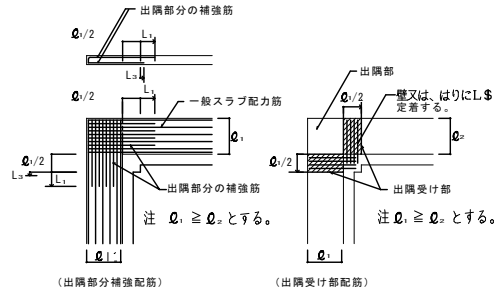
- (注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

(2) ダブル配筋の場合



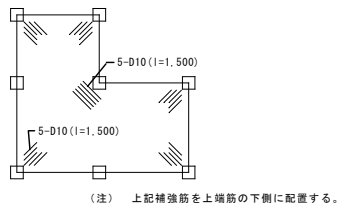
- (注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

15-3 出隅部の補強



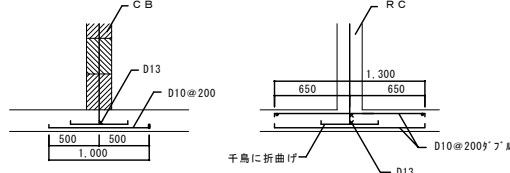
- (注) 1. 補強の配筋は、特記による。特記がなければ、D10-100φととし、配筋方法は図のとおりとする。
2. 出隅受け部(ハッチ部分)の補強は、特記による。

15-4 屋根スラブの補強

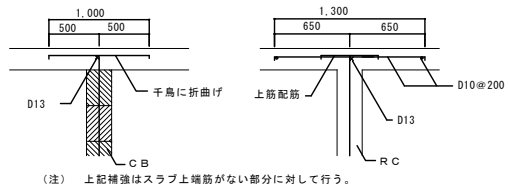


15-5 壁付スラブの補強

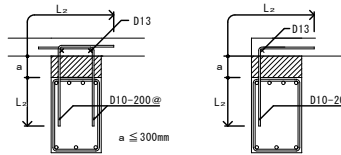
(1) 間仕切壁がスラブから立上る場合



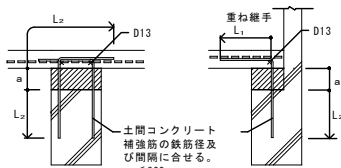
(2) スラブに間仕切壁が取付く場合



15-6 土間スラブの打継ぎ補強

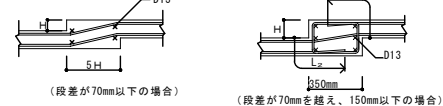


15-7 土間コンクリートの補強

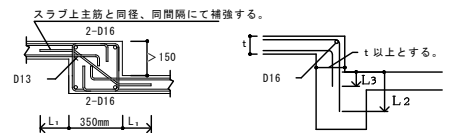


16 スラブ段違い部配筋要領

(1) スラブの段差≤150



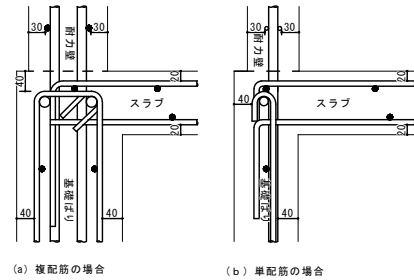
(2) スラブの段差>150



17 接合部の配筋要領

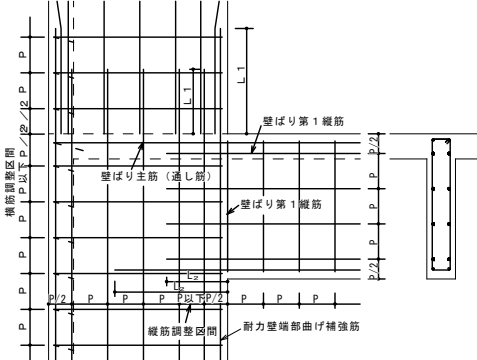
17-1 基礎ばりと床スラブ

- (1) 基礎ばりと1階の床スラブの接合部は、一般階と同様に床スラブの上端筋は基礎ばりにL2以上定着し、その折り曲げ点ははりの断面幅の中心線を超えた位置とする。
- (2) 上端筋の位置を保持するため基礎ばりの縦筋(あばら筋)の上部にD13の補強筋を配置する。
- (3) 床スラブ下端筋は布基礎にL3以上定着する。

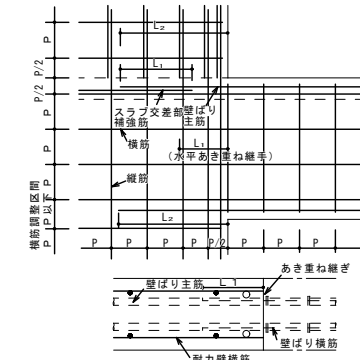


17-2 耐力壁と壁ばりの接合部

(1) 耐力壁に壁ばり横筋を定着した場合

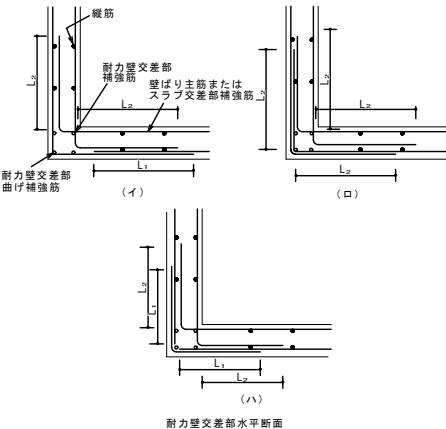


(2) 耐力壁横筋に壁ばり横筋をあき重ね継手とした場合

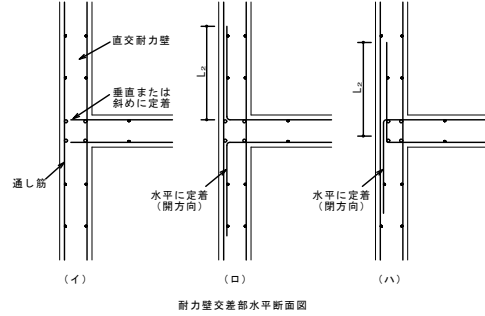


17-3 耐力壁とスラブ交差部の補強筋が交差する場合

(1) L形部の場合

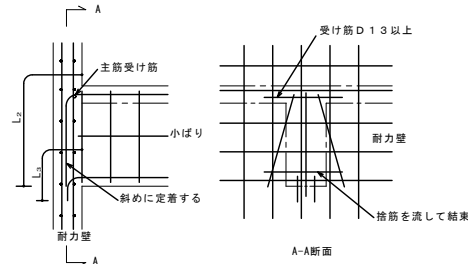


(2) T形部の場合



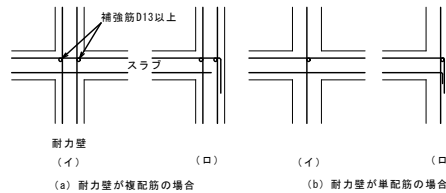
17-4 耐力壁と小ばりの接合部

- (1) 小ばり主筋は、原則として垂直に定着する。但し、はり成が小さい等で施工上困難な場合は、捨筋を配置して下図要領によることができる。
- (2) 連続端小ばり主筋は、通し筋を原則とする。

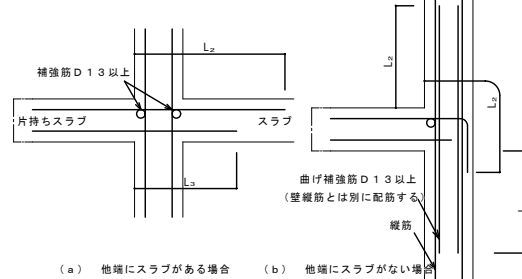


17-5 耐力壁とスラブの接合部

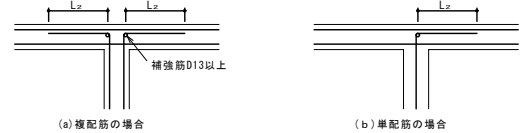
(1) 耐力壁と床スラブ交差部



(2) 耐力壁と片持ちスラブの接合部

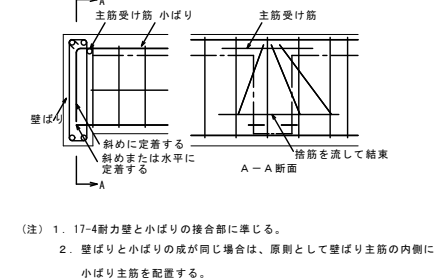


(3) 耐力壁と屋根スラブの交差部



17-6 耐力壁とスラブの接合部

(1) 耐力壁と床スラブ交差部



- (注) 1. 17-4耐力壁と小ばりの接合部に準じる。
2. 壁ばり和小ばりの成が同じ場合は、原則として壁ばり主筋の内側に小ばり主筋を配置する。

(2) 壁ばりと床・屋根スラブ

(a) スラブが連続する場合 (b) 壁ばり配筋の場合 (c) 壁ばり単配筋の場合

(注) 1. 壁ばり近傍のスラブ筋にバーサポートを設け鉄筋の落下を防ぐ。  
2. スラブ筋と壁ばりは結束しない。

(3) 壁ばりと片持ちスラブ

(a) スラブが連続する場合 (b) 壁ばり中間部に片持ちスラブを接合する場合 (c) 壁ばり下端に片持ちスラブを接合する場合

(注) 1. 壁ばり近傍のスラブ筋にバーサポートを設け鉄筋の落下を防ぐ。  
2. スラブ筋と壁ばりは結束しない。  
3. (a) 図において将来増築等で片持ちスラブを撤去する可能性のある場合、スラブの配筋は通し筋とせず、壁ばりへアンカーする。

17-7 片持ちばりの接合部

(1) 耐力壁などと連続する片持ちばりの配筋

(a) 耐力壁と連続する場合 (b) 壁ばりと連続する場合

(2) 耐力壁などと直交する片持ちばりの配筋

(a) 耐力壁と直交する場合 (b) 壁ばりと直交する場合

18 開口部の補強

18-1 布基礎の開口部の補強

(1) 開口を設ける位置は下図による。  
(2) 補強筋の径本数は特記による。

凡例: 小開口を設けない方がよい範囲

18-2 耐力壁及び壁ばり等の開口部の補強

(1) 開口を設ける位置は下図による。  
(2) 開口の大きさは、耐力壁長さ、壁ばり成の1/3以下とし、開口相互のあきは2つの開口の径の合計以上とする。

(a) 耐力壁の場合 (b) 壁ばりの場合

(3) 孔が円形でない場合は、外接円におきかえて適用する。  
(4) 孔の径がはり成の1/10以下かつ150mm未満のものは、補強を要さない。  
(5) 複筋配筋のはりの縦補強筋は、あばら筋とする。  
(6) 基礎ばりの場合もこれに準じる。

凡例: 小開口を設けない方がよい範囲

(7) 壁開口部の補強は、特記による。特記がなければ、非耐力壁はA形、耐力壁はB形とする。

A 形

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

B 形

壁の種別	補強筋	
	縦、横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(8) はり補強標準配筋

配筋の表示

凡例

斜め筋 4-2-D22 4本のD22が2面はいることを示す。  
縦筋 4-2-D13 4本のD13がスタースタック状にはいることを示す。  
上下縦筋 3-2-D13 上下の部分に各々D13のスタースタックが3本はいることを示す。  
溶接金網 3-9φ100@ 9φ-100@の溶接金網が3面はいることを示す。

配筋

I) H形配筋

II) MH形及びM形配筋

配筋種別

種別は特記による。

I) H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) は、一般部のあばら筋を示す。

II) MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	13φ	

(注) は、一般部のあばら筋を示す。

III) M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13	なし	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	13φ	
M4	6-2-D13	2-6φ-100@	13φ	

(注) は、一般部のあばら筋を示す。

18-3 スラブ開口部の補強

(1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、下図より開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10(2L2)シングルを、上下筋の内側に配筋する。

(2) 床版開口の最大径が同方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略することができる。但し、同じ開口が2面以上開き合う場合は、全体を包括して下記による補強を行う。

(3) 開口を設ける位置は下図による。

19 階段・手すり・バラベットの配筋

19-1 階段

(1) 片持ち階段の配筋

(a) 片持ち階段と受け壁

(注) 階段受け壁に入れる補強筋は上下のはり間に通して入れる

(b) いなずま筋を踏面に平行に配筋した場合 (c) 床版と直角に山上、山下を配筋した場合

(2) スラブ階段の配筋

(a) 階段の両端に小ばりのある場合

(b) 折曲がスラブで途中にはりがある場合

(c) 補強の例

スラブ階段の配筋

19-2 手すり

(a) コンクリート手すり(複配筋)

(b) 金属製手すり (c) コンクリート手すり(単配筋)

手すりの配筋

19-3 バラベット

(a) 片持ちスラブ先端に設ける場合 (b) 壁ばり直上に設ける場合

バラベットの配筋

20 配管、スリーブ打込要領

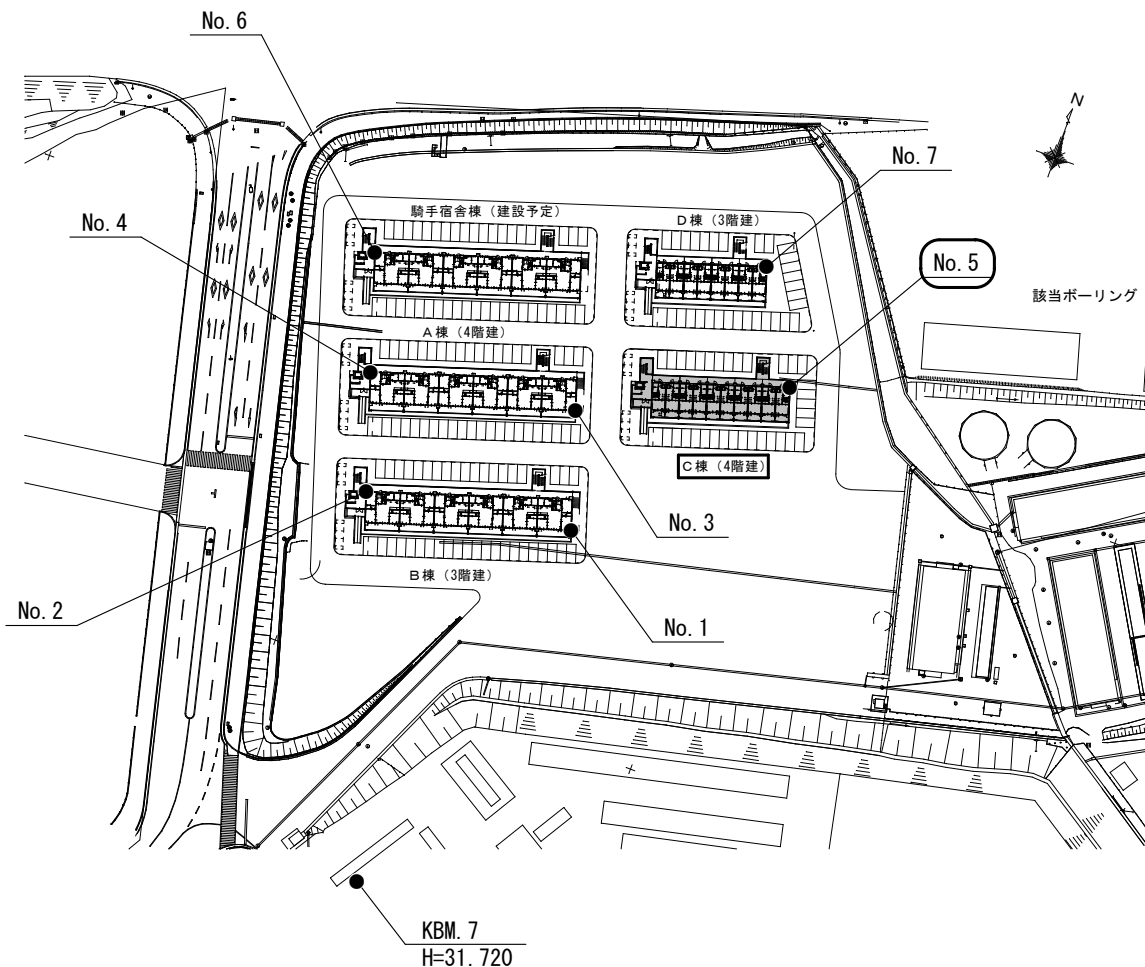
(1) 屋根スラブ、外壁への埋込み配管は行ってはならない。やむを得ず埋め込む場合は監督員と協議し、クラックの入りぬよう適切な処理を行う。  
(2) 一般床、壁への埋込みボックス類は十分深いものを使用し、埋込み配管を床、壁の中央に行う。  
(3) スリーブ等は必ず鉄筋より離し、必要かぶり厚さを確保する。

21 パーサポート・スペーサー施工要領

(1) パーサポート・スペーサーはコンクリート製・鋼製及びプラスチック製とし、鉄筋のコンクリート所要かぶり厚さに応じたものを用いる。尚、使用に先立ち、カタログ・性能試験成績表・配筋納まり詳細施工図と共に見本品を提出し、監督員の承認を得る。  
(2) スペーサーに使用するコンクリートブロックは豆砂利を使用し、小さくとも5cm角以上とし、圧縮強度300kg/cm<sup>2</sup>(太径に対しては400kg/cm<sup>2</sup>)以上とする。  
(3) 鋼製のものは、脚部等型枠と接する部分に適切な防せい処理を施す。  
(4) 床版、はりを使用するパーサポートは鋼製とする。断熱材を打ち込む場合は、打込工法用プレート付とする。  
(5) 設置間隔は下記を標準とする。

適用箇所	設置間隔
床版用パーサポート(単独型)	1~1.5個/m <sup>2</sup>
床版用パーサポート(バー型)	0.5個/m <sup>2</sup> 又は1個/0.6~1(上筋用1.5)m
はり用パーサポート(バー型)	1個/0.6~0.9m
壁用スペーサー	1個/m <sup>2</sup> (幅止筋近くに取り付けること)

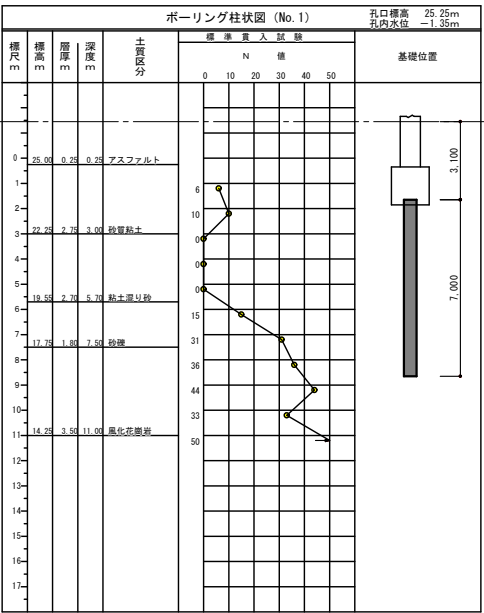




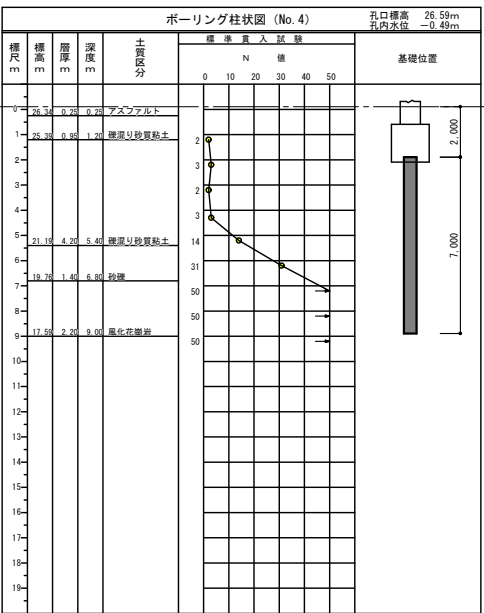
ボーリング位置図 1/1000

※ A・B棟標準 GL=26.70m  
C・D棟標準 GL=25.40m  
標準GL=設計GL

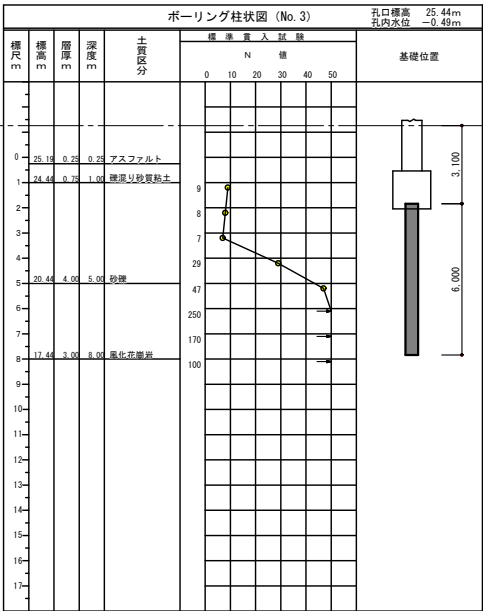
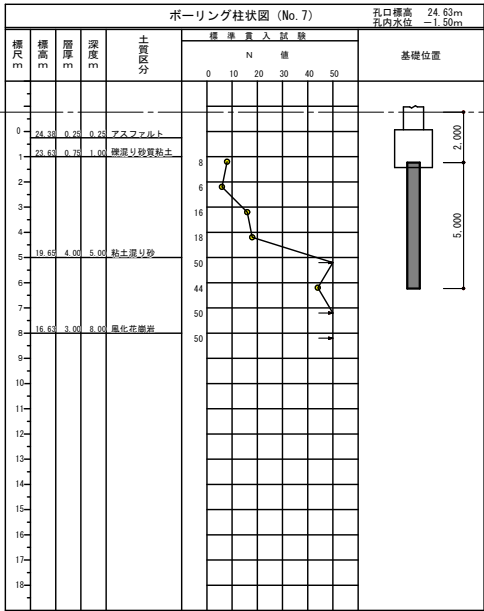
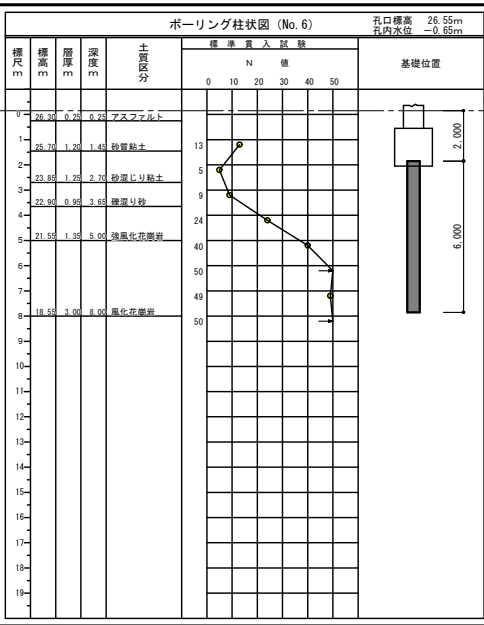
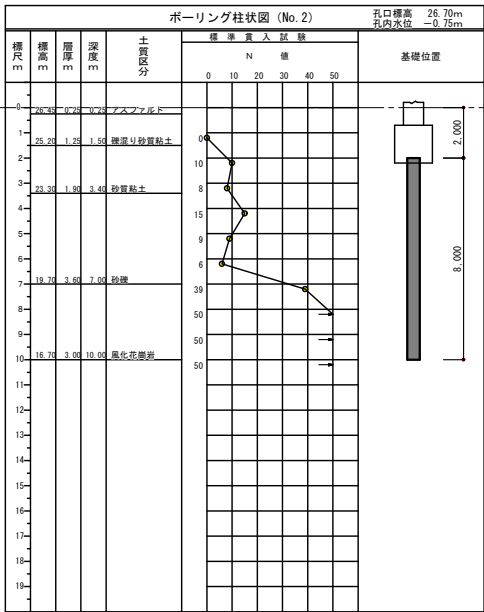
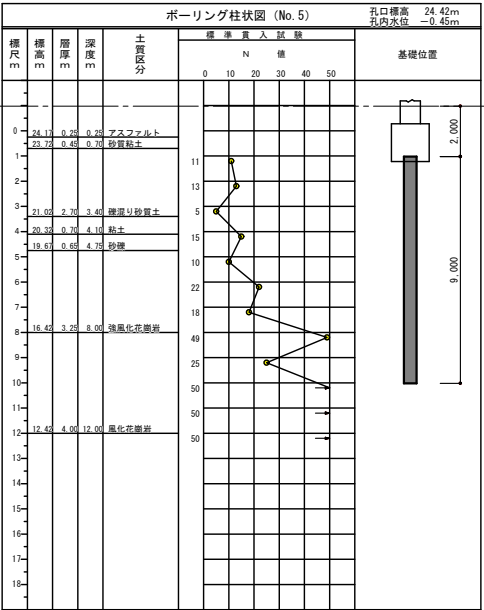
▽ 標準GL=26.70m



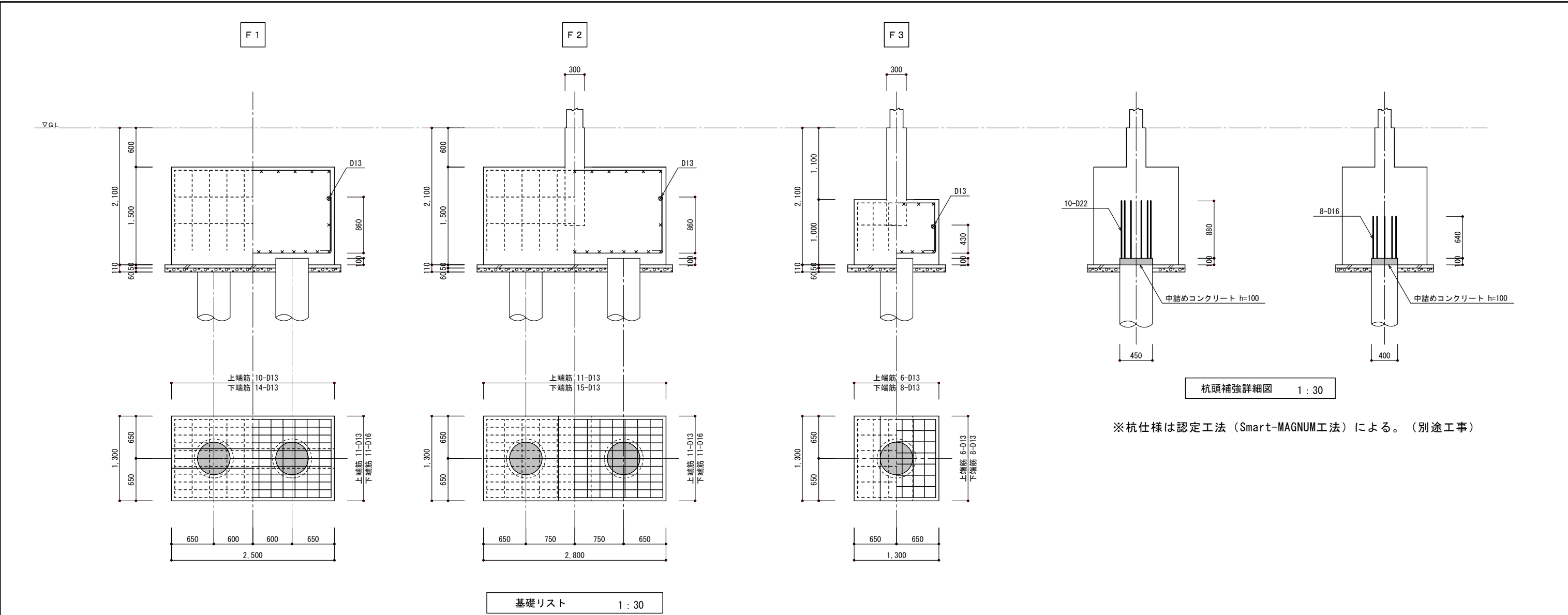
▽ 標準GL=26.70m



▽ 標準GL=25.40m







地中大梁リスト

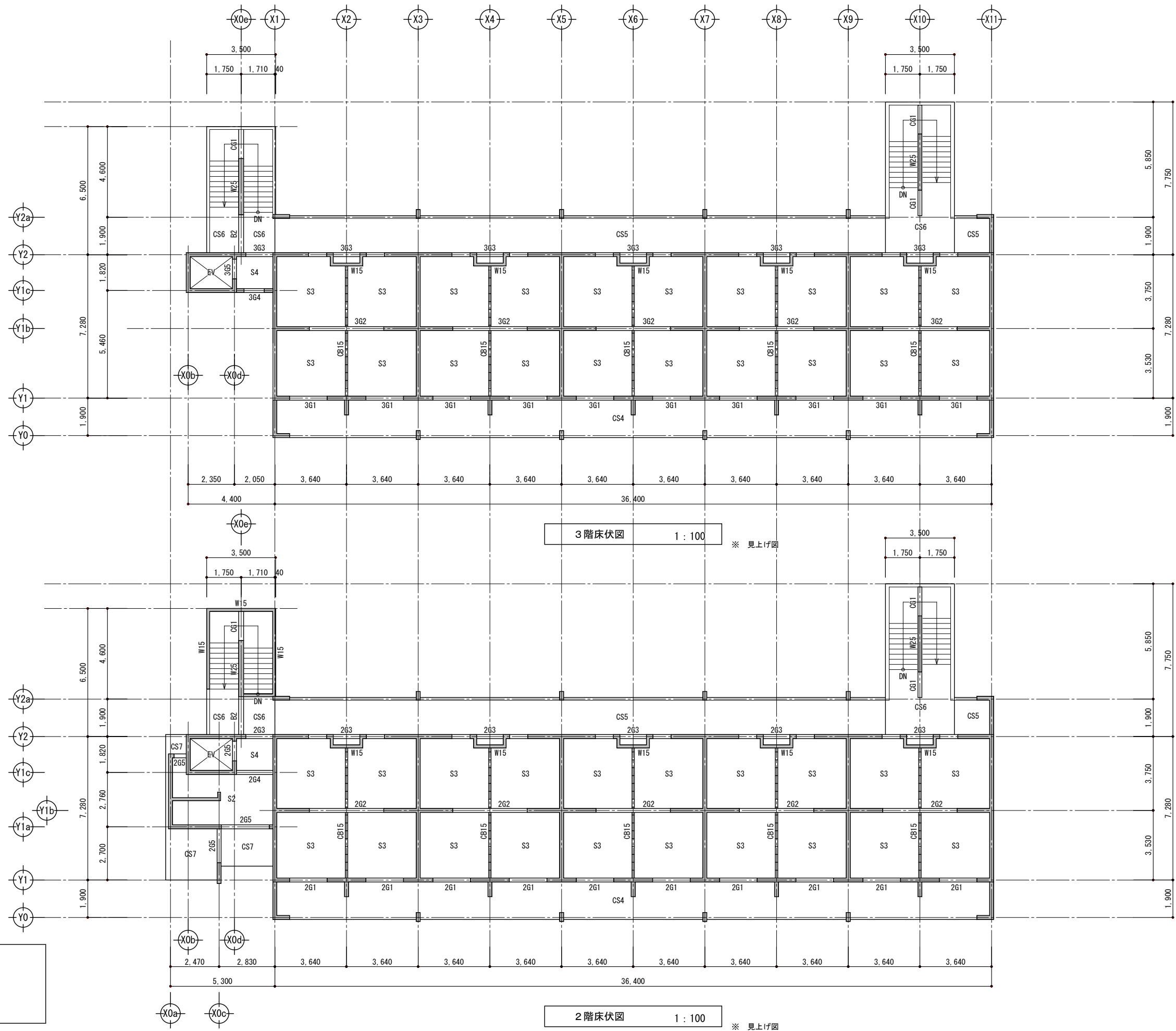
1:30

※ 巾止め筋 D10@1000以内とする。

※ 梁貫通補強は認定品を使用し適用範囲であることを確認すること。

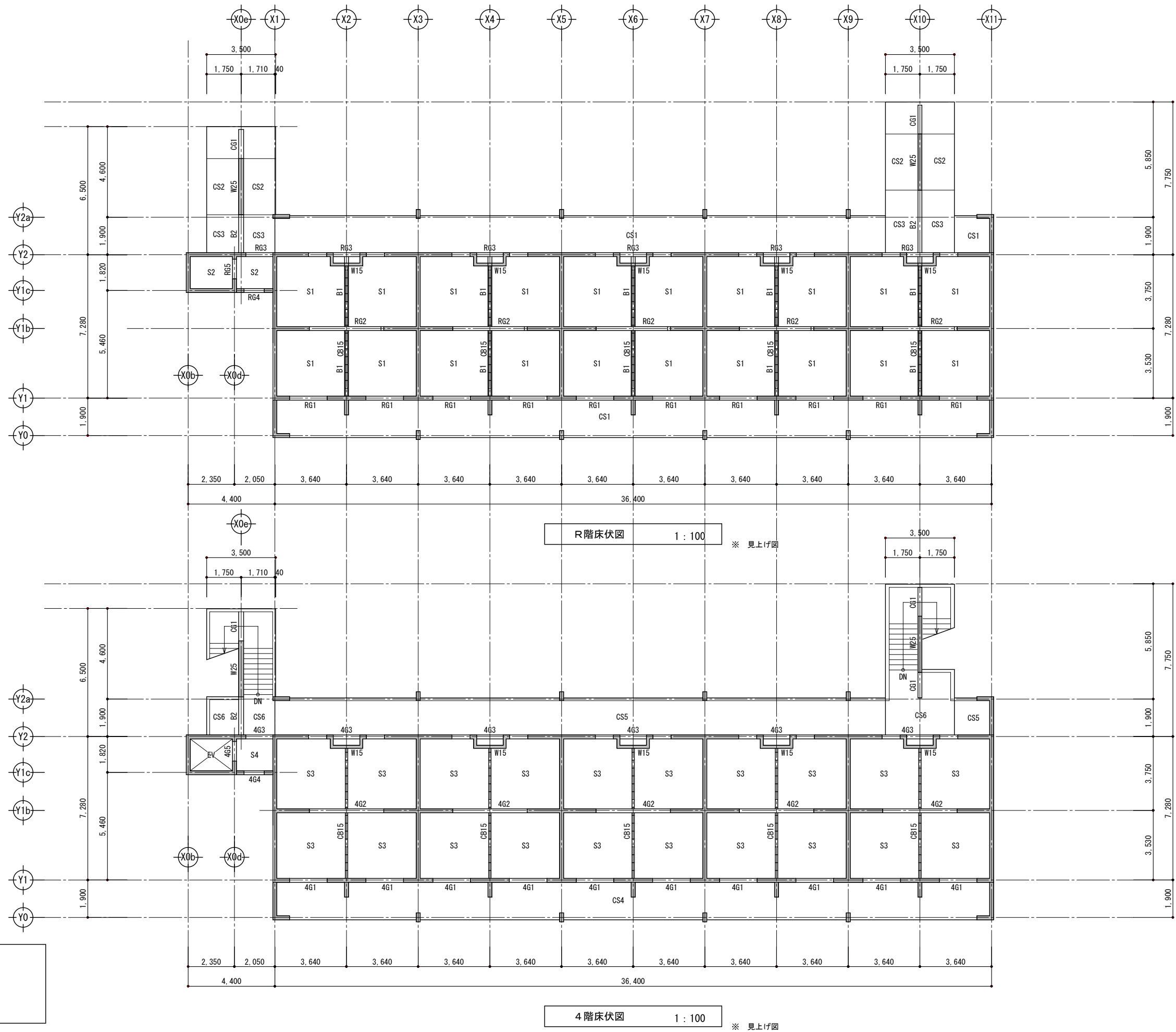
符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FCG1	FB1	FB2	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面									
B×D	300×1800	300×1800	300×1800	300×1800	300×1800	300×1000	300×1800	300×1000	
上端筋	3 - D19	5 - D19	5 - D19	4 - D19	5 - D19	6 - D22	3 - D19	3 - D19	
下端筋	3 - D19	5 - D19	5 - D19	4 - D19	5 - D19	3 - D22	3 - D19	3 - D19	
スターラップ	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	
腹 筋	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	6 - D13	10 - D13	6 - D13	

※ 大梁配筋はX方向を主筋方向とする。



特記事項  
1. 特記なき壁は W20 とする。

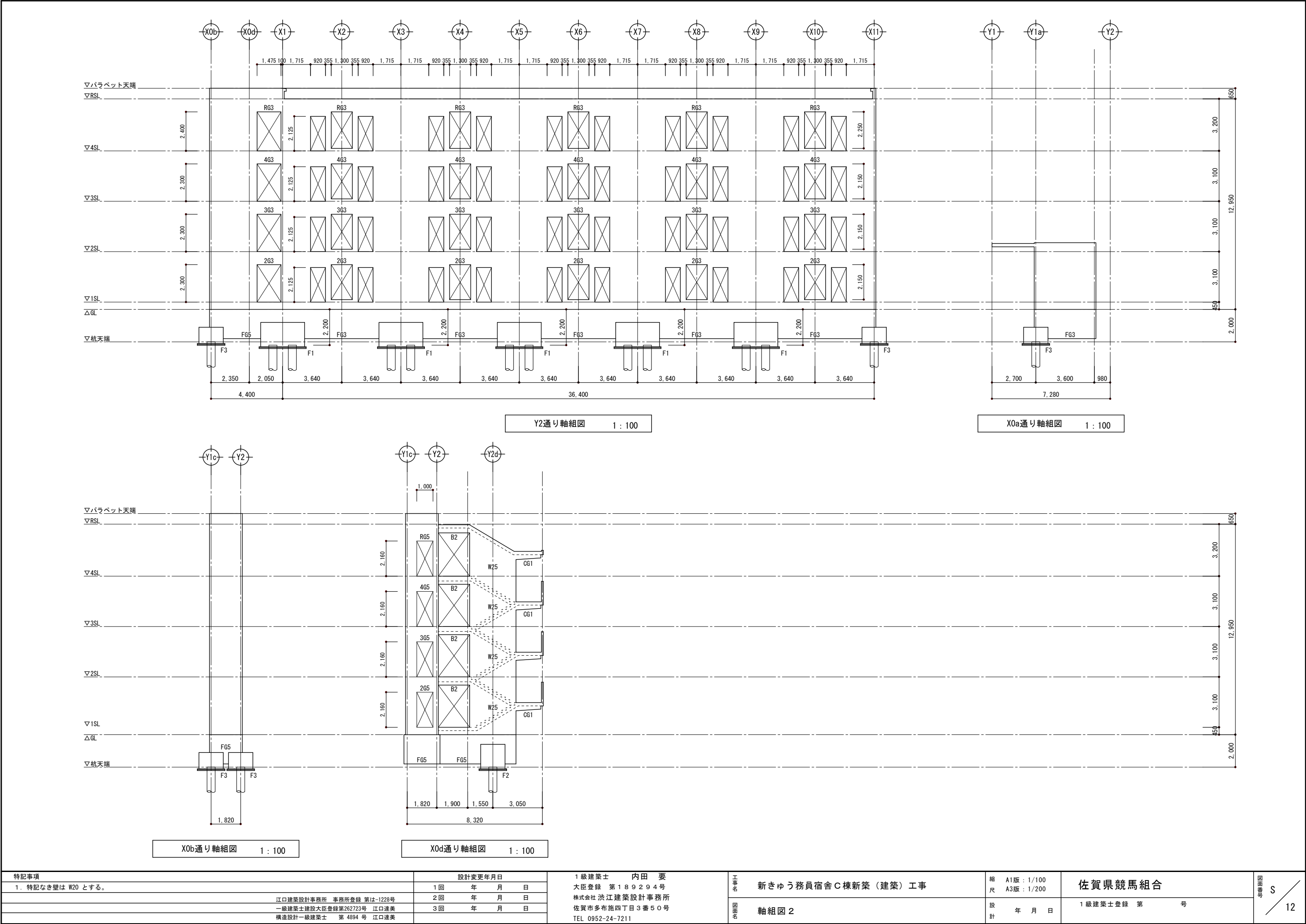
		設計変更年月日		1 級建築士 内田 要 大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号 株式会社 洺江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目 3 番 5 0 号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事  図面名 2・3階床伏図	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200  設計 年 月 日	佐賀県競馬組合  1 級建築士登録 第 号	図面番号 S 09
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美		1 回	年 月 日	2 回	年 月 日	3 回	年 月 日	



特記事項  
1. 特記なき壁は W20 とする。

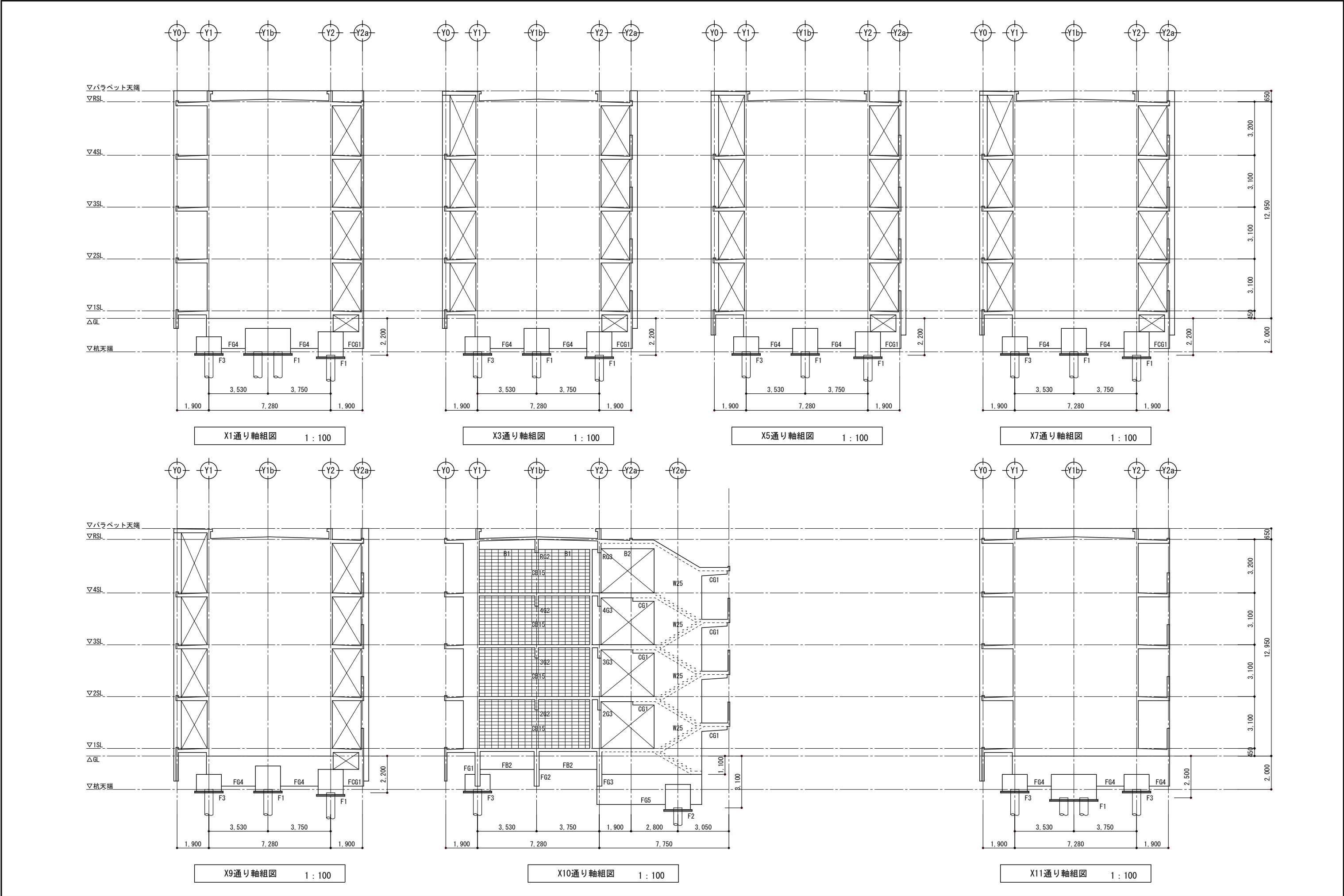
		設計変更年月日		1 級建築士 内田 要 大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号 株式会社 洺江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目 3 番 5 0 号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 S 10
		1 回 年 月 日						
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号		2 回 年 月 日						
一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美		3 回 年 月 日						
構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美								
					図面名 4・R階床伏図	設計 年 月 日	1 級建築士登録 第 号	






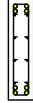


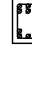




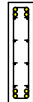


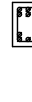




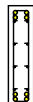
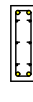






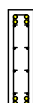
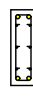









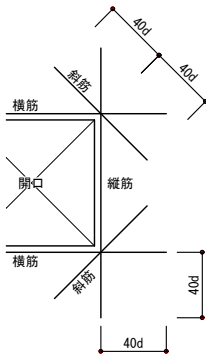
特記事項		設計変更年月日		1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社 浜江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゆう務員宿舎C棟新築（建築）工事  図面名 軸組図 2	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200  設計 年 月 日	佐賀県競馬組合  1級建築士登録 第 号	図面番号 S 12
1. 特記なき壁は W20 とする。		1 回	年 月 日					
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号		2 回	年 月 日					
一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美		3 回	年 月 日					



























































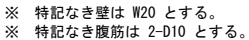


特記事項		設計変更年月日		1級建築士 内田 要		工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/100 A3版：1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 S 13
1. 特記なき壁は W20 とする。		1回 年 月 日		大臣登録 第189294号					
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号		2回 年 月 日		株式会社 渋江建築設計事務所		図面名 軸組図 3	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	
一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美		3回 年 月 日		佐賀市多布施四丁目3番50号					
構造設計一級建築士 第4894号 江口達美				TEL 0952-24-7211					

梁リスト									
※ 巾止め筋 D10@1000以内とする。 ※ 梁貫通補強は認定品を使用し適用範囲であることを確認すること。									
符 号	G1	G2	G3	G4	G5	CG1		B1	B2
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	基 端	先 端	全断面	全断面
RF	断 面								
	B×D	200×800	200×800	200×800	200×800	200×600	250×500	250×350	200×600
	上端筋	2－D16	3－D16	3－D16	4－D16	2－D16	6－D19	6－D19	2－D16
	下端筋	2－D16	3－D16	3－D16	4－D16	2－D16	5－D19	5－D19	2－D16
	スターラップ	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#150		□-D10#200
	腹 筋	8－D10	8－D10	8－D10	8－D10	6－D10	—		2－D10
4F	断 面								
	B×D	200×800	200×800	200×800	200×800	200×600	250×500	250×350	250×500
	上端筋	2－D16	4－D16	4－D16	4－D16	2－D16	6－D19	6－D19	3－D19
	下端筋	2－D16	4－D16	4－D16	4－D16	2－D16	5－D19	5－D19	3－D19
	スターラップ	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#150		□-D10#200
	腹 筋	8－D10	8－D10	8－D10	8－D10	6－D10	—		—
3F	断 面								
	B×D	200×800	200×800	200×800	200×800	200×600	250×500	250×350	250×500
	上端筋	3－D16	3－D19	4－D16	4－D16	2－D16	6－D19	6－D19	3－D19
	下端筋	3－D16	3－D19	4－D16	4－D16	2－D16	5－D19	5－D19	3－D19
	スターラップ	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#150		□-D10#200
	腹 筋	8－D10	8－D10	8－D10	8－D10	6－D10	—		—
2F	断 面								
	B×D	200×800	200×800	200×800	200×800	200×600	250×500	250×350	250×500
	上端筋	3－D16	3－D19	4－D16	4－D16	2－D16	6－D19	6－D19	3－D19
	下端筋	3－D16	3－D19	4－D16	4－D16	2－D16	5－D19	5－D19	3－D19
	スターラップ	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#200	□-D10#150		□-D10#200
	腹 筋	8－D10	8－D10	8－D10	8－D10	6－D10	—		—

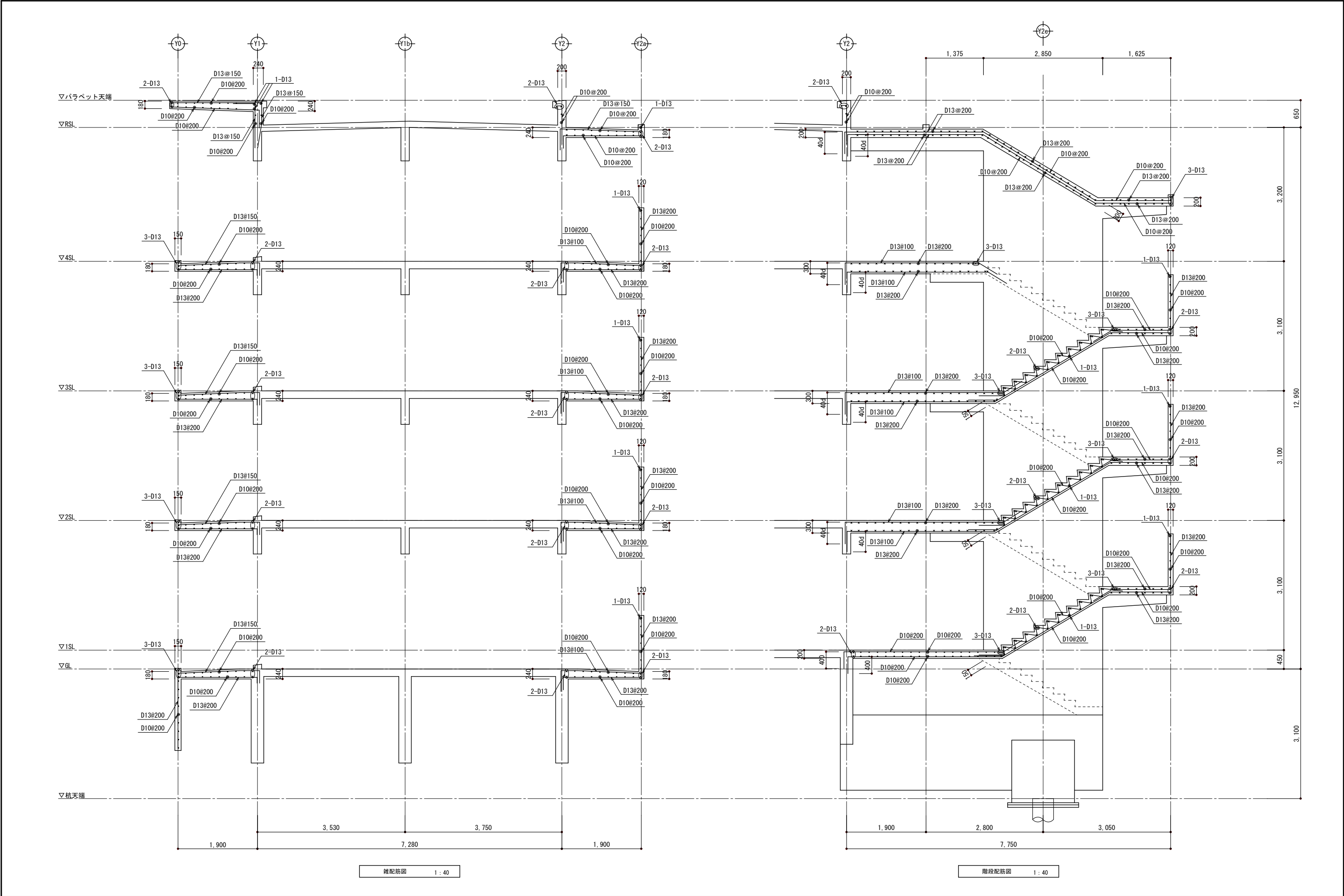
壁リスト					
符 号	W15	W20	W25	CB15	開口補強要領
断 面					
縦 筋	D10 ※ 200 シングル	D10 ※ 200ダブル	D13 ※ 200ダブル	D13 ※ 400 シングル	
横 筋	D10 ※ 200 シングル	D10 ※ 200ダブル	D13 ※ 200ダブル	D10 ※ 400 シングル	
開口補強 (縦筋)	1－D13	2－D16	—	—	
開口補強 (横筋)	1－D13	2－D16	—	—	
開口補強 (斜筋)	1－D10	2－D13	—	—	
端部補強筋	1－D13	2－D16	2－D19	—	

床版リスト							
符 号	スラブ厚	位 置	短 辺 方 向		長 辺 方 向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S 1	150	上端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		
		下端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		
S 2	200	上端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		
		下端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		
S 3	180	上端筋	D13 @ 200		D10 @ 200		
		下端筋	D13 @ 200		D10 @ 200		
S 4	300	上端筋	D13 @ 200		D13 @ 100		
		下端筋	D13 @ 200		D13 @ 100		
S 5	180	上端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		砕石φ100
		下端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		
S 6	200	上端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		砕石φ100
		下端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		
FS 1	250	上端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		捨コンφ50 砕石φ100
		下端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		
CS 1	240~180	上端筋	D13 @ 150		D10 @ 200		
		下端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		
CS 2	200	上端筋	D13 @ 200		D10 @ 200		
		下端筋	D13 @ 200		D10 @ 200		
CS 3	200	上端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		
		下端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		
CS 4	240~180	上端筋	D13 @ 150		D10 @ 200		
		下端筋	D13 @ 200		D10 @ 200		
CS 5	240~180	上端筋	D13 @ 100		D10 @ 200		
		下端筋	D13 @ 200		D10 @ 200		
CS 6	300	上端筋	D13 @ 100		D13 @ 200		
		下端筋	D13 @ 100		D13 @ 200		
CS 7	200	上端筋	D13 @ 200		D13 @ 200		
		下端筋	D10 @ 200		D10 @ 200		



特記事項	設計変更年月日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号	工事名	縮尺	佐賀県競馬組合	<div> <div>図面番号</div> <div>S / 15</div> </div>
	1回 年 月 日		新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	A1版：1/40 A3版：1/80		
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号	2回 年 月 日	株式会社 洪江建築設計事務所				
一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美	3回 年 月 日	佐賀市多布施四丁目3番50号				
構造設計一級建築士 第4894号 江口達美		TEL 0952-24-7211	図面名	設計	1級建築士登録 第 号	





特記事項	設計変更年月日			1 級建築士 内田 要 大臣登録 第 1 8 9 2 9 4 号 株式会社 洺江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目 3 番 5 0 号 TEL 0952-24-7211	工事名 新きゅう務員宿舎C棟新築（建築）工事	縮尺 A1版：1/40 A3版：1/80	佐賀県競馬組合	図面番号 S 17
	1 回 年 月 日							
	2 回 年 月 日				図面名 階段・雑配筋図	設計 年 月 日	1 級建築士登録 第 号	
	3 回 年 月 日							
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美								